



令和4年度

# 事業概況書

ディスクロージャー誌

 Disclosure 2022

## J A 約 領

### わたしたちJAのめざすもの

わたしたちJAの組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則(自主、自立、参加、民主的運営、構成、連帯等)に基づき行動します。そして地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

わたしたちは、

1. 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
1. 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
1. JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
1. 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
1. 協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

## はじめに

日頃、皆さんには格別のご愛顧をいただき厚く御礼申し上げます。

JA長崎せいひは、情報開示を通じて経営の透明性を高めるとともに、当JAに対するご理解を一層深めていただくために、当JAの主な事業の内容や組織概要、経営の内容などについて、利用者のためにわかりやすくまとめたディスクロージャー誌「JA事業概況書2022」を作成いたしました。

皆さまが当JAの事業をさらにご利用いただくための一助として、是非ご一読いただきますようお願い申し上げます。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年7月 長崎西彼農業協同組合

(注) 本冊子は、農業協同組合法第54条の3に基づいて作成したディスクロージャー誌です。

## JAのプロフィール

◇ 正式名称	長崎西彼農業協同組合		
◇ 本店所在地	長崎市興善町6番7号		
◇ 設立	平成17年4月1日		
◇ 組合員数	29,487人（うち正組合員数 8,525人）		
◇ 役員数	30人		
◇ 職員数	602人		
◇ 支店数	13店舗		
◇ 根拠法	農業協同組合法		
◇ 出資金	33億円	◇ 総資産	1,738億円
◇ 資金量	1,573億円	◇ 貸出金	502億円
◇ 長期共済保有高	5,614億円	◇ 購買品供給高・取扱高	52億円
◇ 販売品販売高・取扱高	110億円	※販売品販売高・取扱高には買取販売品販売高・取扱高を含みます。	
◇ 単体自己資本比率	13.84%		

(数値は令和4年3月31日現在)

# 目 次

## ごあいさつ

1. 経営理念	2
2. 経営方針	2
3. 経営管理体制	2
4. 事業の概況（令和3年度）	3
5. 財務・事業成績の推移	7
6. 事業活動のトピックス	8
7. 農業振興活動	10
8. 地域貢献活動	10
9. リスク管理の状況	10
10. 自己資本の状況	14
11. 主な事業の内容	15

## 【経営資料】

### I 決算の状況

1. 貸借対照表	24
2. 損益計算書	26
3. 注記表	28
4. 剰余金処分計算書	48
5. 部門別損益計算書	49

### II 損益の状況

1. 最近の5事業年度の主要な経営指標	50
2. 利益総括表	50
3. 資金運用収支の内訳	51
4. 受取・支払利息の増減額	51

### III 事業の概況

1. 信用事業	52
(1) 賯金に関する指標	52
① 科目別貯金平均残高	52
② 定期貯金残高	52
(2) 貸出金等に関する指標	52
① 科目別貸出金平均残高	52
② 貸出金の金利条件別内訳残高	53
③ 貸出金の担保別内訳残高	53
④ 債務保証の担保別内訳残高	53
⑤ 貸出金の使途別内訳残高	53
⑥ 貸出金の業種別残高	54
⑦ 主要な農業関係の貸出金残高	54
⑧ 農協法に基づく開示債権の状況及び金融再生法開示債権区分に基づく債権の保全状況	56
⑨ 元本補てん契約のある信託に係る農協法に基づく開示債権の状況	56
⑩ 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額	57
⑪ 貸出金償却の額	57

(3) 内国為替取扱実績	59
(4) 有価証券に関する指標	59
① 種類別有価証券平均残高	59
② 商品有価証券種類別平均残高	59
③ 有価証券残存期間別平均残高	59
(5) 有価証券等の時価情報等	59
① 有価証券の時価情報	59
② 金銭の信託の時価情報	59
③ デリバティブ取引、金融等デリバティブ取引、有価証券店頭デリバティブ取引	59
2. 共済取扱実績	60
(1) 長期共済新契約高・長期共済保有高	60
(2) 医療系共済の入院共済金額保有高	60
(3) 介護共済・生活障害共済・特定重度疾病共済の共済金額保有高	61
(4) 年金共済の年金保有高	61
(5) 短期共済新契約高	61
3. 農業関連事業取扱実績	62
(1) 買取購買品（生産資材）取扱実績	62
(2) 受託販売品取扱実績	62
(3) 買取販売品取扱実績	62
(4) その他の農業関連事業実績	62
4. 生活その他事業取扱実績	63
(1) 買取購買品（生活物資）取扱実績	63
(2) 利用事業実績	63
(3) その他生活関連事業実績	63
5. 指導事業	64
IV 経営諸指標	
1. 利益率	64
2. 賯貸率・賸証率	64
3. 職員一人当たり指標	65
4. 一店舗当たり指標	65
V 自己資本の充実の状況	
1. 自己資本の構成に関する事項	66
2. 自己資本の充実度に関する事項	68
3. 信用リスクに関する事項	70
4. 信用リスク削減手法に関する事項	73
5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項	74
6. 証券化エクスポージャーに関する事項	74
7. 出資等エクスポージャーに関する事項	74
8. リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項	75
9. 金利リスクに関する事項	76

## VI 連結情報

1. グループの概況 .....	79
(1) グループの事業系統図 .....	79
(2) 子会社等の状況 .....	79
(3) 連結事業概況（令和3年度） .....	80
(4) 最近5年間の連結事業年度の主要な経営指標 .....	81
(5) 連結貸借対照表 .....	82
(6) 連結損益計算書 .....	84
(7) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	86
(8) 連結注記表 .....	88
(9) 連結剰余金計算書 .....	90
(10) 農協法に基づく開示債権 .....	90
(11) 連結事業年度の事業別経常収益等 .....	91
2. 連結自己資本の充実の状況 .....	91
(1) 自己資本の構成に関する事項 .....	92
(2) 自己資本の充実度に関する事項 .....	94
(3) 信用リスクに関する事項 .....	96
(4) 信用リスク削減手法に関する事項 .....	100
(5) 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項 .....	100
(6) 証券化エクスポートジャヤーに関する事項 .....	100
(7) オペレーション・リスクに関する事項 .....	101
(8) 出資等エクスポートジャヤーに関する事項 .....	101
(9) リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポートジャヤーに関する事項 .....	102
(10) 金利リスクに関する事項 .....	102
3. 財務諸表の正確性等にかかる確認 .....	103

## 【JAの概要】

1. 機構図 .....	104
2. 役員構成（役員一覧） .....	106
3. 会計監査人の名称 .....	107
4. 組合員数 .....	107
5. 組合員組織の状況 .....	108
6. 特定信用事業代理業者の状況 .....	109
7. 地区一覧 .....	109
8. 沿革・あゆみ .....	109
9. 店舗等のご案内 .....	110
10. ATM のご案内 .....	111
法定開示項目掲載ページ一覧 .....	112

## ごあいさつ

組合員をはじめ地域の皆さまには、平素から温かいご支援とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。JAの経営方針、業務内容、活動状況など協同活動の成果を皆さんにご紹介するため「JA事業概況書2022」を作成いたしました。ご覧いただき、当JAに対するご理解をより一層深めていただくとともに、更なるご指導、ご愛顧いただければ幸いに存じます。

一昨年に始まった新型コロナウイルスの感染症拡大が未だ収まらず、私たちの生活や事業にも深刻な影響を及ぼしております。極めて厳しい環境ですが、私たちは力を合わせてこの危機を乗り切っていかなければなりません。

さて、我がJAではこれまで、第5次中期経営計画の実践に取り組んでまいりました。この計画実践において、ハウスリース事業やアグリ未来長崎と担い手支援センター等による担い手育成事業に取り組み、その結果新たな担い手16名が就農し、生産拡大に一定の道筋がみえてきましたが、農業全体の生産量や取扱高の拡大には至っておりません。一方で、農業関連事業の赤字解消に向けた取り組みにおいて、施設の一部集約や販売手数料の引き上げを行うなど組合員の皆さんにご負担をおかけする取り組みもさせていただきました。

昨年までの第5次中期経営計画の反省を踏まえ、やり残した改革も見直して第6次中期経営計画を実践し、より一層組合員・地域の皆さんに選ばれるJA組織となるよう、役職員一丸となって全力を尽くしてまいります。

今後とも更なるご支援、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

長崎西彼農業協同組合  
代表理事組合長 山川重幸

# 1. 経営理念

JA 長崎せいひは、食と農を大切にし、安心と信頼を満たす活動により、豊かな地域社会を確立し、「組合員・地域住民にとってより身近な JA」「人と人のつながりを大切にする JA」を目指します。

「**使命**」 農業を通じて「食」と「農」と「緑」を守り、かけがえのない自然を次世代へ引き継ぎます。

「**共生**」 地域のみなさまとともに生き、地域のみなさまとの共感の中で、心ふれあう地域づくりに取り組みます。

「**貢献**」 高い倫理観と責任感を持ち、地域社会に貢献できる事業と組織づくりを目指します。

# 2. 経営方針

## ◇農業振興と地域社会への貢献

JA 長崎せいひは、「夢と活力のある農業・地域社会」の実現に向け、地域の特性を活かした農業振興と心の豊かさを実感できる生活環境の提供に努めます。

## ◇組合員と利用者の満足度向上

JA 長崎せいひは、JA が提供するサービスの質を高め、組合員と利用者のニーズに応えた、真心のこもった商品・サービスの提供に努めます。

## ◇信頼と期待に応える経営

JA 長崎せいひは、「強靭な経営体質」と「透明感のある組織運営」を構築するため、財務体質の健全性向上に努め、リスク管理態勢の確立とコンプライアンスを重視した職場づくりに取り組みます。

# 3. 経営管理体制

## ◇経営執行体制

当JAは農業者により組織された協同組合であり、正組合員の代表者で構成される「総代会」の決定事項を踏まえ、総代会において選出された理事により構成される「理事会」が業務執行を行っています。また、総代会で選任された監事が理事会の決定や理事の業務執行全般の監査を行っています。

また、信用事業については、専任担当の理事を置くとともに、農業協同組合法第30条に規定する常勤監事及び員外監事を設置し、ガバナンスの強化を図っています。

## 4. 事業の概況（令和3年度）

### 【指導事業】

#### (1) 農産指導

##### 〈概況〉

指導事業については最終年度となる第5次地域農業戦略に基づき営農経済センター毎に進捗状況の確認と振興計画に基づく活動を実践し、営農指導員を基軸に組合員のニーズに応えられるよう生産指導に取り組みました。生産面全般については8月に入り特別警戒警報が発令されるほどの大雨となり農産物全般において生育不良・収量・品質面において大きく影響を受けました。また、ミカンコミバエ種群定着を防ぐため関係機関と連携し、生産部会の協力の下、全部署による防除対策に取り組みました。

##### 〈果樹〉

柑橘については生産量向上対策を行い併せて労働支援を行い集荷率向上を図りました。また、品質向上対策の強化を図り、体質強化等マルチ面積拡大を行いブランド率向上に努めました。その結果、前年を上回るブランド率を確保しましたが、数量には課題が残りました。びわについては開花期のバラつきがあり防除徹底ができなかったことによる「痛み果」の発生率が高く生産管理に課題が残りました。

##### 〈野菜・花卉〉

施設野菜・花卉等については1年を通じた異常気象により生育に大きく影響を受けました。いちごについては定植後の高温推移となり第1果房の前進化による第2果房との谷間となり安定した出荷ができませんでした。ミニトマトは定植後の高温推移で軟弱気味となり初期収量の減収となりました。アスパラガスでは前々年の台風による株の損傷と老齢株の影響で減収となりました。花卉類は計画的な作付けと生産対策により周年を通じて出荷することができました。露地野菜では異常気象の影響により生育不良の圃場が年内出荷分で多く見られました。

##### 〈農家支援〉

農家支援としては世界情勢の影響による生産費高騰対策として施設園芸セーフティーネット構築事業を活用し生産対策に取り組みました。また、代行記帳会の会員拡大と生産安定を図るため生産農家への個別経営診断会を開催し、経営診断に取り組みました。

##### 〈直売所〉

農家相談員より季節ごとの作付け講習会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大により開催できないこともありました。開催できない場合については、直売所で資料等の配布を行い、品揃え対策や数量確保の取り組みを行いました。また、併せて野菜苗の注文取り纏めを実施し、育苗センターと連携し事業拡大にも努めました。

#### (2) 畜産指導

本年度も近代化資金を活用し、肥育素牛導入費のコスト圧縮を図るとともに、各種補助事業へ積極的に取り組みました。長崎西彼地域畜産クラスターでは、取り組み主体となり機械及び繁殖母牛を導入し、管理作業時間の削減・生産性の向上・一貫経営の拡大による生産基盤の維持拡大に努めました。

また、経営不振農家の重点巡回指導体制を継続するため、担当者・支店・関係機関と連携し定期的に個別面談と実績検討会及び管理作業を実施して、経営改善と生産性向上に取り組みました。各部会においては、枝肉共励会・講習会・各種研修会へ参加して、市場性の高い安全・安心が求めら

れる畜産物の生産を再認識し、生産意欲の堅持と部会員の意思統一を図りました。

経営面においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で枝肉相場が不安定な状況が続いており畜産経営は、飼料価格補てん金が発動するなど厳しい経営を強いられる中、飼料費・素畜費の高止まりと高齢化・後継者不足による農家の減少・飼育頭羽数減少への対策と経営継続が困難になる農家への対応が今後の課題となりました。

また、関係機関の支援事業を活用し、管内産和牛の消費拡大事業と耕畜連携事業（堆肥利用拡大事業）に取り組み、肥育牛農家の経営支援を行いました。

## 【販売事業】

### (1) 農産販売

#### 〈概況〉

令和3年度の販売については、消費の変化に即時対応できる販売展開など、共選・共販品目の更なる販売力強化を図るため、市場への品目リレーによる周年供給体制の維持・確立などの諸対策や「長崎せいひブランド」の消費者認知度の向上対策を含んだ宣伝活動に積極的に取り組みました。また、消費地へ駐在派遣し、継続的な販売戦略を実践するとともに、市場を含む仲卸、量販店との連携、積極的な商談会議への参加、クレームの即時対応など、消費地と産地の橋渡し役として有利販売に一定の効果を上げることができました。

#### 〈果樹〉

温州みかんなどについては極早生終盤の糖度不足の状況と一般消費の落ち込みなども重なり、10月下旬から11月上旬にかけては全国的に苦しい販売展開になりましたが、表年の生産状況にもかかわらず11月中旬以降の販売環境については品質に恵まれたことや計画的な荷受出荷で概ね堅調に推移しました。その結果、温州みかんでは、販売取扱数量が計画を若干下回り、販売取扱量9,526t（計画対比91%）、販売取扱高20.6億円（計画対比101%）となりました。

ハウスびわでは生産面積の減少と収穫期において高温傾向で推移したことによる障害果が発生し、露地びわでも高温被害及び長雨の影響により被害果が発生しました。その結果、ハウスびわで販売取扱量122t（計画対比87%）、販売取扱高2.5億円（計画対比96%）、露地びわで販売取扱量303t（計画対比65%）、販売取扱高3.5億円（計画対比81%）、の結果となりました。ハウス・露地びわについては新型コロナウイルス感染症が蔓延する中で概ね堅調な販売となりましたが、例年安定出荷の面で次年産以降に課題を残す結果となりました。

#### 〈野菜〉

施設野菜では、主力品目のいちごについては一部地域の育苗期の悪条件により数量などが落ち込む予想のなか、1月以降の厳しい冷え込みから当初の予想数量よりも更に落ち込む結果となりました。また、出荷時期に他主力産地と競合することが見受けられ、販売単価についても昨年より苦戦し、販売取扱量816t（計画対比93%）、販売取扱高10.5億円（計画対比101%）という結果になりました。アスパラガスは、全国的に出荷の分散ができなかったことや、出荷時期が集中し販売取扱量が浮き沈みしたことで単価の乱高下を繰り返し、販売取扱量161t（計画対比95%）、販売取扱高1.4億円（計画対比80%）となりました。トマトは、全国的な生産量の増加と出荷時期の好天にも恵まれ流通数量が多くなったことや、末端消費の落ち込みもありシーズンを通して不安定な相場展開で推移し、販売取扱量362t（計画対比91%）、販売取扱高1.7億円（計画対比86%）となりました。

露地野菜では、全国的な秋冬の冷え込みによる時期別の出荷数量が減少したことにより、ブロッコリーを含む葉菜類、瓜類等が全国的に遅れたことで時期別での供給過多の状況となり、時期に

おいては昨年よりも安値基調で単価は推移しましたが、ブロッコリーなどの一部商材については昨年同様に契約販売などに積極的に取り組んだ結果、概ね安定的に推移しました。また、馬鈴薯などの土ものについては一時的な気象要因により全国的な出荷数量が落込んだことにより取引価格についてはシーズンを通じて概ね堅調に推移しました。

#### 〈花卉〉

花卉では、昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響により冠婚葬祭やイベント等の自肃傾向も重なり一部の商品においては消費が落ち込みましたが、全体的に堅調な相場展開で推移したことから、販売取扱量 3,318 千本（計画対比 91%）、販売取扱額 2.5 億円（計画対比 105%）となりました。

#### 〈直売所〉

令和 3 年度の販売取扱実績は、委託・買取合わせて 16.4 億円（前年対比 93.7%）となりました。本年度は、天候不順による委託品の減少や、盆にかけて豪雨など繁忙期に悪天候の年となり販売取扱額を伸ばすことができませんでした。さらに、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により来客数を伸ばすことができず前年を下回る結果となりました。

### (2) 畜産販売

本年度は、国・県・市町と関係諸団体が実施する消費拡大事業・流通対策等の取り組み継続により、枝肉相場と子牛相場が堅調に推移し、畜産物販売取扱高は 36.8 億円の計画に対し 40.7 億円（計画対比 110.5%）の実績となりました。肉牛販売では、計画的な出荷体制と粘り強い相対販売交渉の結果、出荷頭数 2,186 頭（計画対比 102.3%）、販売取扱高 26.4 億円（計画対比 117.8%）で計画を上回ることができました。子牛販売では、枝肉相場の安定した価格にて推移したものの出荷頭数 354 頭（計画対比 98.3%）、販売取扱高 2.2 億円（計画対比 99.0%）となり計画を下回る結果となりました。肉豚販売では、肉豚価格が低調に推移し出荷頭数 34,324 頭（計画対比 99.5%）、販売取扱高 11.9 億円（計画対比 98.7%）となり計画を下回る結果となりました。鶏卵販売では、昨年度の全国的な鳥インフルエンザ蔓延により、飼育頭羽数の減少にて鶏卵価格が高値にて推移し、結果、74.0 t（計画対比 108.8%）、販売取扱高 0.1 億円（計画対比 140.2%）で計画を上回る結果となりました。

## 【購買事業】

### (1) 生産資材

近年農業を取り巻く環境は、原油価格高騰を始めとした運賃・原料高騰、原料の海外需要増加に伴う輸入量減少、継続的な新型コロナウイルス感染症拡大等付随する影響による大幅な価格高騰状態であり、また併せて、農家の高齢化・後継者不足による面積減少及び需要低下など深刻で厳しい事業環境が継続しております。

生産資材については、上記に伴う価格高騰や農家の面積減少、ドローン防除普及等影響は発生しているものの、全農と連携した価格据置対策、ハウスリース事業や新規就農者参入、基盤整備事業による面積拡大に比例した関連資材の取扱増加や、営農指導と連携した渉外活動、資材値上に伴う価格高も影響し、取扱高としては前年対比を上回りました。

石油類についても、原油価格急騰の影響が大きく、農家コストは増大したものの取扱高は大幅に増加しました。

その結果、生産資材は計画した取扱高 37 億 910 万円に対し、実績 39 億 2,805 万円で計画対比 107.4%となりました。

## (2) 生活資材

ガス事業については、オール電化や他社切替など顧客数の減少による取扱高は減少し、また世界的な原油価格高騰の影響もあり利益率においても計画未達となり今後も厳しい状況が続くと予想されます。また新事業の「JA でんき」と燃料転換の料金プラン提案推進も取り組んでおりますが、PR不足もあり契約は50件の実績となりました。

Aコープ事業については競合店（コンビニエンスストア）の出店や来店客数の減少もあり、一部の店舗において営業時間の見直しを行ったことにより取扱高は計画を下回りました。

その結果、生活資材取扱高は計画10億4,200万円に対し、実績10億230万円で計画対比96.1%の結果となりました。

## 【福祉事業】

### (1) 葬祭事業

葬祭事業については、新型コロナウイルス感染症拡大による小規模葬の増加、参列者や飲食の機会の減少もありましたが、感染拡大防止に努めながら、安全・安心な葬祭事業の提供とポスティング等のPR強化を積極的に行った結果、前年度実績を上回りました。

## 【信用事業】

令和3年度は第5次中期経営計画の最終年計画を着実に実践するために「持続可能なJAバンク経営基盤の確立・強化」に向けた店舗・ATMの再編を実施し、JAバンクとして事業の効率化に取り組みました。また、組合員、利用者から選ばれ続ける存在を目指し、総合事業の強みを活かし、他事業との連携強化、農業所得の向上支援等でJAバンクとしての存在価値を發揮することで組合員・利用者の満足度の向上に努めてきました。

貯金につきましては、「集まる貯金」によるメイン化口座の拡大を図りましたが、年度末残高目標1,600億円の目標に対し1,573億円の実績となり、達成率98.3%となりました。

また、貸出金については、畜産関係による近代化資金・住宅ローン・ネット申込み、共済代理店紹介によるマイカーローンの実行が順調に推移し、50億円の新規実行があったものの、年度末残高510億円の計画に対し502億円の実績となり、達成率で98.5%となりました。

## 【共済事業】

### (1) 長期共済

令和3年度の長期共済（生命・建物）新契約高推進実績においては、役職員一丸となり積極的に推進を行いましたが1,016万ポイントの計画に対し820万ポイントの実績となりました。また、長期保有高においては、満期到来等もあり5,862億円の期首保有高に対し、期末保有高は5,614億円で、248億円の減少となりました。

### (2) 短期共済

令和3年度の自動車共済は、計画967万ポイントに対し実績816万ポイント達成率84.3%であり、自賠責共済は、計画170万ポイントに対して、実績168万ポイント、達成率で99.5%でした。また、自動車共済掛金は、計画13億678万円に対し、実績11億1,547万円、達成率83.9%でした。

## 5. 財務・事業成績の推移

(単位：百万円)

区分	項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
財務	事業利益	127	60	133	158
	経常利益	348	359	342	464
	当期剰余金	△198	174	305	524
	総資産	168,641	167,976	174,842	173,831
	純資産	11,589	11,656	11,885	12,334
	単体自己資本比率	13.43%	13.49%	13.39%	13.84%
信用事業	貯金	153,332	152,607	158,669	157,344
	預金	96,337	95,194	101,669	99,049
	貸出金	48,136	49,201	49,110	50,221
	有価証券	－	－	－	－
	国債	－	－	－	－
	その他	－	－	－	－
共済事業	長期共済保有高	628,552	604,981	586,251	561,430
	短期共済新契約掛金	1,492	1,489	1,406	1,379
購買事業	購買品供給高・取扱高	5,340	5,060	4,991	5,225
販売事業	販売品販売高・取扱高	11,620	11,585	10,813	11,004

## 6. 事業活動のトピックス（令和3年度）

- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| ◇4月1日 入組式・辞令交付式          | ◇7月6日 第5回定例理事会            |
| ◇4月9日 ライフアドバイザー総決起大会     | 第6回監事會                    |
| ◇4月15日 令和2年度期末監事監査(～28日) | ◇7月26日 第6回定例理事会           |
| ◇4月28日 第1回定例理事会          | 第7回監事會                    |
| 第1回監事會                   |                           |
|                          | ◇8月2日 辞令交付式               |
| ◇5月17日 みのり監査法人期末監査(～24日) | ◇8月6日 長崎ハウスびわ部会通常総代会      |
| ◇5月21日 第2回監事會            | ◇8月11日 長崎びわ産地活性化推進協議会通常総会 |
| 常勤理事と監事との協議会             |                           |
| ◇5月24日 第3回監事會            | ◇8月17日 県条例検査(～9月2日)       |
| ◇5月25日 第2回定例理事会          | ◇8月25日 第2回総務委員会           |
| 第1回総務委員会                 | ◇8月27日 第2回金融共済委員会         |
| 第1回債権管理委員会               |                           |
| 第1回金融共済委員会               | ◇9月13日 第7回定例理事会           |
| ◇5月27日 学童傘贈呈(6月3日)       | 第8回監事會                    |
|                          | 第1回理事協議会                  |
| ◇6月3日 第3回定例理事会           | ◇9月14日 長崎びわ部会通常総代会        |
| 第4回監事會                   | 第9回監事會                    |
| ◇6月8日 ベストパートナー制度トレーナー任命式 | ◇9月15日 みのり監査法人期中監査(～22日)  |
| ◇6月25日 第16回通常総代会         | ◇9月27日 第8回定例理事会           |
| 第4回臨時理事会                 |                           |
| 第5回監事會                   |                           |



LA総決起大会



学童傘贈呈（西海市）



第16回通常総代会

- |   |  |
|---|--|
| ◇10月 1日 辞令交付式                                 | ◇1月 5日 新春祈願・仕事始め式                        |
| ◇10月 4日 みのり監査法人期中監査(～8日)                      | ◇1月12日 移動販売車出発式                          |
| ◇10月 5日 長崎地区肥育牛部会畜魂慰靈祭                        | ◇1月18日 みのり監査法人期中監査(～28日)                 |
| ◇10月 6日 JA長崎せいひ家の光大会<br>(12日、20日)             | ◇1月26日 第1回融資審査委員会(WEB)<br>第12回定例理事会(WEB) |
| ◇10月15日 令和2年度期中監事監査(～27日)                     |  |
| ◇10月22日 第3回金融共済委員会                            | ◇2月25日 第13回定例理事会                         |
| ◇10月27日 第3回総務委員会<br>第9回定例理事会                  | AGRI+(プラス)グランドオープン                       |
| ◇11月 2日 北部地区畜産部会合同畜魂祭                         | ◇3月 7日 みのり監査法人期中監査(～11日)                 |
| ◇11月 8日 第1回営農経済委員会<br>第2回理事協議会                | ◇3月10日 第3回営農経済委員会                        |
| ◇11月 9日 第10回監事会                               | ◇3月14日 第4回金融共済委員会<br>第4回総務委員会            |
| ◇11月15日 みのり監査法人期中監査(～19日)                     | ◇3月15日 第3回理事協議会<br>第12回監事会               |
| ◇11月19日 常勤理事と監事との協議会<br>第2回営農経済委員会<br>第11回監事会 | ◇3月22日 令和3年度リスク管理委員会                     |
| ◇11月20日 JA長崎せいひ地域貢献(一斉清掃)活動                   | ◇3月24日 総務・債権管理合同委員会<br>第14回定例理事会         |
| ◇11月26日 第10回定例理事会                             | ◇3月29日 退職辞令交付式                           |
| ◇12月15日 コンプライアンスの日研修会                         | ◇3月31日 みのり監査法人期末棚卸監査                     |
| ◇12月17日 第11回定例理事会<br>第2回債権管理委員会               |  |



地域貢献活動



令和3年度コンプライアンスの日



AGRI+ (プラス)

## 7. 農業振興活動

- ◇ 安全・安心な農産物づくりへの取り組み  
(生産履歴記帳運動・ポジティブリスト制度への対応など)
- ◇ 担い手の経営のライフステージに応じた支援
- ◇ 小学生を対象とした農業体験学習
- ◇ 農業関連融資の活用
- ◇ 農業祭の開催、地産地消・食育の取り組みなど

## 8. 地域貢献活動

- ◇ 学校給食への地元農産物の提供
- ◇ 女性部組織による元気高齢者食事サービス
- ◇ 地域環境保全活動（国道沿いの花植え、廃ビニール回収）
- ◇ 地元食材を使った料理教室、試食会、レシピ配布

## 9. リスク管理の状況

### ◇リスク管理体制

#### [リスク管理基本方針]

組合員・利用者の皆さんに安心してJAをご利用いただくためには、より健全性の高い経営を確保し、信頼性を高めていくことが重要です。

このため、有効な内部管理態勢を構築し、直面する様々なリスクに適切に対応すべく「リスク管理基本方針」を策定し、認識すべきリスクの種類や管理体制と仕組みなど、リスク管理の基本的な体系を整備しています。

また、この基本方針に基づき、収益とリスクの適切な管理、適切な資産自己査定の実施などを通じてリスク管理体制の充実・強化に努めています。

### ① 信用リスク管理

信用リスクとは、信用供与先の財務状況の悪化等により、資産（オフ・バランスを含む。）の価値が減少ないし消失し、金融機関が損失を被るリスクのことです。当JAは、個別の重要案件又は大口案件について理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本店に審査室を設置し各支店と連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行ってています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取り組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「債権の償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。

## ② 市場リスク管理

市場リスクとは、金利、為替、株式等の様々な市場のリスク・ファクターの変動により、資産・負債（オフ・バランスを含む。）の価値が変動し、損失を被るリスク、資産・負債から生み出される収益が変動し損失を被るリスクのことです。主に金利リスク、価格変動リスクなどをいいます。金利リスクとは、金利変動に伴い損失を被るリスクで、資産と負債の金利又は期間のミスマッチが存在している中で金利が変動することにより、利益が低下ないし損失を被るリスクをいいます。また、価格変動リスクとは、有価証券等の価格の変動に伴って資産価格が減少するリスクのことです。

当JAでは、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。

とりわけ、有価証券運用については、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及び当JAの保有有価証券ポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会において運用方針を定めるとともに、経営層で構成するALM委員会を定期的に開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。運用部門は、理事会で決定した運用方針及びALM委員会で決定された方針などに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引についてはリスク管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的にリスク量の測定を行い経営層に報告しています。

## ③ 流動性リスク管理

流動性リスクとは、運用と調達のミスマッチや予期せぬ資金の流出により、必要な資金確保が困難になる、又は通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスク（資金繰りリスク）及び市場の混乱等により市場において取引ができないため、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされることにより損失を被るリスク（市場流動性リスク）のことです。

当JAでは、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置づけ、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

## ④ オペレーション・リスク管理

オペレーション・リスクとは、業務の過程、役職員の活動もしくは、システムが不適切であること又は外生的な事象による損失を被るリスクのことです。

当JAでは、収益発生を意図し能動的な要因により発生する信用リスクや市場リスク及び流動性リスク以外のリスクで、受動的に発生する事務、システム、法務などについて事務処理や業務運営の過程において、損失を被るリスクと定義しています。

事務リスク、システムリスクなどについて、事務手続にかかる各種規程を理事会で定め、その有効性について内部監査や監事監査の対象とともに、事故・事務ミスが発生した場合は速やか

に状況を把握して理事会に報告をする体制を整備して、リスク発生後の対応及び改善が迅速・正確に反映ができるよう努めています。

## ⑤ 事務リスク管理

事務リスクとは、役職員が正確な事務を怠る、あるいは事故・不正等を起こすことにより金融機関が損失を被るリスクのことです。当JAでは、業務の多様化や事務量の増加に対応して、正確な事務処理を行うため事務マニュアルを整備するとともに、自主検査・自店検査を実施し事務リスクの削減に努めています。また、事故・事務ミスが発生した場合には、発生状況を把握し改善を図るとともに、内部監査により重点的なチェックを行い、再発防止策を実施しています。

## ⑥ システムリスク管理

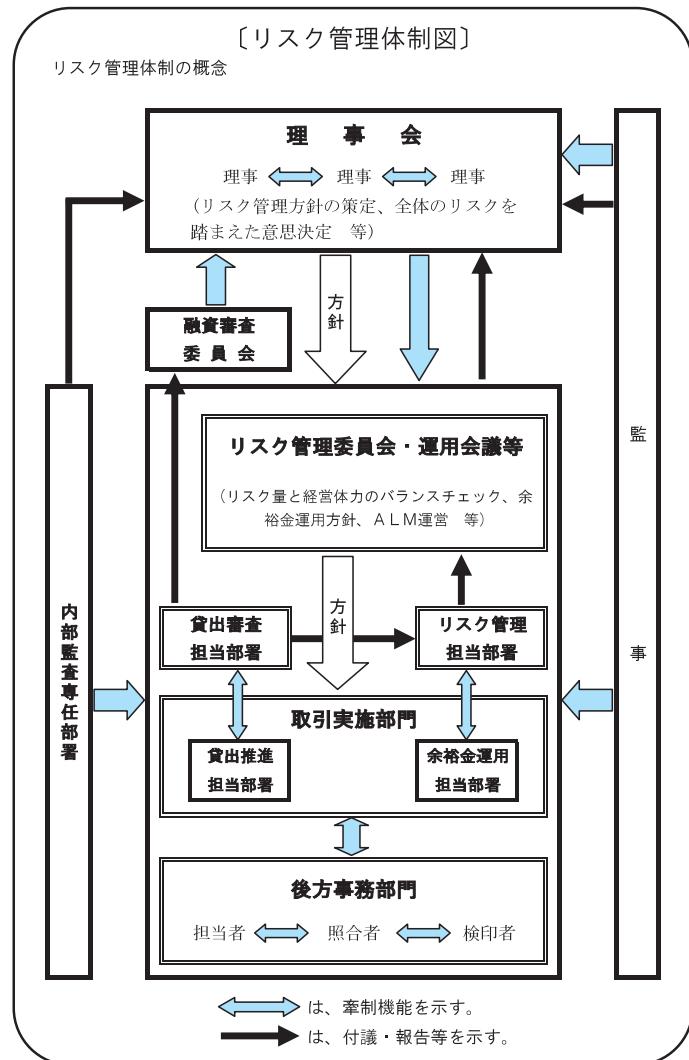
システムリスクとは、コンピュータシステムのダウン又は誤作動等、システムの不備に伴い金融機関が損失を被るリスク、さらにコンピュータが不正に使用されることにより金融機関が損失を被るリスクのことです。当JAでは、コンピュータシステムの安定稼働のため、安全かつ円滑な運用に努めるとともに、システムの万一の災害・障害等に備え、「システムリスク管理マニュアル」を策定しています。

## ◇法令遵守体制

### [コンプライアンス基本方針]

利用者保護への社会的要請が高まっており、また最近の企業不祥事に対する社会の厳しい批判に鑑みれば、組合員・利用者からの信頼を得るために、法令等を遵守し、透明性の高い経営を行うことがますます重要になっています。

このため、コンプライアンス（法令等遵守）を経営の重要課題のひとつとして位置づけ、この徹底こそが不祥事を未然に防止し、ひいては組織の信頼性向上に繋がるとの観点にたち、コンプライアンスを重視した経営に取り組みます。



## [コンプライアンス運営体制]

コンプライアンス体制全般にかかる検討・審議を行うため、代表理事組合長を委員長とするコンプライアンス委員会を設置するとともに、コンプライアンスの醸成のため、本店各部門・各支店にコンプライアンス担当者を設置しています。

基本姿勢及び遵守すべき事項を記載した手引書「コンプライアンス・マニュアル」を策定し、研修会を行い全役職員に徹底しています。

毎年度、コンプライアンス・プログラムを策定し、実効ある推進に努めるとともに、統括部署を設置し、その進捗管理を行っています。

## ◇金融 ADR 制度等への対応

### ① 苦情処理措置の内容

当JAでは、苦情処理措置として、業務運営体制・内部規則等を整備のうえ、その内容をホームページ・チラシ等で公表するとともに、JAバンク相談所やJA共済連とも連携し、迅速かつ適切な対応に努め、苦情等の解決を図ります。

当JAの苦情等受付窓口（電話：本店金融共済部 095-825-5609（信用事業）095-825-5606（共済事業）<月～金 午前9時～午後5時>）

### ② 紛争解決措置の内容

当JAでは、紛争解決措置として、次の外部機関を利用しています。

#### ・信用事業

福岡県弁護士会紛争解決センター（電話：天神センター 092-741-3208、北九州センター 093-561-0360、久留米センター 0942-30-0144）

① 窓口または一般社団法人JAバンク相談所（電話：03-6837-1359）にお申し出ください。

なお、福岡県弁護士会に直接紛争解決をお申し立ていただくことも可能です。

#### ・共済事業

(一社)日本共済協会 共済相談所（電話：03-5368-5757）

<https://www.jcia.or.jp/advisory/index.html>

(一財)自賠責保険・共済紛争処理機構

<http://www.jibai-adr.or.jp/>

(公財)日弁連交通事故相談センター

<https://n-tacc.or.jp/>

(公財)交通事故紛争処理センター

<https://www.jcstad.or.jp/>

日本弁護士連合会 弁護士費用保険ADR

<https://www.nichibenren.or.jp/activity/resolution/lac.html>

各機関の連絡先（住所・電話番号）につきましては、上記ホームページをご覧いただくか、①の窓口にお問い合わせください。

## ◇内部監査体制

当JAでは、内部監査部門を被監査部門から独立して設置し、経営全般にわたる管理及び各部門の業務の遂行状況を、内部管理態勢の適切性と有効性の観点から検証・評価し、改善事項の勧告などを通じて業務運営の適切性の維持・改善に努めています。

また、内部監査は、JAの本店・支店のすべてを対象とし、中期及び年度の内部監査計画に基づき実施しています。監査結果は代表理事組合長及び監事に報告したのち被監査部門に通知され、定期的に被監査部門の改善取り組み状況をフォローアップしています。また、監査結果の概要を定期的に理事会に報告することとしていますが、特に重要な事項については、直ちに理事会、代表理事組合長、監事に報告し、速やかに適切な措置を講じています。

## 10. 自己資本の状況

### ◇自己資本比率の状況

当JAでは、多様化するリスクに対応するとともに、組合員や利用者のニーズに応えるため、財務基盤の強化を経営の重要課題として取り組んでいます。内部留保に努めるとともに、不良債権処理及び業務の効率化等に取り組んだ結果、令和4年3月末における自己資本比率は、13.84%となりました。

当JAの自己資本は、組合員の普通出資によっています。

#### ○ 普通出資による資本調達額

項目	内 容
発行主体	長崎西彼農業協同組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本に係る基礎項目に算入した額	10,339百万円（前年度 9,914百万円）

### ◇経営の健全性の確保と自己資本の充実

当JAは、「自己資本比率算出要領」を制定し、適正なプロセスにより正確な自己資本比率を算出して、当JAが抱える信用リスクやオペレーショナル・リスクの管理及びこれらのリスクに対応した十分な自己資本の維持を図るとともに、内部留保の積み増しにより自己資本の充実に努めています。

また、平成19年度から、信用リスク、オペレーショナル・リスク、金利リスクなどの各種リスクを個別の方法で質的または量的に評価し、リスクを総体的に捉え、自己資本と比較・対照し、自己資本充実度を評価することにより、経営の健全性維持・強化を図っております。

## 11. 主な事業の内容

### (1) 主な事業の内容

#### 〔信用事業〕

信用事業は、貯金、貸出、為替などいわゆる銀行業務といわれる内容の業務を行っています。

この信用事業は、JA・信連・農林中金という3段階の組織が有機的に結びつき、「JA バンク」として大きな力を発揮しています。

#### ◇貯金業務

組合員の方はもちろん、地域住民の皆さまや事業主の皆さまからの貯金をお預かりしています。普通貯金、当座貯金、定期貯金、定期積金、総合口座などの各種貯金を目的・期間・金額にあわせてご利用いただいています。

また、公共料金、都道府県税、市町村税、各種料金のお支払い、年金のお受け取り、給与振込等もご利用いただけます。

貯金の種類		預入金額	付利単位	備考			
当座貯金		1円以上	一	無利息			
普通貯金		1円以上	100円	付利最低残高 1,000円 2月、8月利息元加			
通知貯金		5万円以上	1円	据置は7日以上 2日前解約予告			
納税準備貯金		1円以上	100円	付利最低残高 1,000円 利息非課税扱い (租税納付目的外の払戻は利息課税扱い)			
貯蓄 基本 残高 10万円 金利	10万円未満	1円以上	1円	付利最低残高 1,000円 金利は階層毎に設定 2月、8月利息元加 スwingサービス機能			
	10万円以上						
	30万円以上						
	50万円以上						
	100万円以上						
	300万円以上						
	500万円以上						
定期積金		毎回掛金額 1,000円単位	1円	目標式の場合、初回掛金で金額調整 契約期間は6ヶ月以上 120ヶ月以内			
3年未満							
3年以上							
5年超							
期日指定定期		1円以上 300万円 未満	1円	利率は1年毎の複利計算 1年経過後1ヶ月前解約予告			
1年以上							
2年未満							
2年以上							
3年以下							

貯金の種類			預入金額	付利単位	備考
ス ル パ ー 定 期	300万円以上	1ヶ月もの		1円	単利計算 (但し個人の方で3年もの以上は、半年ごとの複利計算とすることができます) 単利型で2年もの以上の場合、1年ごとの中間利払方式
		2ヶ月			
		3ヶ月			
		6ヶ月			
		1年もの	300万円以上		
		2ヶ月			
		3ヶ月			
		4ヶ月			
		5ヶ月			
		7ヶ月			
自由金利型大口定期 1千万円以上	300万円未満	10ヶ月		1円以上	単利計算 2年もの以上の場合、1年ごとの中間利払方式
		1ヶ月もの			
		2ヶ月			
		3ヶ月			
		6ヶ月			
		1年もの	1,000万円以上		
		2ヶ月			
		3ヶ月			
		4ヶ月			
		5ヶ月			
変動金利型定期貯金	1千万円以上	7ヶ月		1円	単利計算 (但し個人の方に限り半年複利とすることができます)
		1年もの	1,000万円以上		
		2ヶ月			
	300万円以上	3ヶ月			
		1年もの	300万円以上		
		2ヶ月			
	300万円未満	3ヶ月			
		1年もの	1円以上		
		2ヶ月			

## ◇貸出業務

農業専門金融機関として、農業の振興を図るための農業関連資金はもとより、組合員の皆さまの生活を豊かにするための生活改善資金等を融資しています。

また、地域金融機関の役割として、地域住民の皆さまの暮らしに必要な資金や、地方公共団体、農業関連産業・地元企業等、農業以外の事業へも必要な資金を貸し出し、農業の振興はもとより、地域社会の発展のために貢献しています。

さらに、株式会社日本政策金融公庫をはじめとする政府系金融機関等の代理貸付、個人向けローンも取り扱っています。

種類	資金用途	期間	貸出金額等
貯金担保貸付	生活資金等	定期貯金・定期積金の満期日	預入金額の範囲内 または掛込済金額
住宅ローン	住宅建築・宅地購入等	3年以上 50年以内	10万円以上、1億円以内
リフォームローン	住宅増改築等	1年以上 20年以内	10万円以上、1,500万円以内
アパートローン	賃貸住宅建設・補修改修等	1年以上 30年以内	100万円以上、4億円以内
マイカーローン	自動車購入・免許取得費等	6ヶ月以上 10年以内	1,000万円以内
フリーローン	生活資金等	6ヶ月以上 10年以内	500万円以内
教育ローン	高校・大学等に要する資金	据置期間を含め 最長15年以内	1,000万円以内
営農資金	農業生産・経営資金等	5年～35年以内	1組合員最高限度以内
共済担保貸付	生活資金等	5年以内 (満期日翌日)	当組合長期共済契約による 規定額
カードローン	生活資金等	1年自動延長	50万円以上、500万円以内
営農ローン	農業経営資金	1年自動延長	300万円以内
営農サポート資金	設備・運転資金	7年～15年以内	個人 3,000万円以内 法人 5,000万円以内

## ◇為替業務

全国のJA・信連・農林中金の店舗を始め、全国の銀行や信用金庫・ゆうちょ銀行などの各店舗と為替網で結び、当JAの窓口を通して全国のどこの金融機関へでも振込・送金や手形・小切手等の取扱が安全・確実・迅速にできます。

## ◇その他の業務及びサービス

当JAでは、コンピュータ・オンラインシステムを利用して、各種自動受取、各種自動支払や事業主の皆さまのための給与振込サービス、自動集金サービスなど取り扱っています。

また、全国のJAでの貯金の出し入れや銀行、信用金庫などでも現金引き出しのできるキャッシュサービスなど、いろいろなサービスに努めています。

種類	特徴
年金自動受取	○一度のお手続きで、自動的に年金がお受け取りになります。 ○JAのキャッシュカードをご利用になれば、全国のJAのほか、銀行、信用金庫・信用組合などの現金自動預入・支払機から現金をお引き出しあげます。
給与振込	○給料袋の受渡しがないので、紛失したり、盗まれたりする心配がなく安全です。 ○当日、あなたの貯金口座へ自動的に入金されていますので、出張中や休暇中でも確実にお受取りできます。 ○給料が振り込まれた日からお利息がつきますので、お得です。
自動支払い	○一回の手続きだけで、電気料金などの公共料金をはじめ、毎月のいろいろなお支払いを、あなたの貯金口座から自動的にお支払いいたします。 ○支払い期日を忘れたり、集金日で外出ができないというような面倒がなくなります。 ○支払の日付け・金額・種類などが通帳に記帳されますので、家計管理に役立ちます。
キャッシュカード	○総合口座か普通貯金口座をお持ちの方なら、どなたでもご利用いただけます。 ○全国の農協のほか、銀行・信用金庫・信用組合などのCD（現金自動支払機）、ATM（現金自動預入払出兼用機）でご利用いただけるので、大変便利です。

## ◇手数料一覧

### (1) 為替手数料・振込手数料

窓口受付	系統金融機関あてのもの	3万円未満 3万円以上	1件につき 1件につき	330円 550円
	他行あてのもの	3万円未満 3万円以上	1件につき 1件につき	605円 770円
	店内・僚店間内の振込	3万円未満 3万円以上	1件につき 1件につき	220円 440円
自動化機器受付	系統金融機関あてのもの	3万円未満 3万円以上	1件につき 1件につき	110円 220円
	他行あてのもの	3万円未満 3万円以上	1件につき 1件につき	330円 550円
	店内・僚店間内の振込	3万円未満 3万円以上	1件につき 1件につき	55円 110円

### (2) 送金手数料

普通 通 扱 い	他行	1件につき	660円
同	系統	1件につき	440円

### (3) 代金取立手数料

当JAの本支店間	無料
同一手形交換所内	1件につき 220円
隔地間	普通
	至急

### (4) その他の手数料

送金・振込の組戻料	1件につき 1,100円
取立手形組戻料	1件につき 1,100円
不渡手形返却料	1件につき 1,100円
	1件につき 1,100円
取立手形店頭手数料	※ただし、1,100円を越える取立経費を要する場合はその実費を徴します。

## 〔共済事業〕

JA 共済は、JA が行う地域密着型の総合事業の一環として、組合員・利用者の皆さまの生命・傷害・家屋・財産を相互扶助によりトータルに保障しています。事業実施当初から生命保障と損害保障の両方を実施しており、個人の日常生活のうえで必要とされるさまざまな保障・ニーズにお応えできます。

JA 共済では、生命・建物・自動車などの各種共済による生活総合保障を展開しています。

### 長期共済の種類（共済期間が5年以上の契約）

終身共済	万一のときはもちろん、ニーズにあわせた特約により保障内容を自由に設計できる確かな生涯保障プランです。
引受緩和型 終身共済	健康に不安がある若年層から中高年層の終身保障ニーズに幅広く対応するため、加入しやすい「手続きが簡便で加入間口の広い」しくみです。
一時払 終身共済 (平28.10)	満期共済金や退職金等の一時金を活用して、万一に備える一生涯の共済です。生存給付特則付一時払終身共済については、生存給付金を生前贈与（暦年贈与）として活用できます。死亡共済金を相続対策に活用できます。
医療共済	病気やケガによる入院・手術を手厚く保障するプランです。日帰り入院からまとまった一時金が受け取れ、入院費用への備えはもちろん、その前後の通院・在宅医療などにも活用できます。一生涯保障や先進医療保障などライフプランに合わせ自由に設計でき、健康祝金を受け取れるプランもあります。
引受緩和型 医療共済	幅広い年齢層の医療保障ニーズに対応し、健康状態に不安がある方でも加入しやすく手続きが簡便なしくみです。
がん共済	悪性新生物または脳腫瘍にかかった場合の入院・手術・放射線治療などを保障する共済です。悪性新生物と診断された時、長期の治療費用をサポートする一時金など、1つの契約で総合的に保障されます。
介護共済	所定の要介護状態になった場合「介護共済金」が支払われる、一生涯の介護保障です。公的介護保険制度に連動し、要介護2～5まで、幅広い要介護状態を保障します。またJA独自の基準で重度要介護状態を設定しており、公的介護保険の認定を受けられない場合も保障できるケースがあります。
一時払 介護共済	満期共済金や退職金等の一時金を活用して、一生涯にわたって介護の不安に備えることができる共済です。公的介護保険制度に定める要介護2～5に認定されたこと、または、所定の重度要介護状態になったことを支払時由としており、わかりやすくまた幅広い介護保障となっています。 死亡時においても一時払共済掛金に相当する額を保障します。
生活障害共済	身体の障害（1級～4級までの身体障害者手帳交付）による経済的な損失に備える保障です。性質の異なる経済的な損失に備えられるよう、「一時金型」と「定期年金型」の2タイプがあります。なお、掛金負担を抑えるために、死亡保障・返戻金は設定していません。
特定重度 疾病共済	三大疾病（がん・急性心筋梗塞・脳卒中）に加えて、三大疾病以外の「心・血管疾患」や「脳血管疾患」、さらには「その他の生活習慣病」まで幅広く保障します。
予定利率変動型 年金共済	老後の生活資金準備のためのプランです。医師の診断なしの簡単な手続きでご加入できます。また、最低保証予定利率が設定されているので安心です。
養老生命共済	万一のときの保障と、将来の資金づくりを両立させたプランです。
認知症共済	認知症はもちろん、認知症の前段階の軽度認知障害（MCI）まで幅広く保障します。
こども共済	お子様の入学資金や結婚・独立資金の準備に最適なプランです。ご契約者（親）が万一のときは、それ以降の共済掛金の払込が不要のうえ、学資金と満期共済金が支払われます。また、毎年養育年金を受け取れるプランもあります。
建物更生共済	火災はもちろん、地震や台風などの自然災害も幅広く保障します。また、満期共済金は、建物の新築・増改築や家財の買替資金としてご活用いただけます。

※上記の表で「万一のとき」とは、死亡、第1級後遺障害の状態または所定の重度要介護状態に該当したときをいいます。

※上記の共済は、所定の要件を満たす場合、共済掛金が所得税・住民税の所得控除の対象となります。

※このほかにも、国民年金基金、退職年金共済などがあります。

## 短期共済の種類（共済期間が5年未満の契約）

自動車共済	相手方への対人・対物賠償保障をはじめ、ご自身・ご家族のための生涯保障、車両保障など、万一の自動車事故を幅広く保障します。
自賠責共済	法律で全ての自動車加入が義務付けられています。人身事故の被害者への賠償責任を保障します。
傷害共済	日常のさまざまな災害による万一のときや負傷を保障します。（※）
賠償責任共済	日常生活・業務中に生じた損害賠償責任などを保障します。（※）
団体定期生命共済	団体の福利厚生制度としてご活用いただけます。
火災共済	住まいの火災損害を保障します。（※）
団体建物火災共済	団体の建更・動産の損害を総合的に保障します。
JA安心俱楽部	幅広い補償あなたの日常生活をサポートする傷害保険です。（共栄火災海上保険）

（※）は、所定の要件を満たす場合、共済掛金が所得税・住民税の所得控除の対象となります。

ニーズにあわせて特約や特則が選べます。（生命共済の場合）

- 災害や病気による死亡・後遺障害・生前保障を増やしたい方に

定期特約、更新型定期特約、遞減定期特約、生活保障特約、災害給付特約、災害死亡割増特約、家族収入保障特約、生前給付特約、共済金割増支払特則

- 医療保障をより充実させたいという方に

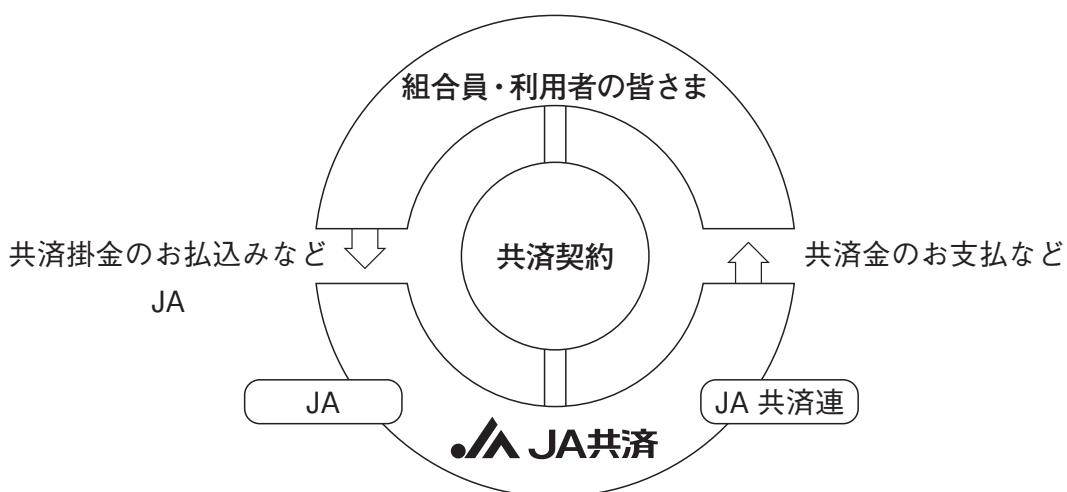
特定損傷特約、がん重点保障特則

- 契約期間中に中途給付金などを受け取りたいという方に

中途給付特則

## ◇ JA 共済は、JAとJA共済連が共同で共済契約をお引き受けしています。

組合員・利用者の皆さんとJA共済は、「信頼関係・安心感・身近さ」でつながっています。



J A : JA 共済の窓口です。

JA 共済連：JA 共済事業の企画・開発・資産運用業務や支払共済金にかかる準備金の積み立てなどを行っています。

## 〔農業関連事業〕

### ◇販売事業

生産者から消費者へ新鮮で安心・安全な農畜産物をお届けする事業を行っています。生産者が生産した農畜産物を市場に出荷するほか、当JA管内において生産された米、野菜、果樹等から特に選りすぐったものをブランドとして認証しています。また、「地産地消」の取り組みとして、管内数ヶ所に直売所を展開し、消費者に直接、農家が持ち寄った地元でとれた農産物の提供を行っています。

### ◇購買事業

生産資材店舗では、農産物の種子類、肥料、農薬、飼料、園芸資材等を供給しています。農産物を出荷している農家向けの商品だけではなく、家庭菜園向けの品物も取り揃えています。同時に営農指導員が野菜づくりのアドバイスも行っています。また、農機具修理については、農機センターより迅速に出張修理を行います。そして、営農経済専門担当者により、農家・生産者に対し訪問活動を実施しております。

## 〔営農・生活相談事業〕

### ◇営農指導相談

### ◇くらしの相談

### ◇健康づくり

## 〔生活関連事業〕

### ◇葬祭事業

JA葬祭センターにて24時間体制で対応しております。葬祭場は6ヶ所あり、同様に自宅葬も賜っております。組合員・利用者のニーズに合った真心のこもったサービスの提供を心がけております。

### 【受付】

中央葬祭センター 西彼杵郡時津町久留里郷1439番地1 095-881-2400

西彼葬祭センター 西海市西彼町小迎郷2849番地1 0959-28-1313

### 【斎場】

さくら会館 中央 西彼杵郡時津町日並郷1320番地121 095-881-2400

さくら会館 長与 西彼杵郡長与町高田郷3807番地4 095-840-5224

さくら会館 三重 長崎市多良町1551番地11 095-840-1000

さくら会館 西彼 西海市西彼町小迎郷2812番地2 0959-28-0085

さくら会館 大崎 西海市大島町1918番地11 0959-34-5544

さくら会館 茂木 長崎市茂木町1274-1 095-836-3366

### ◇その他

- ・A コープ
- ・自動車整備
- ・JA - SS
- ・ガス事業 など。

## (2) 系統セーフティネット（貯金者保護の取り組み）

当JAの貯金は、JAバンク独自の制度である「破綻未然防止システム」と公的制度である「貯金保険制度（農水産業協同組合貯金保険制度）」との2重のセーフティネットで守られています。

### ◇ 「JAバンクシステム」の仕組み

組合員・利用者から一層信頼され利用される信用事業を確立するために、「再編強化法（農林中央金庫及び特定農水産業協同組合等による信用事業の再編及び強化に関する法律）」に則り、JAバンク会員（JA・信連・農林中金）総意のもと「JAバンク基本方針」に基づき、JA・信連・農林中金が一体的に取り組む仕組みを「JAバンクシステム」といいます。

「JAバンクシステム」は、JAバンクの信頼性を確保する「破綻防止システム」とスケールメリットときめ細かい顧客接点を生かした金融サービスの提供の充実・強化を目指す「一体的事業運営」の2つの柱で成り立っています。

### ◇ 「破綻未然防止システム」の機能

「破綻未然防止システム」は、JAバンクの健全性を確保し、JA等の経営破綻を未然に防止するためのJAバンクの独自の制度です。具体的には、(1)個々のJA等の経営状況についてチェック（モニタリング）を行い、問題点を早期に発見、(2)経営破綻に至らないよう、早め早めに経営改善等を実施、(3)全国のJAバンクが拠出した「JAバンク支援基金※」等を活用し、個々のJAの経営健全性維持のために必要な資本注入などの支援を行います。

※ 2021年3月末における残高は1,652億円となっております。

### ◇ 「一体的な事業推進」の実施

良質で高度な金融サービスを提供するため、JAバンクとして商品開発力・提案力の強化、共同運営システムの利用、全国統一のJAバンクブランドの確立等の一体的な事業推進の取り組みをしています。

### ◇ 貯金保険制度

貯金保険制度とは、農水産業協同組合が貯金などの払い戻しができなくなった場合などに、貯金者を保護し、また資金決済の確保を図ることによって、信用秩序の維持に資することを目的とする制度で、銀行、信金、信組、労金などが加入する「預金保険制度」と同様な制度です。

なお、この制度を運営する貯金保険機構（農水産協同組合貯金保険機構）の責任準備金残高は、2021年3月末現在で4,522億円となっています。



# 【経営資料】

## I 決算の状況

### 1. 貸借対照表

(単位:千円)

科 目	令和2年度 (令和3年3月31日)	令和3年度 (令和4年3月31日)
( 資 産 の 部 )		
<b>1 信用事業資産</b>	<b>151,636,487</b>	<b>150,249,367</b>
(1) 現 金	976,647	1,069,187
(2) 預 金	101,669,131	99,048,797
系統預金	101,422,315	98,938,531
系統外預金	246,816	110,265
(3) 貸 出 金	49,109,816	50,221,092
(4) その他の信用事業資産	106,997	92,953
未収収益	93,731	83,400
その他の資産	13,266	9,552
(5) 貸倒引当金	△ 226,104	△ 182,662
<b>2 共済事業資産</b>	<b>6,197</b>	<b>1,497</b>
(1) 共済貸付金	0	0
(2) 共済未収利息	0	0
(3) その他の共済事業資産	6,202	1,497
(4) 貸倒引当金	△ 5	0
<b>3 経済事業資産</b>	<b>2,696,777</b>	<b>3,111,187</b>
(1) 経済事業未収金	1,330,199	1,424,892
(2) 経済受託債権	152,450	133,683
(3) 棚卸資産	352,795	398,679
購買品	295,288	331,968
諸材料	56,846	66,451
その他の棚卸資産	661	259
(4) その他の経済事業資産	922,748	1,241,764
預託家畜	768,883	1,044,611
その他の経済事業資産	153,865	197,152
(5) 貸倒引当金	△ 61,415	△ 87,831
<b>4 雜 資 産</b>	<b>635,197</b>	<b>532,801</b>
(1) 雜資産	635,272	533,319
(2) 貸倒引当金	△ 74	△ 517
<b>5 固定資産</b>	<b>8,841,622</b>	<b>8,924,154</b>
(1) 有形固定資産	8,819,300	8,904,967
建 物	7,630,918	7,796,923
リース資産	89,040	89,040
機械装置	2,112,994	1,858,030
土 地	5,936,296	6,184,518
その他有形固定資産	2,878,580	3,059,580
減価償却累計額	△ 9,828,528	△ 10,083,126
(2) 無形固定資産	22,322	19,187
<b>6 外部出資</b>	<b>11,010,193</b>	<b>10,927,152</b>
(1) 外部出資	11,010,193	10,927,152
系統出資	10,025,943	10,025,943
系統外出資	899,450	816,409
子会社等出資	84,800	84,800
(2) 外部出資等損失引当金	0	0
<b>7 繰延税金資産</b>	<b>15,293</b>	<b>84,358</b>
<b>資 産 の 部 合 計</b>	<b>174,841,766</b>	<b>173,830,516</b>

(単位：千円)

科 目	令和2年度 (令和3年3月31日)	令和3年度 (令和4年3月31日)
<b>( 負 債 の 部 )</b>		
<b>1 信用事業負債</b>	<b>159,510,733</b>	<b>158,304,110</b>
(1) 賞金	158,668,757	157,343,866
(2) 借入金	76,473	66,578
(3) その他の信用事業負債	765,503	893,666
未払費用	39,591	34,601
その他の負債	725,912	859,064
<b>2 共済事業負債</b>	<b>708,972</b>	<b>682,125</b>
(1) 共済借入金	0	0
(2) 共済資金	402,012	376,358
(3) 共済未払利息	0	0
(4) 未経過共済付加収入	295,693	291,806
(5) その他共済事業負債	11,267	13,961
<b>3 経済事業負債</b>	<b>748,887</b>	<b>726,224</b>
(1) 経済事業未払金	380,306	352,524
(2) 経済受託債務	308,181	334,493
(3) その他の経済事業負債	60,400	39,207
<b>4 雜負債</b>	<b>811,822</b>	<b>639,467</b>
(1) 未払法人税等	6,637	6,637
(2) 資産除去債務	8,748	8,938
(3) その他の負債	796,437	623,892
<b>5 諸引当金</b>	<b>433,526</b>	<b>402,492</b>
(1) 賞与引当金	107,675	105,401
(2) 退職給付引当金	265,391	263,273
(3) 役員退職慰労引当金	60,460	33,818
<b>6 繰延税金負債</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>7 再評価に係る繰延税金負債</b>	<b>743,141</b>	<b>741,888</b>
<b>負債の部合計</b>	<b>162,957,080</b>	<b>161,496,305</b>
<b>( 純 資 産 の 部 )</b>		
<b>1 組合員資本</b>	<b>9,970,521</b>	<b>10,421,381</b>
(1) 出資金	3,314,332	3,261,716
(2) 利益剰余金	6,718,574	7,236,365
利益準備金	3,150,183	3,220,183
その他利益剰余金	3,568,391	4,016,181
教育積立金	158,680	158,680
農業関連施設整備積立金	68,968	58,240
事業基盤強化積立金	580,000	580,000
農業生産振興対策積立金	0	200,000
財務基盤強化積立金	440,000	440,000
施設整備対策積立金	500,000	500,000
リスク対策積立金	450,000	450,000
中期経営計画実践対策積立金	0	13,263
県センターシステム積立金	60,000	60,000
固定資産処分対策積立金	220,000	480,000
畜産振興支援対策積立金	150,000	150,000
当期末処分剰余金	726,960	925,998
(うち当期剰余金)	305,436	524,407
(3) 処分未済持分	△ 62,385	△ 76,700
<b>2 評価・換算差額等</b>	<b>1,914,165</b>	<b>1,912,830</b>
(1) 土地再評価差額金	1,914,165	1,912,830
<b>純資産の部合計</b>	<b>11,884,686</b>	<b>12,334,211</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>174,841,766</b>	<b>173,830,516</b>

## 2. 損益計算書

(単位：千円)

科 目	令和2年度 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	令和3年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
<b>1 事業総利益</b>	<b>3,920,521</b>	<b>4,016,304</b>
<b>事業収益</b>	<b>9,618,856</b>	<b>9,768,158</b>
<b>事業費用</b>	<b>5,698,334</b>	<b>5,751,854</b>
(1) 信用事業収益	1,350,869	1,339,499
資金運用収益	1,264,538	1,275,588
(うち預金利息)	(608,761)	(568,900)
(うちその他受入利息)	(7,142)	(87,046)
(うち貸出金利息)	(648,635)	(619,642)
役務取引等収益	43,539	42,362
その他経常収益	42,792	21,549
(2) 信用事業費用	282,272	290,206
資金運用費用	39,233	29,937
(うち貯金利息)	(36,111)	(26,148)
(うち給付補填備金繰入)	(507)	(517)
(うち借入金利息)	(1,081)	(891)
(うちその他支払利息)	(1,534)	(2,381)
役務取引等費用	11,034	11,429
その他経常費用	232,005	248,840
(うち貸倒引当戻入益)	(△ 30,618)	(△ 43,441)
<b>信用事業総利益</b>	<b>1,068,597</b>	<b>1,049,293</b>
(3) 共済事業収益	1,221,701	1,197,650
共済付加収入	1,159,377	1,131,780
その他の収益	62,324	65,870
(4) 共済事業費用	74,503	81,712
共済推進費	51,643	57,522
共済保全費	9,557	9,916
その他の費用	13,303	14,274
(うち貸倒引当金繰入額)	(△ 9)	(△ 4)
<b>共済事業総利益</b>	<b>1,147,198</b>	<b>1,115,938</b>
(5) 購買事業収益	5,094,536	5,003,196
購買品供給高	4,991,224	4,872,354
購買品手数料	0	37,701
修理サービス料	13,027	12,674
その他の収益	90,285	80,467
(6) 購買事業費用	4,225,627	4,202,032
購買品供給原価	3,968,787	3,943,768
購買品供給費	140,595	141,821
修理サービス費	1,019	841
その他の費用	115,226	115,602
(うち貸倒引当金戻入益)	(△ 5,485)	- (△ 3,785)
<b>購買事業総利益</b>	<b>868,909</b>	<b>801,164</b>
(7) 販売事業収益	1,588,256	1,836,633
買取販売品販売高	577,796	579,094
販売手数料	334,297	384,902
その他の収益	676,163	872,637
(8) 販売事業費用	1,024,190	1,123,055
買取販売品販売原価	475,393	481,719
販売費	41,853	39,068
その他の費用	506,944	602,268
(うち貸倒引当金繰入額)	(△ 1,053)	(△ 22,449)

(単位：千円)

科 目	令和2年度 (自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日)	令和3年度 (自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)
<b>販売事業総利益</b>	<b>564,066</b>	<b>713,578</b>
(9) 利用事業収益	565,294	661,016
(10) 利用事業費用 (うち貸倒引当金繰入額)	249,001 (△ 1,280)	291,046 (△ 180)
<b>利用事業総利益</b>	<b>316,293</b>	<b>369,970</b>
(11) 指導事業収入	113,640	63,701
(12) 指導事業支出	158,182	97,340
<b>指導事業収支差額</b>	<b>△ 44,542</b>	<b>△ 33,639</b>
<b>2 事業管理費</b>	<b>3,787,598</b>	<b>3,858,292</b>
(1) 人件費	2,746,364	2,748,119
(2) 業務費	150,176	153,269
(3) 諸税負担金	193,689	185,984
(4) 施設費	684,865	761,576
(5) その他の事業管理費	12,504	9,344
<b>事 業 利 益</b>	<b>132,923</b>	<b>158,012</b>
<b>3 事業外収益</b>	<b>341,301</b>	<b>353,915</b>
(1) 受取雑利息	127	623
(2) 受取出資配当金	179,391	187,605
(3) 賃貸料	85,419	86,261
(4) 償却債権取立益	8	1
(5) 雜収入	76,356	79,425
<b>4 事業外費用</b>	<b>131,786</b>	<b>48,328</b>
(1) 寄付金	230	267
(2) 雜損失 (うち貸倒引当金繰入額)	131,556 (31,927)	48,061 (31,927)
<b>経 常 利 益</b>	<b>342,438</b>	<b>463,599</b>
<b>5 特別利益</b>	<b>412,522</b>	<b>519,108</b>
(1) 固定資産処分益	35,960	9,027
(2) 一般補助金	376,562	133,519
(3) その他の特別利益	—	376,562
<b>6 特別損失</b>	<b>446,778</b>	<b>531,328</b>
(1) 固定資産処分損	31,293	2
(2) 固定資産圧縮損	—	379,991
(3) 減損損失	38,923	28,816
(4) その他の特別損失	376,562	122,519
<b>税引前当期利益</b>	<b>308,182</b>	<b>451,379</b>
法人税・住民税及び事業税	6,637	6,637
法人税等調整額	△ 3,890	△ 79,665
<b>法人税等合計</b>	<b>2,747</b>	<b>△ 73,028</b>
<b>当期剰余金</b>	<b>305,436</b>	<b>524,408</b>
<b>当期首繰越剰余金</b>	<b>388,813</b>	<b>364,560</b>
会計方針の変更による累積的影響額		24,449
遡及処理後当期首繰越剰余金		389,009
再評価差額金取崩額	20,726	1,334
農業関連施設整備積立金取崩額	11,355	10,727
中期経営計画実践対策積立取崩額	630	520
<b>当期末処分剰余金</b>	<b>726,960</b>	<b>925,998</b>

### 3. 注記表

令和2年度	令和3年度
<p><b>I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記</b></p> <p>1. 有価証券（株式形態の外部出資を含む）の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 子会社株式 移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券（時価のないもののみ） 移動平均法による原価法</p> <p>2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 購買品(数量管理品)……総平均法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)</p> <p>(2) 購買品(売価管理品)……売価還元法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)</p> <p>(3) 購買品(高額農機・自動車)……個別法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)</p> <p>(4) 諸材料……先入先出法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)</p> <p>3. 固定資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法</p> <p>(3) リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法</p> <p>4. 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 貸倒引当金は、あらかじめ定めている経理規程、資産査定要領及び資産の償却・引当基準に則り、次のとおり計上しています。 破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（破綻先）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（実質破綻先）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控</p>	<p><b>I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記</b></p> <p>1. 有価証券（株式形態の外部出資を含む）の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 子会社株式 移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券（市場価格のない株式等） 移動平均法による原価法</p> <p>2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法</p> <p>(1) 購買品(数量管理品)……総平均法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)</p> <p>(2) 購買品(売価管理品)……売価還元法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)</p> <p>(3) 購買品(高額農機・自動車)……個別法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)</p> <p>(4) 諸材料……先入先出法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)</p> <p>3. 固定資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法</p> <p>(3) リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法</p> <p>4. 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 貸倒引当金は、あらかじめ定めている経理規程、資産査定要領及び資産の償却・引当基準に則り、次のとおり計上しています。 破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（破綻先）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（実質破綻先）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控</p>

令和2年度	令和3年度
<p>除し、その残額を計上しています。</p> <p>また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（破綻懸念先）に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。</p> <p>上記以外の債権については、今後の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額の見積もりにあたっては、貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を算出し、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しています。</p> <p>すべての債権は、資産査定要領に基づき、融資担当部署等が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っています。</p> <p>(2) 賞与引当金</p> <p>職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当事業年度負担分を計上しています。</p> <p>(3) 退職給付引当金</p> <p>職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当事業年度に発生していると認められる額を計上しています。</p> <p>① 退職給付見込額の期間帰属方法</p> <p>退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっています。</p> <p>② 数理計算上の差異の費用処理方法</p> <p>数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生事業年度から費用処理することとしています。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金</p> <p>役員の退職慰労金の支給に備えて、役員退職慰労金支給規程に基づく期末要支給額を計上しています。</p>	<p>除し、その残額を計上しています。</p> <p>また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（破綻懸念先）に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。</p> <p>上記以外の債権については、今後の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額の見積もりにあたっては、貸倒実績率の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を算出し、これに将来見込み等必要な修正を加えて算定しています。</p> <p>すべての債権は、資産査定要領に基づき、融資担当部署等が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っています。</p> <p>(2) 賞与引当金</p> <p>職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当事業年度負担分を計上しています。</p> <p>(3) 退職給付引当金</p> <p>職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しています。</p> <p>① 退職給付見込額の期間帰属方法</p> <p>退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっています。</p> <p>② 数理計算上の差異の費用処理方法</p> <p>数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における職員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生事業年度から費用処理することとしています。</p> <p>(4) 役員退職慰労引当金</p> <p>役員の退職慰労金の支給に備えて、役員退職慰労金支給規程に基づく期末要支給額を計上しています。</p>

令和2年度	令和3年度
	<p>5. 収益及び費用の計上基準</p> <p>(1) 収益認識関連</p> <p>当組合は、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日改正)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)を適用しており、約束した財又はサービスの支配が利用者等に移転した時点で、もしくは、移転するにつれて当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。</p> <p>主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は以下のとおりであります。</p> <p>① 購買事業</p> <p>農業生産に必要な資材と生活に必要な物資を共同購入し、組合員に供給する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、購買品を引き渡す義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、購買品の引き渡し時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。</p> <p>② 販売事業</p> <p>組合員が生産した農畜産物を当組合が集荷して共同で業者等に販売する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、販売品を引き渡す義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、販売品の引き渡し時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。</p> <p>③ 利用事業</p> <p>主に、葬祭施設を設置して、組合員その他の利用者に対して行う葬祭事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、葬儀が完了した時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。</p> <p>④ 指導事業</p> <p>組合員の営農にかかる各種相談・研修・経理サービスを提供する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、主にサービスの提供が完了した時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。</p>

令和2年度	令和3年度
<p>5. 消費税及び地方消費税の会計処理の方法 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっています。</p>	<p>6. 消費税及び地方消費税の会計処理の方法 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっています。</p>
<p>6. 計算書類等に記載した金額の端数処理の方法 記載金額は、円単位で表示しております。ただし、注記表及び附属明細書については、千円未満を切り捨て表示しており、金額千円未満の科目については、「0」で表示しています。</p>	<p>7. 計算書類等に記載した金額の端数処理の方法 記載金額は、円単位で表示しております。ただし、注記表及び附属明細書については、千円未満を切り捨て表示しており、金額千円未満の科目については、「0」で表示しています。</p>
<p>7. 事業別収益・事業別費用の内部取引の処理方法 当組合は、事業別の収益及び費用について、事業間取引の相殺表示を行っておりません。よって、事業別の収益及び費用については、事業間の内部取引も含めて表示しております。 ただし、損益計算書の事業収益、事業費用については、農業協同組合法施行規則に従い、各事業間の内部損益を控除した額を記載しております。</p>	<p>8. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項 (1) 事業別収益・事業別費用の内部取引の処理方法 当組合は、事業別の収益及び費用について、事業間取引の相殺表示を行っておりません。よって、事業別の収益及び費用については、事業間の内部取引も含めて表示しております。 ただし、損益計算書の事業収益、事業費用については、農業協同組合法施行規則に従い、各事業間の内部取引を消去した額を記載しております。 (2) 当組合が代理人として関与する取引の損益計算書の表示 購買事業収益のうち、当組合が代理人として購買品の供給に関与している場合には、純額で収益を認識して、購買手数料として表示しております。また、販売事業収益のうち、当組合が代理人として販売品の販売に関与している場合には、純額で収益を認識して、販売手数料として表示しております。</p>
<p><b>II. 表示方法の変更に関する注記</b> 新設された農業協同組合法施行規則第126条の3の2にもとづき、「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を適用し、当事業年度より繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損に関する見積りに関する情報を「会計上の見積りに関する注記」に記載しています。</p>	

令和2年度	令和3年度
	<p><b>II. 会計方針の変更に関する注記</b></p> <p>1. 収益認識に関する会計基準等の適用</p> <p>当組合は、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日）を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が利用者等に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することいたしました。</p> <p>収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりです。</p> <p>(1) 代理人取引に係る収益認識</p> <p>購買事業・販売事業において利用者等に代わって財又はサービスの調達の手配を代理人として行う取引については、従来は、利用者等から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、利用者等から受け取る額から受入先（仕入先）に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。指導事業等において、当組合を経由し組合員に支払う助成金・補助金等のうち、従来、総額計上していた金額は純額で計上する方法に変更しております。</p> <p>(2) LPガスに関する収益認識</p> <p>購買事業におけるLPガスの供給について、従来は、毎月の検針日における利用者等の使用量に基づいて収益を認識していましたが、決算月においては、検針日から決算日までに生じた収益を合理的に見積って認識する方法に変更しております。</p> <p>(3) 購買事業における支払奨励金の会計処理</p> <p>購買事業において、利用者等に対して支払う各種奨励金等が顧客へ支払われる対価と認められる場合、従来は、購買事業費用として計上していましたが、取引価格から減額する方法に変更しております。</p> <p>収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当事業年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を</p>

令和2年度	令和3年度
<p>適用しております。</p> <p>この結果、利益剰余金の当期首残高は、24,448千円増加しております。また、当事業年度の事業収益が437,808千円、事業費用が439,886千円それぞれ減少しております。事業利益、経常利益、及び税引前当期利益への影響は軽微であります。</p> <p>2. 時価の算定に関する会計基準等の適用</p> <p>「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる当事業年度の計算書類への影響はありません。</p> <p><b>III. 会計上の見積りに関する注記</b></p> <p>1. 繰延税金資産の回収可能性</p> <p>(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額 62,904千円<sup>(*)</sup></p> <p>※ 繰延税金負債相殺前の繰延税金資産総額を記載しています。</p> <p>(2) その他の情報</p> <p>繰延税金資産の計上は、次年度において将来減算一時差異を利用可能な課税所得の見積り額を限度として行っています。</p> <p>次年度の課税所得の見積りについては、経営計画を基礎として、当組合が将来獲得可能な課税所得の金額を合理的に見積もっております。</p> <p>しかし、これらの見積りは将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受けます。よって、実際に課税所得が生じた金額が見積りと異なる場合には、次年度の計算書類において認識する繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。</p>	<p>適用しております。</p> <p>この結果、利益剰余金の当期首残高は、24,448千円増加しております。また、当事業年度の事業収益が437,808千円、事業費用が439,886千円それぞれ減少しております。事業利益、経常利益、及び税引前当期利益への影響は軽微であります。</p> <p>2. 時価の算定に関する会計基準等の適用</p> <p>「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる当事業年度の計算書類への影響はありません。</p> <p><b>III. 会計上の見積りに関する注記</b></p> <p>1. 繰延税金資産の回収可能性</p> <p>(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額 繰延税金資産 131,929千円（繰延税金負債との相殺前）</p> <p>(2) 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報</p> <p>繰延税金資産の計上は、次年度において未使用的税務上の繰越欠損金及び将来減算一時差異を利用可能な課税所得の見積り額を限度として行っています。</p> <p>次年度の課税所得の見積りについては、第6次中期経営計画を基礎として、当組合が将来獲得可能な課税所得の金額を合理的に見積もっております。</p> <p>しかし、これらの見積りは将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受けます。よって、実際に課税所得が生じた時期及び金額が見積りと異なる場合には、翌事業年度の計算書類において認識する繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。</p>

令和2年度	令和3年度
<p>2. 固定資産の減損</p> <p>(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額 38,923 千円</p> <p>(2) その他の情報 資産グループに減損の兆候が存在する場合には、当該資産グループの割引前将来キャッシュ・フローと帳簿価格を比較することにより、当該資産グループについての減損の要否の判定を実施しております。</p> <p>減損の要否に係る判定単位であるキャッシュ・フロー生成単位については、他の資産または資産グループのキャッシュ・インフローから概ね独立したキャッシュ・インフローを生成させるものとして識別される資産グループの最小単位としております。</p> <p>固定資産の減損の要否の判定において、将来キャッシュ・フローについては、経営計画を基礎として、一定の仮定を設定して算出しております。</p> <p>これらの仮定は将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受け、翌事業年度以降の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。</p>	<p>2. 固定資産の減損</p> <p>(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額 減損損失 28,816 千円</p> <p>(2) 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報 資産グループに減損の兆候が存在する場合には、当該資産グループの割引前将来キャッシュ・フローと帳簿価額を比較することにより、当該資産グループについての減損の要否の判定を実施しております。</p> <p>減損の要否に係る判定単位であるキャッシュ・フロー生成単位については、他の資産または資産グループのキャッシュ・インフローから概ね独立したキャッシュ・インフローを生成させるものとして識別される資産グループの最小単位としております。</p> <p>固定資産の減損の要否の判定において、将来キャッシュ・フローについては、経営計画を基礎として、一定の仮定を設定して算出しております。</p> <p>これらの仮定は将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受け、翌事業年度以降の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。</p>
	<p>3. 貸倒引当金</p> <p>(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額 貸倒引当金 271,011 千円</p> <p>(2) 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報</p> <p>① 算定方法 「I. 重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「4. 引当金の計上基準」の「(1) 貸倒引当金」に記載しております。</p> <p>② 主要な仮定 主要な仮定は、「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」であります。 「債務者区分の判定における貸出先の将来の業績見通し」は、各債務者の収益獲得能力を個別に評価し、設定しております。</p> <p>③ 翌事業年度に係る計算書類に与える影響 個別貸出先の業績変化等により、当初の見積りに用いた仮定が変化した場合は、翌事業年度に係る計算書類における貸倒引当金に重要な影響を及ぼす可能性があります。</p>

令和2年度	令和3年度																
<b>IV. 貸借対照表に関する注記</b>	<b>IV. 貸借対照表に関する注記</b>																
1. 資産に係る圧縮記帳額 有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は2,530,705千円であり、その内訳は、次の通りです。 (1) 建物 (圧縮記帳前取得額 3,961,571千円、 圧縮額 1,236,948千円) (2) 構築物 (圧縮記帳前取得額 137,494千円、 圧縮額 73,119千円) (3) 機械及び装置 (圧縮記帳前取得額 2,267,244千円、 圧縮額 1,180,148千円) (4) 工具器具備品 (圧縮記帳前取得額 62,734千円、 圧縮額 30,558千円) (5) 土地 (圧縮記帳前取得額 16,548千円、 圧縮額 9,932千円)	1. 資産に係る圧縮記帳額 有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は2,916,745千円であり、その内訳は、次の通りです。 (1) 建物 (圧縮記帳前取得額 3,961,571千円、 圧縮額 1,236,948千円) (2) 構築物 (圧縮記帳前取得額 269,481千円、 圧縮額 143,027千円) (3) 機械及び装置 (圧縮記帳前取得額 2,908,203千円、 圧縮額 1,496,277千円) (4) 工具器具備品 (圧縮記帳前取得額 62,734千円、 圧縮額 30,558千円) (5) 土地 (圧縮記帳前取得額 16,548千円、 圧縮額 9,932千円)																
2. オペレーティング・リース オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料は次の通りです。 (単位：千円)	2. オペレーティング・リース オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料は次の通りです。 (単位：千円)																
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">1年以内</th> <th style="text-align: center;">1年超</th> <th style="text-align: center;">合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>未経過リース料</td> <td style="text-align: center;">30,236</td> <td style="text-align: center;">62,740</td> <td style="text-align: center;">92,976</td> </tr> </tbody> </table>		1年以内	1年超	合計	未経過リース料	30,236	62,740	92,976	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">1年以内</th> <th style="text-align: center;">1年超</th> <th style="text-align: center;">合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>未経過リース料</td> <td style="text-align: center;">6,312</td> <td style="text-align: center;">5,010</td> <td style="text-align: center;">11,322</td> </tr> </tbody> </table>		1年以内	1年超	合計	未経過リース料	6,312	5,010	11,322
	1年以内	1年超	合計														
未経過リース料	30,236	62,740	92,976														
	1年以内	1年超	合計														
未経過リース料	6,312	5,010	11,322														
3. 担保に供している資産 定期預金4,100,000千円を為替決済の担保に、定期預金4,100,000千円を指定金融機関等の事務取扱に係る担保にそれぞれ供しています。	3. 担保に供している資産 定期預金6,100,000千円を為替決済の担保に供しています。																
4. 子会社等に対する金銭債権及び債務の総額 子会社等に対する金銭債権の総額 656,806千円 子会社等に対する金銭債務の総額 612,506千円	4. 子会社等に対する金銭債権及び債務の総額 子会社等に対する金銭債権の総額 700,287千円 子会社等に対する金銭債務の総額 626,849千円																
5. 役員との間の取引による役員に対する金銭債権及び債務 理事及び監事に対する金銭債権の総額 28,592千円	5. 役員との間の取引による役員に対する金銭債権及び債務 理事及び監事に対する金銭債権の総額 146,494千円																

令和2年度	令和3年度
<p>理事及び監事に対する金銭債務の総額 －千円</p> <p>6. 貸出金のうちリスク管理債権の合計額及びその内訳 　貸出金のうち、破綻先債権額は2,835千円、延滞債権額は482,085千円です。 　なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金です。 　また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金です。 　貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は511,453千円です。 　なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払い猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権、3ヶ月以上延滞債権に該当しないものです。 　破綻先債権額、延滞債権額、3ヶ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は996,374千円です。</p>	<p>理事及び監事に対する金銭債務の総額 －千円</p> <p>6. 信用事業を行う組合に要求される注記 〈債権のうちリスク管理債権の合計額及びその内訳〉 　債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は183,822千円、危険債権額は316,533千円です。 　なお、破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。 　また、危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないものの、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができる可能性の高い債権（破産更生債権及びこれらに準ずる債権を除く。）です。 　債権のうち、貸出条件緩和債権額は494,000千円です。 　なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払い猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものです。 　破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権額の合計額は994,355千円です。 　なお、上記の各債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。</p> <p>7. 「土地の再評価に関する法律」（平成10年3月31日公布法律第34号）及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」（平成11年3月31日公布法律第24号）に基づき、事業用土地について、次の方法により再評価を行い、再評価差額については、当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部</p>

令和2年度	令和3年度
<p>に計上しています。</p> <p>(1) 再評価の方法:路線価、固定資産課税評価、売買事例</p> <p>(2) 再評価を行った年月日： 平成11年3月31日(一部平成12年3月31日)</p> <p>(3) 再評価により生じた差額： 2,657,305千円 再評価前の土地の帳簿価額： 887,690千円 再評価後の土地の帳簿価額： 3,544,995千円 なお、当該土地の年度末の時価の合計額は再評価後の帳簿価額の合計額を720,650千円下回っています。</p>	<p>に計上しています。</p> <p>(1) 再評価の方法:路線価、固定資産課税評価、売買事例</p> <p>(2) 再評価を行った年月日： 平成11年3月31日(一部平成12年3月31日)</p> <p>(3) 再評価により生じた差額： 2,654,718千円 再評価前の土地の帳簿価額： 887,690千円 再評価後の土地の帳簿価額： 3,542,409千円 なお、当該土地の年度末の時価の合計額は再評価後の帳簿価額の合計額を743,111千円下回っています。</p>
<p><b>V. 損益計算書に係る注記</b></p> <p>1. 子会社等との事業取引及び事業取引以外の取引による取引高の総額</p> <p>(1) 子会社等との取引による収益総額 753,569千円 うち事業取引高 740,398千円 うち事業取引以外の取引高 13,171千円</p> <p>(2) 子会社等との取引による費用総額 697,026千円 うち事業取引高 681,106千円 うち事業取引以外の取引高 15,920千円</p>	<p><b>V. 損益計算書に係る注記</b></p> <p>1. 子会社等との事業取引及び事業取引以外の取引による取引高の総額</p> <p>(1) 子会社等との取引による収益総額 801,459千円 うち事業取引高 789,934千円 うち事業取引以外の取引高 11,525千円</p> <p>(2) 子会社等との取引による費用総額 741,583千円 うち事業取引高 727,283千円 うち事業取引以外の取引高 14,300千円</p>
<p>2. 減損会計に関する注記</p> <p>(1) グルーピングの方法と共用資産の概要 当組合では、投資の意思決定を行う単位としてグルーピングを実施した結果、営業店舗については統括支店ごとに、また、業務外固定資産(遊休資産と賃貸固定資産)については、各固定資産をグルーピングの最小単位としています。グループ単位を決定するにあたり、北部地区、南部地区の各地区内の統括支店及び事業所(Aコーポ、直売所、葬祭センター、自動車整備センター等)及び本店等から構成されているものとして、各地区内の統括支店及び事業所を最小単位、北部・南部地区の営農経済センターを地区共用資産、本店等を全体共用資産としてグルーピングしております。 前年度からの変更点は、機構改革等により、</p>	<p>2. 減損会計に関する注記</p> <p>(1) グルーピングの方法と共用資産の概要 当組合では、各資産がそれぞれに相互補完的な関係にあるものについて1つのグループとして取扱い、北部地区、南部地区、各事業所(Aコーポ、直売所、葬祭センター、自動車整備センター等)及び本店等から構成されているものとして、各地区内の統括支店及び事業所を最小単位、北部・南部地区の営農経済センターを地区共用資産、本店等を全体共用資産としてグルーピングしております。 投資の意思決定を行う単位としてグルーピングを実施した結果、他の資産または資産グループのキャッシュ・フローから概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す営業店舗については支店ごとに最小単位とし、また事業外固定資産(遊休資産・賃貸資産)については、グルー</p>

令和2年度				令和3年度			
時津支店を北部地区グループから南部地区グループへ、三重支店を南部地区グループから北部地区グループへ移動しております。また、旧村松支店（遊休資産）については、今年度より「扱い手支援センター」として管内すべての補助事業に関する事務等を行っていることから全体共用資産へ移動しております。				ピングは行わず、個々の資産を最小単位としています。			
(2) 当事業年度に減損損失を計上した資産及び資産グループの概要				(2) 当事業年度に減損損失を計上した資産及び資産グループの概要			
場所	用途	種類	その他	場所	用途	種類	その他
西海市西海町横瀬郷3908他	Aコープ横瀬店	土地	事業用固定資産	西海市西海町横瀬郷3908他	Aコープ横瀬店	土地・工具器具備品	事業用固定資産
西海市西海町横瀬郷3908他	自動車整備センター	土地・ソフト	事業用固定資産	西海市西海町横瀬郷3908	自動車整備センター	工具器具備品	事業用固定資産
西海市西彼町小迎郷2819-1	グリーンセンター	土地・建物他	事業用固定資産	長崎市琴海村松町720-6	事業外賃貸用固定資産(百姓マート)	土地	業務外固定資産
長崎市西出津町2527	遊休固定資産(旧出津営業所)	土地	業務外固定資産	西海市大瀬戸町瀬戸櫻浦郷字小浦2278-66	事業外賃貸用固定資産(貸駐車場割合50%)	土地	業務外固定資産
西海市西海町太田和郷3288-9他	遊休固定資産(旧太田和営業所)	土地	業務外固定資産	長崎市樺山町3015-1	遊休固定資産(代物弁済)	土地	業務外固定資産
諫早市多良見町化屋754-5他	遊休固定資産(旧喜々津駅前出張所)	建物	業務外固定資産	長崎市葉山1-35-22	遊休固定資産(旧滑石支店)	建物他	業務外固定資産
長崎市琴海大平町626-2他	遊休固定資産(代物弁済取得)	土地	業務外固定資産	長崎市戸石町1647-2	遊休固定資産(旧戸石支店)	土地	業務外固定資産
諫早市多良見町野副14-2	遊休固定資産(旧大草営業所)	土地	業務外固定資産	長崎市古賀町991-1	遊休固定資産(旧古賀支店)	土地	業務外固定資産
長崎市琴海村松町720-6	事業外賃貸用固定資産(百姓マート)	土地	業務外固定資産	長崎市三重町476-5	遊休固定資産(旧事務所跡地)	土地	業務外固定資産
西彼杵郡時津町久留里郷1439-1	事業外賃貸用固定資産(奥田学園)	土地	業務外固定資産	長崎市西出津小田平2527-1	遊休固定資産(旧出津出張所)	土地	業務外固定資産
				西海市西海町黒口郷字丸尾1220-1	遊休固定資産(旧整備工場)	土地	業務外固定資産
				西海市西海町中浦南郷1907-1	遊休固定資産(旧七釜支店等)	土地	業務外固定資産
				西海市西海町太田和郷3288-9、3288-13	遊休固定資産(旧太田和営業所)	土地	業務外固定資産
				諫早市多良見町野副14-2	遊休固定資産(旧大草営業所)	土地	業務外固定資産
				長崎市桜馬場1丁目164-37	遊休固定資産(旧新大工支店)	建物他	業務外固定資産
				西彼杵郡時津町日並郷2217-1	遊休固定資産(旧ふれあい市日並店)	土地他	業務外固定資産

令和2年度	令和3年度
(3) 減損損失の認識に至った経緯  Aコープ横瀬、自動車整備センター、グリーンセンターについては、当該店舗の営業収支が2期連続赤字であると同時に、短期的に業績の回復が見込まれないことから、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当期減少額を減損損失として認識しました。  また、遊休資産についても、建物は売却価値が無いことから、土地評価額から建物の解体費を控除した回収可能額まで帳簿価額を減額し、当期減少額を減損損失として認識しました。  業務外賃貸固定資産は、減損の兆候のある資産であり、建物の解体費を反映した処分可能額で評価した処分可能見込額と帳簿価額との差額を減損損失として認識しました。	(3) 減損損失の認識に至った経緯  Aコープ横瀬店、自動車整備センターについては、当該店舗の営業収支が2期連続赤字であると同時に、短期的に業績の回復が見込まれないことから、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当期減少額を減損損失として認識しました。  旧滑石支店、旧新大工支店、旧ふれあい市日並店は、第16回通常総代会の決議事項等に基づく再編により遊休資産とし、従前と同様に将来の使用が見込まれない遊休資産については回収可能額で評価し、その差額を減損損失として認識しました。  業務外賃貸固定資産は、使用価値が帳簿価額まで達しないため帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当期減少額を減損損失として認識しました。
(4) 減損損失の金額について、特別損失に計上した金額と主な固定資産の種類ごとの減損損失の内訳  Aコープ横瀬店 317千円 (土地 317千円) 自動車整備センター 1,465千円 (土地 615千円、ソフトウェア 849千円) グリーンセンター 31,069千円 (土地 28,379千円、建物 2,310千円、機械装置 378千円) 遊休固定資産 2,389千円 (土地 765千円、建物 1,624千円) 事業外賃貸資産 3,682千円 (土地 3,682千円) 合 計 38,923千円 (土地 33,761千円、建物 3,934千円 機械装置 378千円)	(4) 減損損失の金額について、特別損失に計上した金額と主な固定資産の種類ごとの減損損失の内訳  Aコープ横瀬店 652千円 (土地 184千円、工具器具備品 467千円) 自動車整備センター 756千円 (工具器具備品 756千円) 遊休固定資産 26,556千円 (土地 4,141千円、建物 18,849千円、構築物 137千円、工具器具備品 3,315千円、ソフトウェア 112千円) 事業外賃貸資産 851千円 (土地 851千円) 合 計 28,816千円 (土地 5,177千円、建物 18,849千円、構築物 137千円、工具器具備品 4,539千円、ソフトウェア 112千円)
(5) 回収可能価額の算定方法  ・営業用店舗の固定資産の回収可能価額については、正味売却価額にて測定しており、時価は固定資産税評価額に基づき評価しております。 ・賃貸用固定資産の回収可能価額については正味売却価額と当該資産の使用価値のいずれか高い価額により測定しており、正味売却価額の時価は固定資産税評価額に基づき評価しております。	(5) 回収可能価額の算定方法  ・営業用店舗の固定資産の回収可能価額については、正味売却価額にて測定しており、時価は固定資産税評価額に基づき評価しております。 ・賃貸用固定資産の回収可能価額については正味売却価額と当該資産の使用価値のいずれか高い価額により測定しており、正味売却価額の時価は固定資産税評価額に基づき評価しております。

令和2年度	令和3年度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊休資産の回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、その時価は固定資産税評価額及び建物の解体費用を考慮して評価しております。</li> </ul> <p><b>VI. 金融商品に関する注記</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 金融商品の状況に関する事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 金融商品に対する取り組み方針 当組合は農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員や地域内の団体などへ貸付け、残った余裕金を農林中央金庫長崎支店へ預けています。</li> <li>(2) 金融商品の内容及びそのリスク 当組合が保有する金融資産は、主として当組合管内の組合員等に対する貸出金及び営業債権である経済事業未収金であり、貸出金及び経済事業未収金は、組合員等の契約不履行によってもたらされる信用リスクが常に存在します。</li> <li>(3) 金融商品に係るリスク管理体制                     <ol style="list-style-type: none"> <li>① 信用リスクの管理 当組合は、個別の重要案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本店に審査室を設置し各支店との連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行ってています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取り組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。</li> <li>② 市場リスクの管理 当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊休資産の回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、その時価は固定資産税評価額及び建物の解体費用を考慮して評価しております。</li> </ul> <p><b>VI. 金融商品に関する注記</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 金融商品の状況に関する事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 金融商品に対する取り組み方針 当組合は農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員や地域内の団体などへ貸付け、残った余裕金を農林中央金庫長崎支店へ預けています。</li> <li>(2) 金融商品の内容及びそのリスク 当組合が保有する金融資産は、主として当組合管内の組合員等に対する貸出金及び営業債権である経済事業未収金であり、貸出金及び経済事業未収金は、組合員等の契約不履行によってもたらされる信用リスクが常に存在します。</li> <li>(3) 金融商品に係るリスク管理体制                     <ol style="list-style-type: none"> <li>① 信用リスクの管理 当組合は、個別の重要案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、本店に審査室を設置し各支店との連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行ってています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取り組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。</li> <li>② 市場リスクの管理 当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造</li> </ol> </li> </ol> </li> </ol>

令和2年度	令和3年度
<p>の構築に努めています。          (市場リスクに係る定量的情報)</p> <p>当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、貸出金、貯金及び借入金です。</p> <p>当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。</p> <p>金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当事業年度末現在、指標となる金利が0.04%上昇したものと想定した場合には、経済価値が8,610千円減少するものと把握しています。</p> <p>当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。</p> <p>また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。</p> <p>なお、経済価値変動額の計算において、分割実行案件にかかる未実行金額についても含めて計算しています。</p> <p>③ 資金調達に係る流動性リスクの管理</p> <p>当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上で重要な要素と位置付け、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。</p> <p>(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明</p> <p>金融商品の時価（時価に代わるものも含む）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p>	<p>の構築に努めています。          (市場リスクに係る定量的情報)</p> <p>当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、貸出金、貯金及び借入金です。</p> <p>当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。</p> <p>金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当事業年度末現在、指標となる金利0.11%上昇したものと想定した場合には、経済価値が9,806千円減少するものと把握しています。</p> <p>当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。</p> <p>また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。</p> <p>なお、経済価値変動額の計算において、分割実行案件にかかる未実行金額についても含めて計算しています。</p> <p>③ 資金調達に係る流動性リスクの管理</p> <p>当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上で重要な要素と位置付け、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。</p> <p>(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明</p> <p>金融商品の時価（時価に代わるものも含む）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p>

令和2年度				令和3年度																																																																															
2. 金融商品の時価等に関する事項				2. 金融商品の時価等に関する事項																																																																															
(1) 金融商品の貸借対照表計上額及び時価等 当年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。 なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、次表には含めず(3)に記載しています。				(1) 金融商品の貸借対照表計上額及び時価等 当年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。 なお、市場価格のない株式等は、次表には含めておりません。																																																																															
(単位：千円)				(単位：千円)																																																																															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th><th>貸借対照表 計上額</th><th>時 価</th><th>差 額</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>預金</td><td>101,669,130</td><td>101,670,356</td><td>1,226</td></tr> <tr> <td>貸出金</td><td>49,109,816</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>    貸倒引当金(※1)</td><td>△ 226,104</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>    貸倒引当金控除後</td><td>48,883,712</td><td>50,042,610</td><td>1,158,898</td></tr> <tr> <td>資産計</td><td>150,552,843</td><td>151,712,966</td><td>1,160,124</td></tr> <tr> <td>貯金</td><td>158,668,756</td><td>158,711,883</td><td>43,127</td></tr> <tr> <td>負債計</td><td>158,668,756</td><td>158,771,883</td><td>43,127</td></tr> </tbody> </table>					貸借対照表 計上額	時 価	差 額	預金	101,669,130	101,670,356	1,226	貸出金	49,109,816			貸倒引当金(※1)	△ 226,104			貸倒引当金控除後	48,883,712	50,042,610	1,158,898	資産計	150,552,843	151,712,966	1,160,124	貯金	158,668,756	158,711,883	43,127	負債計	158,668,756	158,771,883	43,127	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th><th>貸借対照表 計上額</th><th>時 価</th><th>差 額</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>預金</td><td>99,048,797</td><td>99,049,729</td><td>932</td></tr> <tr> <td>貸出金</td><td>50,221,091</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>    貸倒引当金(※1)</td><td>△ 182,662</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>    貸倒引当金控除後</td><td>50,038,429</td><td>50,945,600</td><td>907,171</td></tr> <tr> <td>経済事業未収金</td><td>1,424,892</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr> <td>    貸倒引当金</td><td>△ 87,831</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr> <td>    貸倒引当金控除後</td><td>1,337,061</td><td>1,337,061</td><td>-</td></tr> <tr> <td>資産計</td><td>150,424,287</td><td>151,332,390</td><td>908,103</td></tr> <tr> <td>貯金</td><td>157,343,865</td><td>157,352,826</td><td>8,960</td></tr> <tr> <td>負債計</td><td>157,343,865</td><td>157,352,826</td><td>8,960</td></tr> </tbody> </table>					貸借対照表 計上額	時 価	差 額	預金	99,048,797	99,049,729	932	貸出金	50,221,091			貸倒引当金(※1)	△ 182,662			貸倒引当金控除後	50,038,429	50,945,600	907,171	経済事業未収金	1,424,892	-	-	貸倒引当金	△ 87,831	-	-	貸倒引当金控除後	1,337,061	1,337,061	-	資産計	150,424,287	151,332,390	908,103	貯金	157,343,865	157,352,826	8,960	負債計	157,343,865	157,352,826	8,960
	貸借対照表 計上額	時 価	差 額																																																																																
預金	101,669,130	101,670,356	1,226																																																																																
貸出金	49,109,816																																																																																		
貸倒引当金(※1)	△ 226,104																																																																																		
貸倒引当金控除後	48,883,712	50,042,610	1,158,898																																																																																
資産計	150,552,843	151,712,966	1,160,124																																																																																
貯金	158,668,756	158,711,883	43,127																																																																																
負債計	158,668,756	158,771,883	43,127																																																																																
	貸借対照表 計上額	時 価	差 額																																																																																
預金	99,048,797	99,049,729	932																																																																																
貸出金	50,221,091																																																																																		
貸倒引当金(※1)	△ 182,662																																																																																		
貸倒引当金控除後	50,038,429	50,945,600	907,171																																																																																
経済事業未収金	1,424,892	-	-																																																																																
貸倒引当金	△ 87,831	-	-																																																																																
貸倒引当金控除後	1,337,061	1,337,061	-																																																																																
資産計	150,424,287	151,332,390	908,103																																																																																
貯金	157,343,865	157,352,826	8,960																																																																																
負債計	157,343,865	157,352,826	8,960																																																																																
(※1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。				<p>(*) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。</p> <p>(*) 経済事業未収金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。</p> <p>(2) 金融商品の時価の算定方法</p>																																																																															
<p>(2) 金融商品の時価の算定方法</p> <p><b>【資産】</b></p> <p>① 預金</p> <p>満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである円 Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。</p> <p>② 貸出金</p> <p>貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっています。</p> <p>一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである円 Libor・スワップレートで割り引いた額から貸倒引当金を控除</p>				<p><b>【資産】</b></p> <p>① 預金</p> <p>満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである翌日物金利スワップ(Overnight Index Swap 以下 OIS という)のレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。</p> <p>② 貸出金</p> <p>貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異なっていない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっています。</p> <p>一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである OIS のレートで割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に</p>																																																																															

令和2年度	令和3年度												
<p>して時価に代わる金額として算定しています。</p> <p>なお、分割実行案件で未実行額がある場合には、未実行額も含めた元利金の合計額をリスクフリーレートである円 Libor・スワップレートで割り引いた額に、帳簿価額に未実行額を加えた額に対する帳簿価額の割合を乗じ、貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。</p> <p>また、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等について帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。</p>	<p>代わる金額として算定しています。</p> <p>なお、分割実行案件で未実行額がある場合には、未実行額も含めた元利金の合計額をリスクフリーレートである OIS のレートで割り引いた額に、帳簿価額に未実行額を加えた額に対する帳簿価額の割合を乗じ、貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額として算定しています。</p> <p>また、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等について帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。</p>												
<p><b>【負債】</b></p> <p>① 貯金</p> <p>要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしています。また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクフリーレートである円 Libor・スワップレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。</p> <p>(3) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、これらは(1)の金融商品の時価情報には含まれていません。</p>	<p><b>③ 経済事業未収金</b></p> <p>経済事業未収金については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。</p> <p>また、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。</p> <p><b>【負債】</b></p> <p>① 貯金</p> <p>要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしています。また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクフリーレートである OIS のレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。</p> <p>(3) 市場価格のない株式等は次のとおりであり、これらは(1)の金融商品の時価情報には含まれていません。</p>												
(単位：千円)	(単位：千円)												
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>貸借対照表計上額</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外部出資（※1）</td><td>11,010,193</td></tr> <tr> <td>合　　計</td><td>11,010,193</td></tr> </tbody> </table> <p>(※1) 外部出資のうち、市場価格のある株式以外のものについては、時価を把握することが極めて困難であると認められるため、時価開示の対象とはしていません。</p>		貸借対照表計上額	外部出資（※1）	11,010,193	合　　計	11,010,193	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>貸借対照表計上額</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外部出資（※1）</td><td>10,927,152</td></tr> <tr> <td>合　　計</td><td>10,927,152</td></tr> </tbody> </table> <p>(※1) 外部出資のうち、市場において取引されていない株式や出資金等については、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第19号 2019年7月4日）第5項に基づき、時価開示の対象とはしていません。</p>		貸借対照表計上額	外部出資（※1）	10,927,152	合　　計	10,927,152
	貸借対照表計上額												
外部出資（※1）	11,010,193												
合　　計	11,010,193												
	貸借対照表計上額												
外部出資（※1）	10,927,152												
合　　計	10,927,152												

令和2年度				令和3年度			
(4) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額				(4) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額			
	1年以内	1年超 2年以内			1年以内	1年超 2年以内	
預金	101,669,130	—		預金	99,048,797	—	
貸出金（※1、2、3）	4,956,979	3,375,719		貸出金（※1、2、3）	4,572,775	3,178,848	
合 計	106,626,109	3,375,719		経済事業未収金（※4）	992,967	—	
(単位：千円)				合 計	104,614,539	3,178,848	
2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	(単位：千円)			
—	—	—	—	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
2,825,902	2,483,262	2,209,784	33,036,287	—	—	—	—
2,825,902	2,483,262	2,209,784	33,036,287	3,334,016	2,347,725	2,150,088	34,404,748
				—	—	—	—
				3,334,016	2,347,725	2,150,088	34,404,748
(※1) 貸出金のうち、貸借対照表上の当座貸越 1,102,494千円については「1年以内」に含 めております。				(※1) 貸出金のうち、貸借対照表上の当座貸越 1,008,878千円については「1年以内」に含 めております。また、期限のない劣後特約 付貸出金1,165,000千円については、「5年 超」に含めています。			
(※2) 貸出金のうち、3ヶ月以上延滞債権・期限の 利益を喪失した債権等220,400千円は償還の 予定が見込まれないため、含めていません。				(※2) 貸出金のうち、三月以上延滞債権・期限の 利益を喪失した債権等230,932千円は償還の 予定が見込まれないため、含めていません。			
(※3) 貸出金の分割実行案件のうち、貸付決定金 額の一部実行案件1,480千円は償還日が特 定できないため含めていません。				(※3) 貸出金の分割実行案件のうち、貸付決定金 額の一部実行案件1,955千円は償還日が特 定できないため含めていません。			
(5) 有利子負債の決算日後の返済予定額				(※4) 経済事業未収金のうち、延滞の生じている 債権・期限の利益を喪失した債権等 431,925千円は償還の予定が見込まれない ため、含めています。			
	1年以内	1年超 2年以内		(5) 有利子負債の決算日後の返済予定額			
貯金（※1）	142,496,650	5,888,044			1年以内	1年超 2年以内	
合 計	142,496,650	5,888,044		貯金（※1）	140,511,199	7,053,981	
(単位：千円)				合 計	140,511,199	7,053,981	
2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	(単位：千円)			
6,704,362	1,919,861	1,480,357	179,479	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
6,704,362	1,919,861	1,480,357	179,479	6,696,346	1,408,917	1,484,356	189,062
(※1) 貯金のうち、要求払貯金については「1年 以内」に含めています。				6,696,346	1,408,917	1,484,356	189,062
				(※1) 貯金のうち、要求払貯金については「1年 以内」に含めています。			

令和2年度	令和3年度
<b>VII. 退職給付に関する注記</b>	<b>VII. 退職給付に関する注記</b>
1. 退職給付に関するもの	1. 退職給付に関するもの
(1) 採用している退職給付制度	(1) 採用している退職給付制度
職員の退職給付にあてるため、退職給与規程に基づき退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加えて、同規程に基づき退職給付の一部にあてるため一般財団法人 全国農林漁業団体共済会との契約による「特定退職金共済制度」を採用しています。 退職金共済制度の積立額は1,684,178千円です。	職員の退職給付にあてるため、退職給与規程に基づき退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加えて、同規程に基づき退職給付の一部にあてるため一般財団法人 全国農林漁業団体共済会との契約による「特定退職金共済制度」を採用しています。退職金共済制度の積立額は1,682,691千円です。
(2) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表	(2) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表
期首における退職給付債務 390,028千円 勤務費用 24,866千円 利息費用 2,028千円 数理計算上の差異の発生額 7,880千円 退職給付の支払額 △102,878千円 期末における退職給付債務 321,925千円	期首における退職給付債務 321,925千円 勤務費用 25,023千円 利息費用 1,674千円 数理計算上の差異の発生額 18,968千円 退職給付の支払額 △42,840千円 期末における退職給付債務 324,751千円
(3) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表	(3) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表
退職給付債務 321,925千円 未認識数理計算上の差異 △56,534千円 貸借対照表計上額純額 265,391千円 退職給付引当金 265,391千円	退職給付債務 324,751千円 未認識数理計算上の差異 △61,478千円 貸借対照表計上額純額 263,272千円 退職給付引当金 263,272千円
(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額	(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額
勤務費用 24,866千円 利息費用 2,028千円 数理計算上の差異の費用処理額 13,192千円 小計 40,087千円 特定退職共済制度への拠出金 114,323千円 臨時に支払った割増退職金 21,062千円 合計 175,472千円	勤務費用 25,023千円 利息費用 1,674千円 数理計算上の差異の費用処理額 14,023千円 小計 40,720千円 特定退職共済制度への拠出金 108,494千円 合計 149,214千円
※特定退職共済制度への拠出金114,323千円は、「福利厚生費」で処理しています。 ※臨時に支払った割増退職金21,062千円は、「雑損失」で処理しています。	※特定退職共済制度への拠出金108,494千円は、「福利厚生費」で処理しています。
(5) 割引率その他の数理計算上の計算基礎に関する事項	(5) 割引率その他の数理計算上の計算基礎に関する事項
割引率 0.52%	割引率 0.52%
2. 特例業務負担金の将来見込額	2. 特例業務負担金の将来見込額
法定福利費には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の	法定福利費には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の

令和2年度	令和3年度
<p>法律附則第 57 条に基づき、旧農林共済組合（存続組合）が行う特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金 35,191 千円を含めて計上しています。</p> <p>なお、同組合より示された令和3年3月現在における令和14年3月までの特例業務負担金の将来見込額は 395,829 千円となっています。</p>	<p>法律附則第 57 条に基づき、旧農林共済組合（存続組合）が行う特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金 32,991 千円を含めて計上しています。</p> <p>なお、同組合より示された令和4年3月現在における令和14年3月までの特例業務負担金の将来見込額は 339,567 千円となっています。</p>
<b>VIII. 税効果会計に関する注記</b>	<b>VIII. 税効果会計に関する注記</b>
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳は次のとおりです。	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳は次のとおりです。
<b>繰延税金資産</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸倒引当金 34,714 千円</li> <li>・賞与引当金 34,414 千円</li> <li>・退職給付引当金 73,407 千円</li> <li>・土地減損処理否認 339,703 千円</li> <li>・減価償却超過額 196,707 千円</li> <li>・譲渡損益調整勘定（子会社） 92,393 千円</li> <li>・繰越欠損金 162,739 千円</li> <li>・その他 35,435 千円</li> </ul> <p>(繰延税金資産小計) (969,514 千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価性引当額 △ 906,610 千円</li> </ul> <p>(繰延税金資産合計 (A)) (62,904 千円)</p>	<b>繰延税金資産</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸倒引当金 29,667 千円</li> <li>・賞与引当金 33,751 千円</li> <li>・退職給付引当金 72,821 千円</li> <li>・土地減損処理否認 338,833 千円</li> <li>・減価償却超過額 192,368 千円</li> <li>・譲渡損益調整勘定（子会社） 91,590 千円</li> <li>・年度末賞与 24,673 千円</li> <li>・繰越欠損金 69,692 千円</li> <li>・その他 19,671 千円</li> </ul> <p>(繰延税金資産小計) (873,069 千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価性引当額 △ 741,140 千円</li> </ul> <p>(繰延税金資産合計 (A)) (131,929 千円)</p>
<b>繰延税金負債</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・譲渡損益調整勘定（子会社）△ 27,698 千円</li> <li>・全農みなし配当金 △ 19,715 千円</li> <li>・その他 △ 197 千円</li> </ul> <p>(繰延税金負債合計 (B)) (△ 47,611 千円)</p> <p>繰延税金資産の純額 (A) + (B) 15,293 千円</p>	<b>繰延税金負債</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・譲渡損益調整勘定（子会社）△ 27,697 千円</li> <li>・全農みなし配当金 △ 19,715 千円</li> <li>・その他 △ 157 千円</li> </ul> <p>(繰延税金負債合計 (B)) (△ 47,571 千円)</p> <p>繰延税金資産の純額 (A) + (B) 84,358 千円</p>
2. 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因	2. 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因
法定実行税率 27.66% (調整)	法定実効税率 27.66% (調整)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・交際費等永久に損金に算入されない金額 0.59%</li> <li>・受取配当金等永久に益金に算入されない項目 △ 8.27%</li> <li>・住民税均等割額 2.15%</li> <li>・評価性引当金額の増減 △ 21.16%</li> <li>・その他（上記以外の調整項目） 0.08%</li> </ul> <p>税効果会計適用後の法人税等の負担率 0.89%</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交際費等の損金不算入額 0.37%</li> <li>・受取配当金等の益金不算入額 △ 5.90%</li> <li>・事業分量配当等の損金不算入額 △ 3.06%</li> <li>・住民税均等割額 1.47%</li> <li>・評価性引当金額の増減 △ 36.66%</li> <li>・その他（上記以外の調整項目） △ 0.05%</li> </ul> <p>税効果会計適用後の法人税等の負担率 △ 16.18%</p>

令和2年度	令和3年度																								
<b>X. 賃貸等不動産に関する注記</b>	<b>X. 賃貸等不動産に関する注記</b>																								
<p>当組合では、長崎市その他の地域において、廃止した店舗を賃貸等に供しております。令和3年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は67,671千円（賃貸収益は賃貸料に、主な賃貸費用は雑損失に計上）であります。</p> <p>また、当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、当期増減額及び時価は、次のとおりであります。</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: left;">貸借対照表計上額</th> <th style="text-align: center;">当期末の 時価</th> </tr> <tr> <th>当期首残高</th> <th>当期増減額</th> <th>当期末残高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">839,674</td> <td style="text-align: right;">△ 3,666</td> <td style="text-align: right;">836,008</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">833,079</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。</p> <p>(注2) 当期増減額のうち、主な減少額は時価の下落による減損額によるものです。</p> <p>(注3) 当期末の時価は、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標にもとづく金額によっております。</p>	貸借対照表計上額		当期末の 時価	当期首残高	当期増減額	当期末残高	839,674	△ 3,666	836,008			833,079	<p>当組合では、長崎市その他の地域において、廃止した店舗を賃貸等に供しております。令和4年3月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は80,381千円（賃貸収益は賃貸料に、主な賃貸費用は雑損失に計上）であります。</p> <p>また、当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、当期増減額及び時価は、次のとおりであります。</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: left;">貸借対照表計上額</th> <th style="text-align: center;">当期末の 時価</th> </tr> <tr> <th>当期首残高</th> <th>当期増減額</th> <th>当期末残高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: right;">961,657</td> <td style="text-align: right;">41,611</td> <td style="text-align: right;">1,003,268</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">1,211,961</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。</p> <p>(注2) 当期増減額のうち、主な増加要因は廃止支店の遊休化によるものです。</p> <p>(注3) 当期末の時価は、一定の評価額や適切に市場価格を反映していると考えられる指標にもとづく金額によっております。</p>	貸借対照表計上額		当期末の 時価	当期首残高	当期増減額	当期末残高	961,657	41,611	1,003,268			1,211,961
貸借対照表計上額		当期末の 時価																							
当期首残高	当期増減額	当期末残高																							
839,674	△ 3,666	836,008																							
		833,079																							
貸借対照表計上額		当期末の 時価																							
当期首残高	当期増減額	当期末残高																							
961,657	41,611	1,003,268																							
		1,211,961																							
<b>X. その他の注記</b>	<b>X. 収益認識に関する注記</b>																								
<p>1. 資産除去債務会計</p> <p>(1) 当該資産除去債務の概要</p> <p>当組合の一部の建物に使用されている有害物質を除去する義務に関して資産除去債務を計上しています。</p> <p>(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法</p> <p>資産除去債務の見積りにあたり、支出までの見込期間は20年、割引率は2.18%を採用しています。</p> <p>(3) 当事業年度末における当該資産除去債務の総額の増減</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">期首残高</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">8,561千円</td> </tr> <tr> <td>時の経過による調整額</td> <td style="text-align: right;"><u>187千円</u></td> </tr> <tr> <td>期末残高</td> <td style="text-align: right;">8,747千円</td> </tr> </table>	期首残高	8,561千円	時の経過による調整額	<u>187千円</u>	期末残高	8,747千円	<p>「重要な会計方針に係る事項に関する注記 5. 収益及び費用の計上基準」に同一内容を記載しているため、注記を省略しております。</p> <p><b>XI. その他の注記</b></p> <p>1. 資産除去債務会計</p> <p>(1) 当該資産除去債務の概要</p> <p>当組合の一部の建物に使用されている有害物質を除去する義務に関して資産除去債務を計上しています。</p> <p>(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法</p> <p>資産除去債務の見積りにあたり、支出までの見込期間は20年、割引率は2.18%を採用しています。</p> <p>(3) 当事業年度末における当該資産除去債務の総額の増減</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">期首残高</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">8,747千円</td> </tr> <tr> <td>時の経過による調整額</td> <td style="text-align: right;"><u>190千円</u></td> </tr> <tr> <td>期末残高</td> <td style="text-align: right;">8,938千円</td> </tr> </table>	期首残高	8,747千円	時の経過による調整額	<u>190千円</u>	期末残高	8,938千円												
期首残高	8,561千円																								
時の経過による調整額	<u>187千円</u>																								
期末残高	8,747千円																								
期首残高	8,747千円																								
時の経過による調整額	<u>190千円</u>																								
期末残高	8,938千円																								

## 4. 剰余金処分計算書

(単位：千円)

科 目	令和2年度	令和3年度
1 当期末処分剰余金	726,960	925,998
2 任意積立金取崩額	—	—
3 剰余金処分額	362,400	228,849
(1) 利益準備金	70,000	110,000
(2) 任意積立金		
目的積立金	260,000	36,737
(うち「固定資産処分（減損処理含む）対策積立金」)	260,000	—
(うち「合併20周年記念事業対策積立金」)	—	30,000
(うち「中期経営計画実践対策積立金」)	—	6,737
(3) 出資配当金		
普通出資に対する配当金	32,400	31,749
後配出資に対する配当金	—	—
(4) 事業分量配当金	—	50,363
4 次期繰越剰余金	364,560	697,149

※1 普通出資に対する配当金の割合は次のとおりです。

- (1) 令和2年度 1.0%
- (2) 令和3年度 1.0%

但し、出資配当金は原則として全額を出資予約貯金に振り込み1口に達した場合は出資金に振替えております。

2 次期繰越剰余金には、営農指導・生活文化改善事業の費用に充てるための繰越額30,000千円が含まれています。

3 目的積立金の「合併20周年記念事業対策積立金」については第17回総代会において承認いただいた積立基準に基づき30,000千円の積立を行います。

中期経営計画実践対策積立金については第5次中期経営計画の積立目的・積立基準・取崩基準を第6次中期経営計画に移行するとともに、同基準の目標額(20,000,000円)に対する期末残高(13,263,347円)の差額を本年度一括にて積み立てます。

4 事業の利用分量に対する配当の基準は次の通りです。

組合員に対し、令和3年度の購買品供給高に応じて以下の割合で配当いたします。

- ・肥料：3.5% 　・農薬：3.5% 　・営農用燃油：1.5% 　・飼料：2.0%

## 5. 部門別損益計算書（令和3年度）

(単位：千円)

区分	計	信 用 事 業	共 濟 事 業	農業関連 事 業	生 活 その他の事業	営 農 指導事業	共通管 理費等
事業収益 ①	10,101,698	1,339,500	1,197,650	5,618,723	1,882,123	63,701	
事業費用 ②	6,085,394	290,207	81,712	4,587,786	1,028,348	97,341	
事業総利益 ③ (① - ②)	4,016,304	1,049,293	1,115,938	1,030,937	853,775	△ 33,640	
事業管理費 ④	3,858,292	814,731	967,341	1,264,618	571,004	240,598	
(うち減価償却費⑤)	(320,595)	(11,352)	(7,318)	(211,323)	(84,535)	(6,067)	
(うち人件費⑤')	(2,748,119)	(689,906)	(895,728)	(706,352)	(250,174)	(205,959)	
※うち共通管理費⑥		100,325	72,969	335,987	185,493	29,638	△ 724,412
(うち減価償却費⑦)		(10,061)	(7,318)	(33,696)	(18,573)	(2,972)	(△ 72,620)
(うち人件費⑦')		(26,744)	(19,452)	(89,568)	(49,369)	(7,901)	(△ 193,034)
事業利益 ⑧ (③ - ④)	158,011	234,562	148,597	△ 233,681	282,771	△ 274,238	
事業外収益 ⑨	353,916	51,970	34,891	161,454	91,430	14,171	
※うち共通分⑩		47,970	34,890	160,651	88,549	14,171	△ 346,231
事業外費用 ⑪	48,327	6,696	4,870	22,424	12,360	1,977	
※うち共通分⑫		6,696	4,870	22,424	12,360	1,977	△ 48,327
経常利益 ⑬ (⑧ + ⑨ - ⑪)	463,599	279,836	178,618	△ 94,651	361,841	△ 262,044	
特別利益 ⑭	519,108	1,251	910	514,270	2,309	368	
※うち共通分⑮		1,251	910	4,189	2,309	368	△ 9,027
特別損失 ⑯	531,328	3,993	2,904	515,881	7,370	1,180	
※うち共通分⑰		3,993	2,904	13,371	7,370	1,180	△ 28,818
税引前当期利益 ⑱ (⑬ + ⑭ - ⑯)	451,379	277,094	176,624	△ 96,262	356,780	△ 262,856	
営農指導事業分配賦額 ⑲		65,714	65,714	65,714	65,714		
営農指導事業分配賦後 税引前当期利益 ⑳ (⑱ - ⑲)	451,379	211,380	110,910	△ 161,976	291,066		

※ ⑥、⑩、⑫、⑮、⑰は、各事業に直課できない部分

(注) 1. 共通管理費等及び営農指導事業の他部門への配賦基準等は、次のとおりです。

- (1) 共通管理費等
  - ・人件費を除いた事業管理費割りと各部門の配置人頭割りの平均値で、各部門に配賦。
- (2) 営農指導事業
  - ・営農指導事業は各事業と有機的に関連することから、各部門に均等配賦。

2. 配賦割合（1の配賦基準で算出した配賦の割合）は、次のとおりです。

(単位：%)

区分	信 用 事 業	共 濟 事 業	農業関連 事 業	生 活 その他の事業	営 農 指導事業	計
共通管理費等	13.85%	10.08%	46.40%	25.58%	4.09%	100.00%
営農指導事業	25.00%	25.00%	25.00%	25.00%		100.00%

## 6. 会計監査人の監査

2021年度の貸借対照表、損益計算書、剰余金処分計算書及び注記表は、農業協同組合法第37条の2第3項の規定に基づき、みのり監査法人の監査を受けております。

## II 損益の状況

### 1. 最近の5事業年度の主要な経営指標

(単位：百万円、口、人、%)

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
経常収益（事業収益）	10,816	10,706	10,180	9,934	10,101
信用事業収益	1,453	1,502	1,372	1,351	1,339
共済事業収益	1,465	1,372	1,291	1,222	1,198
農業関連事業収益	5,412	5,444	5,362	5,117	5,618
生活その他事業収益	2,366	2,280	2,066	2,131	1,882
営農指導事業収益	120	108	89	113	64
経常利益	800	348	359	342	464
当期剰余金	76	△198	174	305	524
出資金 (出資口数)	3,454 (6,907,342)	3,420 (6,839,221)	3,354 (6,708,744)	3,314 (6,628,663)	3,261 (6,523,431)
純資産額	11,871	11,589	11,656	11,885	12,334
総資産額	168,188	168,641	167,976	174,842	173,831
貯金等残高	152,330	153,332	152,607	158,669	158,304
貸出金残高	48,923	48,136	49,201	49,110	50,221
有価証券残高	－	－	－	－	－
剰余金配当金額	51	34	33	32	32
出資配当額	51	34	33	32	32
事業利用分量配当額	－	－	－	－	50
職員数	694	672	664	627	602
単体自己資本比率	14.22	13.43	13.49	13.39	13.84

- (注) 1. 経常収益は各事業収益の合計額を表しています。  
 2. 当期剰余金は、銀行等の当期利益に相当するものです。  
 3. 信託業務の取り扱いは行っていません。  
 4. 「単体自己資本比率」は「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(平成18年金庁・農水省告示第2号)に基づき算出しております。

### 2. 利益総括表

(単位：百万円、%)

項目	令和2年度	令和3年度	増減
資金運用収支	1,225	1,246	21
役務取引等収支	33	31	△2
その他信用事業収支	△189	△227	△38
信用事業粗利益 (信用事業粗利益率)	1,069 (0.71)	1,277 (0.83)	△19 (△0.03)
事業粗利益 (事業粗利益率)	4,085 (2.35)	4,135 (2.31)	50 (△0.04)
事業純益	260	260	0
実質事業純益	298	277	△21
コア事業純益	298	277	△21
コア事業純益 (投資信託解約損益を除く)	298	277	△21

### 3. 資金運用収支の内訳

(単位：百万円、%)

項目	令和2年度			令和3年度		
	平均残高	利 息	利 回	平均残高	利 息	利 回
資金運用勘定	149,925	1,258	0.84%	152,629	1,189	0.78%
うち預金	100,389	609	0.61%	103,394	569	0.55%
うち有価証券	–	–	–	–	–	–
うち貸出金	49,536	649	1.31%	49,235	620	1.26%
資金調達勘定	158,501	37	0.02%	161,366	28	0.02%
うち貯金・定期積金	158,414	36	0.02%	161,295	27	0.02%
うち借入金	87	1	1.15%	71	1	1.41%
総資金利ざや	–	–	0.36%	–	–	0.36%

(注) 1. 総資金利ざや=資金運用利回り－資金調達原価率（資金調達利回+経費率）

2. 資金運用勘定の利息欄の預金には、信連（又は中金）からの事業利用分量配当金、奨励金が含まれています。

### 4. 受取・支払利息の増減額

(単位：百万円)

項目	令和2年度増減額	令和3年度増減額
受取利息	△1	△69
うち預金	19	△40
うち有価証券	–	–
うち貸出金	△20	△29
支払利息	△2	△9
うち貯金・定期積金	△3	△9
うち譲渡性貯金	–	–
うち借入金	1	0
差引	1	△60

(注) 1. 増減額は前年度対比です。

2. 資金運用勘定の利息欄の預金には、信連（又は中金）からの事業利用分量配当金、奨励金が含まれています。

### III 事業の概況

#### 1. 信用事業

##### (1) 資金に関する指標

###### ① 科目別貯金平均残高

(単位：百万円、%)

種類	令和2年度	令和3年度	増減
流動性貯金	64,590 (40.8)	69,527 (43.1)	4,937
定期性貯金	93,837 (59.2)	91,768 (56.9)	△2,069
その他の貯金	- (-)	- (-)	-
計	158,427 (100.0)	161,295 (100.0)	2,868
譲渡性貯金	- (-)	- (-)	-
合計	158,427 (100.0)	161,295 (100.0)	2,868

(注) 1. 流動性貯金 = 当座貯金 + 普通貯金 + 貯蓄貯金 + 通知貯金など現金化しやすい貯金

2. 定期性貯金 = 定期貯金 + 定期積金など期日まで原則現金化できない貯金

3. ( ) 内は構成比です。

###### ② 定期貯金残高

(単位：百万円、%)

種類	令和2年度	令和3年度	増減
定期貯金	88,581 (100.0)	83,372 (100.0)	△5,209
うち固定金利定期	88,545 (99.9)	83,348 (99.9)	△5,197
うち変動金利定期	36 (0.1)	24 (0.1)	△12

(注) 1. 固定金利定期：預入時に満期日までの利率が確定する定期貯金

2. 変動金利定期：預入期間中の市場金利の変化に応じて金利が変動する定期貯金

3. ( ) 内は構成比です。

##### (2) 貸出金等に関する指標

###### ① 科目別貸出金平均残高

(単位：百万円)

種類	令和2年度	令和3年度	増減
手形貸付	292	405	113
証書貸付	46,862	47,764	902
当座貸越	1,206	1,066	△140
割引手形	-	-	-
合計	48,360	49,235	875

## ② 貸出金の金利条件別内訳残高

(単位：百万円、%)

種類	令和2年度	令和3年度	増減
固定金利貸出	23,821 (48.5)	21,846 (43.5)	△1,975
変動金利貸出	25,288 (51.5)	28,375 (56.5)	3,087
合計	49,109 (100.0)	50,221 (100.0)	1,112

(注) ( ) 内は構成比です。

## ③ 貸出金の担保別内訳残高

(単位：百万円)

種類	令和2年度	令和3年度	増減
貯金・定期積金等	413	363	△50
有価証券	—	—	—
動産	—	—	—
不動産	5,554	4,747	△807
その他担保物	59	42	△17
小計	6,026	5,152	△874
農業信用基金協会保証	32,517	34,244	1,727
その他保証	8,262	8,736	474
小計	40,779	42,980	2,201
信用用	2,304	2,089	△215
合計	49,109	50,221	1,112

## ④ 債務保証の担保別内訳残高

該当する取引はありません。

## ⑤ 貸出金の使途別内訳残高

(単位：百万円、%)

種類	令和2年度	令和3年度	増減
設備資金	41,596 (84.7)	43,373 (86.4)	1,777
運転資金	7,513 (15.3)	6,848 (13.6)	△665
合計	49,109 (100.0)	50,221 (100.0)	1,112

(注) ( ) 内は構成比です。

## ⑥ 貸出金の業種別残高

(単位：百万円、%)

種類	令和2年度	令和3年度	増減
農業	4,007 ( 8.2)	3,631 ( 7.2)	△ 376
林業	23 ( 0.0)	21 ( 0.0)	△ 2
水産業	290 ( 0.6)	333 ( 0.7)	43
製造業	2,855 ( 5.7)	3,045 ( 6.1)	190
鉱業	121 ( 0.2)	172 ( 0.3)	51
建設・不動産業	3,672 ( 7.3)	3,712 ( 7.4)	40
電気・ガス・熱供給水道業	405 ( 0.8)	507 ( 1.0)	102
運輸・通信業	1,195 ( 2.4)	1,313 ( 2.6)	118
金融・保険業	1,752 ( 3.5)	1,702 ( 3.4)	△ 50
卸売・小売・サービス業・飲食業	8,763 ( 17.4)	9,734 ( 19.4)	971
地方公共団体	399 ( 0.8)	344 ( 0.7)	△ 55
非営利法人	- ( -)	- ( -)	-
その他の	25,627 ( 52.2)	25,707 ( 51.2)	80
合計	49,109 ( 98.9)	50,221 (100.0)	1,112

(注) ( ) 内は構成比です。

## ⑦ 主要な農業関係の貸出金残高

### 1) 営農類型別

(単位：百万円)

種類	令和2年度	令和3年度	増減
農業	4,109	3,718	△ 391
穀作	10	9	△ 1
野菜・園芸	97	92	△ 5
果樹・樹園農業	172	158	△ 14
工芸作物	3	3	0
養豚・肉牛・酪農	2,215	1,999	△ 216
養鶏・養卵	7	4	△ 3
養蚕	-	-	-
その他農業	1,605	1,453	△ 152
農業関係団体等	-	-	-
合計	4,109	3,718	△ 391

- (注) 1. 農業関係の貸出金とは、農業者、農業法人及び農業関連団体等に対する農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に関する事業に必要な資金等が該当します。  
なお、上記⑥の貸出金の業種別残高の「農業」は、農業者や農業法人等に対する貸出金の残高です。
2. 「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれています。
3. 「農業関連団体等」には、JA や全農（経済連）とその子会社等が含まれています。
4. 「営農類型別」の合計と「⑥貸出金の業種別残高」の「農業」の残高は、集計方法が異なるため一致しておりません。

## 2) 資金種類別

### 〔貸出金〕

(単位：百万円)

種類	令和2年度	令和3年度	増減
プロパー資金	1,519	1,402	△ 117
農業制度資金	2,590	2,316	△ 274
農業近代化資金	1,798	1,738	△ 60
その他制度資金	792	578	△ 214
合計	4,109	3,718	△ 391

- (注) 1. プロパー資金とは、当組合原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。  
 2. 農業制度資金には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体が利子補給金等を行うことでJAが低利で融資するもの、③日本政策金融公庫が直接融資するものがあり、ここでは①の転貸資金と②を対象としています。  
 3. その他制度資金には、農業経営改善促進資金（スーパーS資金）や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

### 〔受託貸付金〕

(単位：百万円)

種類	令和2年度	令和3年度	増減
日本政策金融公庫資金	—	—	—
その他の	—	—	—
合計	—	—	—

- (注) 日本政策金融公庫資金は、農業（旧農林漁業金融公庫）にかかる資金をいいます。

⑧ 農協法に基づく開示債権の状況及び金融再生法開示債権区分に基づく債権の保全状況

(単位：百万円)

債 権 区 分		債 権 額	保 全 額			
			担 保	保 証	引 当	合 計
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	令和2年度	141	69	19	53	141
	令和3年度	184	66	74	44	184
危 険 債 権	令和2年度	344	192	92	60	344
	令和3年度	317	161	106	50	317
要 管 理 債 権	令和2年度	511	156	355	0	511
	令和3年度	494	139	355	0	494
三月以上延滞債権	令和2年度	0	0	0	0	0
	令和3年度	0	0	0	0	0
貸出条件緩和債権	令和2年度	511	156	355	0	511
	令和3年度	494	139	355	0	494
小 計		令和2年度	996	417	466	113
		令和3年度	995	366	535	94
正 常 債 権		令和2年度	48,142			
		令和3年度	49,253			
合 計		令和2年度	49,138			
		令和3年度	50,248			

(注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいいます。

2. 危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権をいいます。

3. 要管理債権

4. 「三月以上延滞債権」と5. 「貸出条件緩和債権」の合計額をいいます。

4. 三月以上延滞債権

元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権及び危険債権に該当しないものをいいます。

5. 貸出条件緩和債権

債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものをいいます。

6. 正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記に掲げる債権以外のものに区分される債権をいいます。

⑨ 元本補てん契約のある信託に係る農協法に基づく開示債権の状況

該当する取引はありません。

⑩ 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

(単位：百万円)

区分	令和2年度					令和3年度				
	期首 残高	期 中 増加額	期中減少額		期末 残高	期首 残高	期 中 増加額	期中減少額		期末 残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	121	113	—	121	113	113	89	—	113	89
個別貸倒引当金	136	113	—	136	113	113	94	—	113	94
合 計	257	226	—	257	226	226	183	—	226	183

⑪ 貸出金償却の額

(単位：百万円)

項目	令和2年度	令和3年度
貸 出 金 償 却 額	—	—



### (3) 内国為替取扱実績

(単位：件、百万円)

種類		令和2年度		令和3年度	
		仕向	被仕向	仕向	被仕向
送金・振込為替	件数	44,693	206,511	44,780	200,150
	金額	37,568	54,905	40,699	51,545
代金取立為替	件数	0	12	1	10
	金額	0	18	7	5
雜為替	件数	1,864	563	1,804	499
	金額	2,269	74	2,068	59
合計	件数	46,557	207,086	46,585	200,659
	金額	39,837	54,997	42,774	51,609

### (4) 有価証券に関する指標

#### ① 種類別有価証券平均残高

該当する取引はありません。

#### ② 商品有価証券種類別平均残高

該当する取引はありません。

#### ③ 有価証券残存期間別平均残高

該当する取引はありません。

### (5) 有価証券等の時価情報等

#### ① 有価証券の時価情報

該当する取引はありません。

#### ② 金銭の信託の時価情報

該当する取引はありません。

#### ③ デリバティブ取引、金融等デリバティブ取引、有価証券店頭デリバティブ取引

該当する取引はありません。

## 2. 共済取扱実績

### (1) 長期共済新契約高・長期共済保有高

(単位：百万円)

項 目	令和2年度		令和3年度		
	新 契 約 高	保 有 高	新 契 約 高	保 有 高	
生 命 総 合 共 済	終 身 共 済	5,654	164,320	5,273	151,856
	定期 生命 共 済	460	1,260	441	1,498
	養 老 生 命 共 済	909	59,834	544	51,714
	うちこども共済	430	16,267	250	14,604
	医 療 共 済	73	3,224	140	2,878
	が ん 共 済	—	169	—	166
	定期 医 療 共 済	—	2,846	—	2,646
	介 護 共 済	78	789	65	816
	年 金 共 済	—	81	—	81
建 物 更 生 共 済		44,192	353,728	28,270	349,771
合 計		51,366	586,251	34,736	561,429

- (注) 1. 「金額」欄は、保障金額（がん共済はがん死亡共済金額、医療共済及び定期医療共済は死亡給付金額（付加された定期特約金額等を含む。）、介護共済は一時払契約の死亡給付金額、年金共済は付加された定期特約金額）です。  
 2. こども共済は、養老生命共済の内書きです。  
 3. 平成5年度以前に契約された養老生命、こども、終身、年金の各共済契約については、生命総合共済に合算して計上しています。

### (2) 医療系共済の入院共済金額保有高

(単位：百万円)

項 目	令和2年度		令和3年度	
	新 契 約 高	保 有 高	新 契 約 高	保 有 高
医 療 共 済	4	94	3	69
が ん 共 済	—	9	—	9
定 期 医 療 共 済	—	3	—	2
合 計	4	106	3	82

- (注) 金額は、入院共済金を表示しています。

### (3) 介護共済・生活障害共済・特定重度疾病共済の共済金額保有高

(単位：百万円)

項目	令和2年度		令和3年度	
	新契約高	保有高	新契約高	保有高
介護共済	156	1,560	112	1,491
生活障害共済(一時金型)	40	189	267	415
生活障害共済(定期年金型)	20	43	13	35
特定重度疾病共済	1,368	1,313	430	1,009
合計	1,584	3,105	824	2,952

(注) 金額は、介護共済は介護共済金額、生活障害共済は生活障害共済金額又は生活障害年金年額、特定重度疾病共済は特定重度疾病共済金額を表示しています。

### (4) 年金共済の年金保有高

(単位：百万円)

項目	令和2年度		令和3年度	
	新契約高	保有高	新契約高	保有高
年金開始前	187	2,076	59	1,998
年金開始後	－	994	－	997
合計	187	3,070	59	2,985

(注) 金額は、年金年額（利率変動型年金にあっては、最低保証年金額）を表示しています。

### (5) 短期共済新契約高

(単位：百万円)

種類	令和2年度		令和3年度	
	金額	掛金	金額	掛金
火災共済	23,688	24	22,443	23
自動車共済		1,116		1,115
傷害共済	11,658	2	14,663	1
定額定期生命共済	28	0	24	0
賠償責任共済		1		0
自賠責共済		263		237
合計		1,406		1,378

(注) 1. 金額は、保障金額を表示しています。

2. 自動車共済、賠償責任共済、自賠責共済は掛金総額です。

### 3. 農業関連事業取扱実績

#### (1) 買取購買品（生産資材）取扱実績

(単位：百万円)

種類	令和2年度		令和3年度	
	供給高	手数料	供給高	手数料
肥料	455	72	460	72
農薬	470	89	449	105
飼料	1,263	56	1,592	69
農業機械	248	30	176	22
施設資材	949	140	900	114
自動車	65	1	64	1
燃料	207	24	284	20
合計	3,657	412	3,928	405

#### (2) 受託販売品取扱実績

(単位：百万円)

種類	令和2年度		令和3年度	
	販売高	手数料	販売高	手数料
米	1	0	—	—
野菜	1,882	35	1,735	44
果実	2,661	49	3,019	70
花き・花木	219	4	251	6
畜産物	4,126	46	4,069	54
直売所他	1,344	200	1,258	209
合計	10,233	334	10,335	384

#### (3) 買取販売品取扱実績

(単位：百万円)

種類	令和2年度		令和3年度	
	販売高	手数料	販売高	手数料
米	42	1	50	1
農産	134	14	229	40
直売所	401	87	388	57
合計	577	102	668	99

#### (4) その他の農業関連事業実績

(単位：百万円)

種類	令和2年度		令和3年度	
	収益	費用	収益	費用
育苗センター	29	21	29	18
ライスセンター	4	1	4	1
みかん選果場会計	531	484	592	546
共同選果会計	11	0	23	0
貯蔵庫	0	0	1	0
ハウスリース事業	1	0	14	2
ドローン事業	—	—	14	10
経済契約（預託利息他）	9	0	14	—
合計	585	506	694	579

## 4. 生活その他事業取扱実績

### (1) 買取購買品（生活物資）取扱実績

(単位：百万円)

種類	令和2年度		令和3年度	
	供給高	粗収益 (手数料)	供給高	粗収益 (手数料)
食 品	449	82	373	65
衣 料 品	1	0	1	0
耐久消費材	152	14	151	12
日用保健雑貨	29	4	42	6
家庭燃料	665	505	668	450
その他の	39	6	60	5
合計	1,335	611	1,296	540

### (2) 利用事業実績

(単位：百万円)

種類	令和2年度		令和3年度	
	収益	費用	収益	費用
葬祭事業	552	246	647	286
旅行事業	0	0	0	0
コイン精米機	6	0	6	0
コインランドリー	2	1	1	0
簡易郵便局	1	0	0	－
その他利用事業	5	4	5	4
合計	566	251	661	291

※ 費用の中には減価償却費等の事業管理費は含んでおりません。

### (3) その他生活関連事業実績

(単位：百万円)

種類	令和2年度		令和3年度	
	収益	費用	収益	費用
自動車整備センター	65	32	64	30
経済契約事業	0	0	0	0
合計	65	32	65	30

※ 費用の中には減価償却費等の事業管理費は含んでおりません。

## 5. 指導事業

(単位：百万円)

項目		令和2年度	令和3年度
収入	補助事業受入分担金	67	34
	賦課金	3	3
	実費収入	11	51
	計	81	89
支出	営農改善費	7	41
	生活文化改善費	0	0
	教育情報費	7	6
	部会活動費	40	41
	補助事業支出	72	32
	果実等計画生産推進費	0	0
	計	126	123

## IV 経営諸指標

### 1. 利益率

(単位：%)

項目	令和2年度	令和3年度	増減
総資産経常利益率	0.20	0.26	0.06
資本経常利益率	2.94	3.91	0.97
総資産当期純利益率	0.18	0.30	0.12
資本当期純利益率	2.62	4.42	1.80

- (注) 1. 総資産経常利益率 = 経常利益／総資産（債務保証見返を除く）平均残高 × 100  
 2. 資本経常利益率 = 経常利益／純資産勘定平均残高 × 100  
 3. 総資産当期純利益率 = 当期剩余金（税引後）／総資産（債務保証見返除）平均残高 × 100  
 4. 資本当期純利益率 = 当期剩余金（税引後）／純資産勘定平均残高 × 100

### 2. 貯貸率・貯証率

(単位：%)

区分		令和2年度	令和3年度	増減
貯貸率	期末	30.95	31.92	0.97
	期中平均	31.26	30.52	△ 0.74
貯証率	期末	—	—	—
	期中平均	—	—	—

- (注) 1. 貯貸率（期末） = 貸出金残高／貯金残高 × 100  
 2. 貯貸率（期中平均） = 貸出金平均残高／貯金平均残高 × 100  
 3. 貯証率（期末） = 有価証券残高／貯金残高 × 100  
 4. 貯証率（期中平均） = 有価証券平均残高／貯金平均残高 × 100

### 3. 職員一人当たり指標

(単位：百万円)

項目		令和2年度	令和3年度
信用事業	貯金残高	409	425
	貸出金残高	126	136
共済事業	長期共済保有高	1,511	1,517
経済事業	購買品取扱高	13	14
	販売品取扱高	28	30

(注) 職員数は、正職員数にて算出しております。

### 4. 一店舗当たり指標

(単位：百万円)

項目		令和2年度	令和3年度
貯金残高		12,205	12,103
貸出金残高		3,778	3,863
長期共済保有高		45,096	43,187
購買品供給高		383	402

(注) 店舗数は、為替取り扱い店舗数にて算出しております。

# V 自己資本の充実の状況

## 1. 自己資本の構成に関する事項

(単位：百万円、%)

項目	令和2年度	令和3年度
コア資本にかかる基礎項目		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る組合員資本の額	9,938	10,339
うち、出資金及び資本準備金の額	3,314	3,262
うち、再評価積立金の額	-	-
うち、利益剰余金の額	6,719	7,236
うち、外部流出予定額（△）	32	82
うち、上記以外に該当するものの額	62	77
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	162	163
うち、一般貸倒引当金及び相互援助積立金コア資本算入額	162	163
うち、適格引当金コア資本算入額	-	-
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
うち、回転出資金の額	-	-
うち、上記以外に該当するものの額	-	-
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	359	239
コア資本にかかる基礎項目の額（イ）	10,458	10,741
コア資本にかかる調整項目		
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものと除く。）の額の合計額	22	19
うち、のれんに係るもの		
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	22	19
繰延税金資産（一時差異に係るものと除く。）の額	-	-
適格引当金不足額	-	-
証券化に伴い増加した自己資本に相当する額	-	-
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	-	-
前払年金費用の額	-	-
自己保有普通出資等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	-	-
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	-	-
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	-	-
特定項目に係る十パーセント基準超過額	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	-	-

項目		令和2年度	令和3年度
特定項目に係る十五パーセント基準超過額		-	-
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに 関連するものの額		-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に 関連するものの額		-	-
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関 連するものの額		-	-
コア資本に係る調整項目の額 (口)		22	19
自己資本			
自己資本の額 ((イ) - (口)) (ハ)		10,436	10,722
リスク・アセット等			
信用リスク・アセットの額の合計額		70,435	70,017
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される 額の合計額		2,657	2,655
うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービ シング・ライツに係るもの）を除く			
うち、繰延税金資産			
うち、前払年金費用			
うち、他の金融機関向けエクスポージャー		-	-
うち、土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額に 係るものの額		2,657	2,655
うち、上記以外に該当するものの額		-	-
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除 して得た額		7,467	7,406
信用リスク・アセット調整額		-	-
オペレーショナル・リスク相当調整額		-	-
リスク・アセット等の額の合計額 (二)		77,902	77,423
自己資本比率			
自己資本比率 ((ハ) / (二))		13.39%	13.84%

- (注) 1. 「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(平成27年金融庁・農水省告示第7号)に基づき算出しています。
2. 当JAは、信用リスク・アセット額の算出にあたっては標準的手法、適格金融資産担保の適用については信用リスク削減手法の簡便手法を、オペレーショナル・リスク相当額の算出にあたっては基礎的手法を採用しております。
3. 当JAが有するすべての自己資本とリスクを対比して、自己資本比率を計算しています。

## 2. 自己資本の充実度に関する事項

### ① 信用リスクに対する所要自己資本の額及び区分ごとの内訳

(単位：百万円)

信用リスクアセット (標準的手法)	令和2年度			令和3年度		
	エクスポート ジャヤーの 期末残高	リスク・ アセット額 a	所要自己 資本額 b=a×4%	エクスポート ジャヤーの 期末残高	リスク・ アセット額 a	所要自己 資本額 b=a×4%
現金	977	—	—	1,069	—	—
我が国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	400	—	—	345	—	—
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—
地方公共団体金融機関向け	—	—	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	101,672	20,334	813	99,049	19,810	792
法人等向け	441	423	17	399	383	15
中小企業等向け及び個人向け	2,725	1,270	51	2,443	1,133	45
抵当権付住宅ローン	9,760	3,385	135	9,816	3,406	136
不動産取得等事業向け	17	17	1	12	12	0
三月以上延滞等	10	9	0	62	9	0
取立未済手形	12	2	0	9	2	0
信用保証協会等保証付	32,533	3,236	129	34,261	3,410	136
株式会社地域経済活性化支援機 構等による保証付	—	—	—	—	—	—
共済約款貸付	—	—	—	—	—	—
出資等	1,836	1,836	73	1,753	1,753	70
(うち出資等のエクスポート ジャヤー)	1,836	1,836	73	1,753	1,753	70
(うち重要な出資のエクスポート ジャヤー)	—	—	—	—	—	—
上記以外	21,938	37,266	1,491	22,139	37,447	1,498
(うち他の金融機関等の対象資本調達手段の うち対象普通出資等及びその他外部TLAC 関連調達手段に該当するもの以外のものに 係るエクスポートジャヤー)	—	—	—	—	—	—
(うち農林中央金庫又は農業協同組合連合 会の対象資金調達手段に係るエクスポート ジャヤー)	10,340	25,849	1,034	10,340	25,849	1,034
(うち特定項目のうち調整項目に算入され ない部分に係るエクスポートジャヤー)	—	—	—	—	—	—
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える 議決権を保有している他の金融機関等に 係るその他外部TLAC関連調達手段に 係るエクスポートジャヤー)	—	—	—	—	—	—
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える議 決権を保有していない他の金融機関等に係るそ の他外部TLAC関連調達手段に係る5%基準額 を上回る部分に係るエクスポートジャヤー)	—	—	—	—	—	—
(うち上記以外のエクスポートジャヤー)	11,599	11,416	457	11,800	11,597	464
証券化	—	—	—	—	—	—
(うちSTC要件適用分)	—	—	—	—	—	—
(うち非STC適用分)	—	—	—	—	—	—
再証券化	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算 が適用されるエクスポートジャヤー	—	—	—	—	—	—
(うちルックスルーワン)	—	—	—	—	—	—

信用リスクアセット (標準的手法)		令和2年度			令和3年度		
		エクスポート ジヤーの 期末残高	リス ク・ アセッ ト額 a	所要自 己資 本額 b=a × 4%	エクスポート ジヤーの 期末残高	リス ク・ アセッ ト額 a	所要自 己資 本額 b=a × 4%
	(うちマンデート方式)	—	—	—	—	—	—
	(うち蓋然性方式 250%)	—	—	—	—	—	—
	(うち蓋然性方式 400%)	—	—	—	—	—	—
	(うちフォールバック方式)	—	—	—	—	—	—
	経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	—	2,657	106	—	2,655	106
	他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポートジヤーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかつたものの額(△)	—	—	—	—	—	—
	標準的手法を適用するエクスポートジヤー別計	172,321	70,435	2,817	171,357	70,020	2,801
	CVA リスク相当額 ÷ 8 %	—	—	—	—	—	—
	中央清算機関連エクスポートジヤー	—	—	—	—	—	—
	合計(信用リスク・アセットの額)	172,321	70,435	2,817	171,357	70,020	2,801
	オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額 <基礎的手法>	オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額 a	所要自己資本額 b=a × 4%	オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額 a	所要自己資本額 b=a × 4%	オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額 a	所要自己資本額 b=a × 4%
		7,467	299	7,406	296		
	所要自己資本額計	リスク・アセット等 (分母) 計 a	所要自己資本額 b=a × 4%	リスク・アセット等 (分母) 計 a	所要自己資本額 b=a × 4%	リスク・アセット等 (分母) 計 a	所要自己資本額 b=a × 4%
		77,902	3,116	77,424	3,097		

- (注) 1. 「リスク・アセット額」の欄には、信用リスク削減効果適用後のリスク・アセット額を原エクスポートジヤーの種類ごとに記載しています。
2. 「エクスポートジヤー」とは、リスクにさらされている資産（オフ・バランスを含む）のことをいい、具体的には貸出金や有価証券等が該当します。
3. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞している債務者に係るエクスポートジヤー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウエイトが150%になったエクスポートジヤーのことです。
4. 「出資等」とは、出資等エクスポートジヤー、重要な出資のエクスポートジヤーが該当します。
5. 「証券化(証券化エクスポートジヤー)」とは、原資産にかかる信用リスクを優先劣後構造のある二以上のエクスポートジヤーに階層化し、その一部または全部を第三者に移転する性質を有する取引にかかるエクスポートジヤーのことです。
6. 「経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるもの」とは、土地再評価差額金に係る経過措置による、リスク・アセットの額及び調整項目にかかる経過措置によりなお従前の例によるものとしてリスク・アセットに算入したものが該当します。
7. 「上記以外」には、未決済取引・その他の資産（固定資産等）・間接清算参加者向け・信用リスク削減方法として用いる保証またはクレジットデリバティブの免責額が含まれます。
8. 当JAでは、オペレーショナル・リスク相当額の算出にあたって、基礎的手法を採用しています。  
 <オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額の算出方法(基礎的手法)>  

$$\frac{(\text{粗利益(正の値の場合に限る)} \times 15\%) \text{の直近3年間の合計額}}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}} \div 8\%$$

### 3. 信用リスクに関する事項

#### ① 標準的手法に関する事項

当JAでは自己資本比率算出にかかる信用リスク・アセット額は告示に定める標準的手法により算出しています。また、信用リスク・アセットの算出にあたって、リスク・ウェイトの判定に当たり使用する格付等は次のとおりです。

(ア) リスク・ウェイトの判定に当たり使用する格付は、以下の適格格付機関による依頼格付のみ使用し、非依頼格付は使用しないこととしています。

適格格付機関
株式会社格付投資情報センター（R&I）
株式会社日本格付研究所（JCR）
ムーディーズ・インベスター・サービス・インク（Moody's）
S&P グローバル・レーティング（S&P）
フィッチレーティングスリミテッド（Fitch）

(注)「リスク・ウェイト」とは、当該資産を保有するために必要な自己資本額を算出するための掛目のことです。

(イ) リスク・ウェイトの判定に当たり使用する適格格付機関の格付またはカントリー・リスク・スコアは、主に以下のとおりです。

エクspoージャー	適格格付機関	カントリー・リスク・スコア
金融機関向けエクスポージャー		日本貿易保険
法人等向けエクスポージャー (長期)	R&I、Moody's、JCR、 S&P、Fitch	
法人等向けエクspoージャー (短期)	R&I、Moody's、JCR、 S&P、Fitch	

(注)「リスク・ウェイト」とは、当該資産を保有するために必要な自己資本額を算出するための掛目のことです。

② 信用リスクに関するエクスポート（地域別、業種別、残存期間別）及び三月以上延滞エクスポートの期末残高

(単位：百万円)

	信用リスクに関するエクスポートの残高	令和2年度			三月以上延滞エクスポートの残高	令和3年度			三月以上延滞エクスポート
		うち貸出金等	うち債券	うち店頭デリバティブ		うち貸出金等	うち債券	うち店頭デリバティブ	
国 内	172,447	49,141	—	—	67	171,357	50,250	—	—
国 外	—	—	—	—	—	—	—	—	—
地域別残高計	172,447	49,141	—	—	67	171,357	50,250	—	—
法 人	農業	409	409	—	—	—	400	400	—
	林業	—	—	—	—	—	—	—	—
	水産業	—	—	—	—	—	—	—	—
	製造業	—	—	—	—	—	—	—	—
	鉱業	—	—	—	—	—	—	—	—
	建設・不動産業	—	—	—	—	—	—	—	—
	電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—	—	—
	運輸・通信業	—	—	—	—	—	—	—	—
	金融・保険業	99,968	1,165	—	—	96,480	1,165	—	—
	卸売・小売・飲食・サービス業	3	3	—	—	—	3	3	—
業種別残高計	日本国政府・地方公共団体	409	409	—	—	—	347	347	—
	上記以外	383	383	—	—	11	365	365	—
	個 人	46,773	46,772	—	—	56	47,972	47,970	—
	そ の 他	24,502	—	—	—	—	25,790	—	—
	1年以下	101,023	2,220	—	—	—	97,204	1,889	—
	1年超3年以下	1,995	1,995	—	—	—	2,318	2,318	—
	3年超5年以下	1,714	1,714	—	—	—	1,416	1,416	—
	5年超7年以下	1,557	1,557	—	—	—	1,352	1,352	—
	7年超10年以下	2,465	2,465	—	—	—	2,469	2,469	—
	10年超	38,375	38,375	—	—	—	40,138	40,138	—
期間の定めのないもの	期間の定めのないもの	25,318	815	—	—	—	26,459	667	—
	残存期間別残高計	172,447	49,141	—	—	—	171,357	50,250	—

(注) 1. 信用リスクに関するエクスポートの残高には、資産（自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポートに該当するもの、証券化エクスポートに該当するものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。

2. 「貸出金等」とは、貸出金のほか、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランスシート・エクスポートを含んでいます。「コミットメント」とは、契約した期間及び融資枠の範囲でお客様のご請求に基づき、金融機関が融資を実行する契約のことをいいます。「貸出金等」にはコミットメントの融資可能残額も含めています。

3. 「店頭デリバティブ」とは、スワップ等の金融派生商品のうち相対で行われる取引のものをいいます。  
4. 「三月以上延滞エクスポート」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞しているエクスポートをいいます。

③ 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

(単位：百万円)

区分	令和2年度				令和3年度					
	期首 残高	期中 増加額	期中減少額 目的使用	その他	期末 残高	期首 残高	期中 増加額	期中減少額 目的使用	その他	期末 残高
一般貸倒引当金	121	113	—	121	113	113	89	—	113	89
個別貸倒引当金	136	113	—	136	113	113	94	—	113	94

④ 業種別の個別貸倒引当金の期末残高・期中増減額及び貸出金償却の額

(単位：百万円)

区分	令和2年度					令和3年度							
	期首 残高	期中 増加額	期中減少額 目的使用	期末 残高	貸出金 償却	期首 残高	期中 増加額	期中減少額 目的使用	期末 残高	貸出金 償却			
国内	136	113	—	136	113	—	113	93	—	113	93	—	
国外	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
地域別計	136	113	—	136	113	—	113	93	—	113	93	—	
法人	農業	12	6	—	12	6	—	6	7	—	6	7	—
	林業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	水産業	1	3	—	1	3	—	3	—	—	3	—	—
	製造業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	上記以外	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
個人	123	104	—	123	104	—	104	86	—	104	86	—	
業種別計	136	113	—	136	113	—	113	93	—	113	93	—	

⑤ 信用リスク削減効果勘案後の残高及びリスク・ウェイト1250%を適用する残高

(単位：百万円)

		令和2年度			令和3年度		
		格付あり	格付なし	計	格付あり	格付なし	計
信用リスク削減効果勘案後残高	リスク・ウェイト0%	—	2,104	2,104	—	2,061	2,061
	リスク・ウェイト10%	—	32,356	32,356	—	34,095	34,095
	リスク・ウェイト20%	—	102,384	102,384	—	99,639	99,639
	リスク・ウェイト35%	—	9,677	9,677	—	9,743	9,743
	リスク・ウェイト50%	—	822	822	—	855	855
	リスク・ウェイト75%	—	1,032	1,032	—	852	852
	リスク・ウェイト100%	—	16,386	16,386	—	16,424	16,424
	リスク・ウェイト150%	—	3	3	—	2	2
	リスク・ウェイト250%	—	10,340	10,340	—	10,340	10,340
	その他	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイト1250%		—	—	—	—	—	—
計		—	175,104	175,104	—	174,011	174,011

(注) 1. 信用リスクに関するエクスボージャーの残高には、資産（自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスボージャーに該当するもの、証券化エクスボージャーに該当するものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。

2. 「格付あり」にはエクスボージャーのリスク・ウェイト判定において格付を使用しているもの、「格付なし」には、エクスボージャーのリスク・ウェイト判定において格付を使用していないものを記載しています。なお、格付は適格格付機関による依頼格付のみ使用しています。

3. 経過措置によってリスク・ウェイトを変更したエクスボージャーについては、経過措置適用後のリスク・ウェイトによって集計しています。また、経過措置によってリスク・アセットを算入したものについても集計の対象としています。

4. 1250%には、非同時決済取引に係るもの、信用リスクの削減手法として用いる保証又は、クレジット・デリバティブの免責額に係るもの、重要な出資に係るエクスボージャーなどリスク・ウェイト1250%を適用したエクスボージャーがあります。

## 4. 信用リスク削減手法に関する事項

### ① 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

「信用リスク削減手法」とは、自己資本比率算出における信用リスク・アセット額の算出において、エクスポートヤーに対して一定の要件を満たす担保や保証等が設定されている場合に、エクスポートヤーのリスク・ウエイトに代えて、担保や保証人に対するリスク・ウエイトを適用するなど信用リスク・アセット額を軽減する方法です。

当JAでは、信用リスク削減手法を「自己資本比率算出要領」にて定めています。

信用リスク削減手法として、「適格金融資産担保」、「保証」、「貸出金と自組合貯金の相殺」を適用しています。

適格金融資産担保付取引とは、エクスポートヤーの信用リスクの全部または一部が、取引相手または取引相手のために第三者が提供する適格金融資産担保によって削減されている取引をいいます。当JAでは、適格金融資産担保取引について信用リスク削減手法の簡便手法を用いています。

保証については、被保証債権の債務者よりも低いリスク・ウエイトが適用される中央政府等、わが国の地方公共団体、地方公共団体金融機構、わが国の政府関係機関、外国の中央政府以外の公共部門、国際開発銀行、及び金融機関または証券会社、これら以外の主体で長期格付がA-またはA3以上の格付を付与しているものを適格保証人とし、エクスポートヤーのうち適格保証人に保証された被保証部分について、被保証債権のリスク・ウエイトに代えて、保証人のリスク・ウエイトを適用しています。

貸出金と自組合貯金の相殺については、①取引相手の債務超過、破産手続開始の決定その他これらに類する事由にかかわらず、貸出金と自組合貯金の相殺が法的に有効であることを示す十分な根拠を有していること、②同一の取引相手との間で相殺契約下にある貸出金と自組合貯金をいずれの時点においても特定することができること、③自組合貯金が継続されないリスクが監視及び管理されていること、④貸出金と自組合貯金の相殺後の額が、監視及び管理されていること、の条件をすべて満たす場合に、相殺契約下にある貸出金と自組合貯金の相殺後の額を信用リスク削減手法適用後のエクスポートヤー額としています。

担保に関する評価及び管理方針は、一定のルールのもと定期的に担保確認及び評価の見直しを行っています。なお、主要な担保の種類は自組合貯金です。

### ② 信用リスク削減手法が適用されたエクスポートヤーの額

(単位：百万円)

区分	令和2年度			令和3年度		
	適格金融 資産担保	保 証	クレジット・ デリバティブ	適格金融 資産担保	保 証	クレジット・ デリバティブ
地方公共団体金融機構向け	—	—	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—
金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け	—	—	—	—	—	—
法人等向け	—	—	—	—	—	—
中小企業等向け及び個人向け	136	1,470	—	102	1,379	—
抵当権付住宅ローン	—	—	—	—	—	—
不動産取得等事業向け	—	—	—	—	—	—
三月以上延滞等	—	—	—	—	—	—
証券化	—	—	—	—	—	—
上記以外	176	3	—	170	6	—
合 計	312	1,473	—	272	1,385	—

- (注) 1. 「エクスポートヤー」とは、リスクにさらされている資産（オフ・バランスを含む）のことをいい、主なものとしては貸出金や有価証券等が該当します。  
2. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞しているエクスポートヤーのことです。  
3. 「証券化（証券化エクスポートヤー）」とは、原資産にかかる信用リスクを優先劣後構造のある二以上のエクスポートヤーに階層化し、その一部または全部を第三者に移転する性質を有する取引にかかるエクスポートヤーのことです。  
4. 「上記以外」には、現金・外国の中央政府及び中央銀行向け・国際決済銀行等向け・外国の中央政府等以外の公共部門向け・国際開発銀行向け・取立未済手形・未決済取引・その他の資産（固定資産等）が含まれます。  
5. 「クレジット・デリバティブ」とは、第三者（参照組織）の信用リスクを対象に、信用リスクを回避したい者（プロテクションの買い手）と信用リスクを取得したい者（プロテクションの売り手）との間で契約を結び、参照組織に信用事由（延滞・破産など）が発生した場合にプロテクションの買い手が売り手から契約に基づく一定金額を受領する取引をいいます。

## 5. 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

該当する取引はありません。

## 6. 証券化エクスポートジャヤーに関する事項

該当する取引はありません。

## 7. 出資等エクスポートジャヤーに関する事項

### ① 出資等エクスポートジャヤーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

「出資等」とは、主に貸借対照表上の有価証券勘定及び外部出資勘定の株式又は出資として計上されているものであり、当JAにおいては、これらを①子会社及び関連会社株式、②その他有価証券、③系統及び系統外出資に区分して管理しています。

①子会社及び関連会社については、経営上も密接な連携を図ることにより、当JAの事業のより効率的運営を目的として、株式を保有しています。これらの会社の経営については毎期の決算書類の分析の他、毎月定期的な連絡会議を行う等適切な業況把握に努めています。

②その他の有価証券については中長期的な運用目的で保有するものであり、適切な市場リスクの把握及びコントロールに努めています。具体的には、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及びポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会で運用方針を定めるとともに経営層で構成するALM委員会を定期的に開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。運用部門は理事会で決定した運用方針及びALM委員会で決定された取引方針などに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引については企画管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的にリスク量の測定を行い経営層に報告しています。

③系統出資については、会員としての総会等への参画を通じた経営概況の監督に加え、日常的な協議を通じた連合会等の財務健全化を求めており、系統外出資についても同様の対応を行っています。

なお、これらの出資等の評価等については、①子会社及び関連会社については、取得原価を記載し、毀損の状況に応じて子会社等損失引当金を、②その他有価証券については時価評価を行った上で、取得原価との評価差額については、「その他有価証券評価差額金」として純資産の部に計上しています。③系統及び系統外出資については、取得原価を記載し、毀損の状況に応じて外部出資等損失引当金を設定しています。また、評価等重要な会計方針の変更等があれば、注記表にその旨記載することとしています。

### ② 出資等エクスポートジャヤーの貸借対照表計上額及び時価

(単位：百万円)

	令和2年度		令和3年度	
	貸借対照表計上額	時価評価額	貸借対照表計上額	時価評価額
上場	—	—	—	—
非上場	11,010	11,010	10,927	10,927
合計	11,010	11,010	10,927	10,927

(注) 「時価評価額」は、時価のあるものは時価、時価のないものは貸借対照表計上額の合計額です。

### ③ 出資等エクスポートジャヤーの売却及び償却に伴う損益

(単位：百万円)

令和2年度			令和3年度		
売却益	売却損	償却額	売却益	売却損	償却額
—	—	—	—	—	—

- ④ 貸借対照表で認識され、損益計算書で認識されない評価損益の額  
(保有目的区分をその他有価証券としている株式・出資の評価損益等)

(単位：百万円)

令和2年度		令和3年度	
評 値 益	評 値 損	評 値 益	評 値 損
—	—	—	—

- ⑤ 貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額  
(子会社・関連会社株式の評価損益等)

該当する取引はありません。

## 8. リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項

該当する取引はありません。

## 9. 金利リスクに関する事項

### ① 金利リスクの算定手法の概要

金利リスクとは、金利変動に伴い損失を被るリスクで、資産と負債の金利又は期間のミスマッチが存在する中で金利が変動することにより、利益が減少ないし損失を被るリスクをいいます。

当JAでは、金利リスク量を計算する際の基本的な事項を「金利リスク量計算要領」に、またリスク情報の管理・報告にかかる事項を「余裕金運用等にかかるリスク管理手続」に定め、適切なリスクコントロールに努めています。具体的な管理方針及び手続については以下のとおりです。

#### ◇リスク管理の方針及び手続の概要

- リスク管理及び計測の対象とする金利リスクの考え方及び範囲に関する説明

当JAでは、金利リスクを重要なりiskの一つとして認識し、適切な管理体制のもとで他の市場リスクと一体的に管理をしています。金利リスクのうち銀行勘定の金利リスク(IRRBB)については、個別の管理指標の設定やモノタリング体制の整備などにより厳正な管理に努めています。

- リスク管理及びリスクの削減の方針に関する説明

当JAは、リスク管理委員会のもと、自己資本に対するIRRBBの比率の管理や収支シミュレーションの分析などをを行いリスク削減に努めています。

- 金利リスク計測の頻度

毎月末を基準日として、月次でIRRBBを計測しています。

- ヘッジ等金利リスクの削減手法に関する説明（該当なし）

当JAは、金利スワップ等へのヘッジ手段を活用し金利リスクの削減に努めています。

また、金利リスクに関するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会）に規定する繰延ヘッジに依っています。

#### ◇金利リスク算定手法の概要

- 当JAでは、市場金利が上下に2%変動した時に発生する経済価値の変化額（低下額）を金利リスク量として毎月算出しています。

- 流動性貯金に割り当てられた金利改定の平均満期

要求払貯金の金利リスク量は、明確な金利改定間隔がなく、貯金者の要求によって隨時払い出される要求払貯金のうち、引き出されることなく長期間金融機関に滞留する貯金をコア貯金と定義し、①過去5年の最低残高、②過去5年の最大年間流出量を現残高から差し引いた残高、③現残高の50%相当額のうち、最小の額を上限とし、0～5年の期間に均等に振り分けて（平均残存2.5年）リスク量を算定しています。

流動性貯金に割り当てられた金利改定の平均満期は1.25年です。

- 流動性貯金に割り当てられた最長の金利改定満期

流動性に割り当てられた最長の金利改定満期は5年です。

- 流動性貯金への満期割り当て方法（コア貯金モデル等）及びその前提

流動性貯金への満期の割り当て方法については、金融庁が定める保守的な前提を採用しています。

- 固定金利貸出の期限前返済や定期貯金の早期解約に関する前提

固定金利貸出の期限前返済や定期貯金の早期解約について考慮していません。

- 複数の通貨の集計方法及びその前提（該当なし）

通貨別に算出した金利リスクの正值を合算しています。通貨間の相関等は考慮していません。

- スプレッドに関する前提（計算にあたって割引金利やキャッシュ・フローに含めるかどうか）

一定の前提を置いたスプレッドを考慮してキャッシュ・フローを展開しています。なお、該当スプレッドは金利変動ショックの設定上は不変としています。

- 内部モデルの使用等、△EVE及び△NIIに重大な影響を及ぼすその他の前提、前事業年度末の開示から変動に関する説明

内部モデルは使用しておりません。

- ・計測値の解釈や重要性に関するその他の説明  
該当がありません。

◇ $\triangle$  EVE 及び $\triangle$  NII 以外の金利リスクを計測している場合における、該当金利リスクに関する事項

- ・金利ショックに関する説明

リスク資本配賦管理として VaR で計測する市場リスク量を算定しています。

- ・金利リスク計測の前提及びその意味（特に、農協法自己資本開示告示に基づく定量的開示の対象となる $\triangle$  EVE 及び $\triangle$  NII と大きく異なる点  
特段ありません。）

## ② 金利リスクに関する事項

(単位：百万円)

IRRBB 1：金利リスク		$\triangle$ EVE		$\triangle$ NII	
項目番号		当期末	前期末	当期末	前期末
1	上方パラレルシフト	0	190	16	50
2	下方パラレルシフト	0	$\triangle$ 202	0	0
3	ステイープ化	270	449		
4	フラット化	0	0		
5	短期金利上昇	0	0		
6	短期金利低下	10	0		
7	最大値	270	449		
8	自己資本の額	当期末		前期末	
		10,722		10,436	



## VI 連 結 情 報

### 1. グループの概況

#### (1) グループの事業系統図

JA 長崎せいひのグループは、当JA、子会社4社で構成されています。

このうち、当年度において連結自己資本比率を算出する対象となる連結子会社は(株)協同ライフ長崎、(有)大西海ファーム、(株)アグリ未来長崎、(株)外海久栄の4社であります。

また、金融業務を営む関連法人等はありません。なお、連結自己資本比率を算出する対象となる連結グループと、連結財務諸表規則に基づき連結の範囲に含まれる会社に、相違はありません。



#### (2) 子会社等の状況

(単位：百万円、%)

名 称	主たる営業所又は事業所の所在地	事業の内容	設立年月日	資本金又は出資金	当JAの議決権比率	当JA及び他の子会社等の議決権比率
(株)協同ライフ長崎	長崎市興善町6番7号	不動産取引	昭和 58 年 8 月 29 日	40	100	100
(有)大西海ファーム	西海市西海町小迎郷830番地	畜産業	平成 10 年 11 月 11 日	15	66	66
(株)アグリ未来長崎	西海市西海町小迎郷830番地	農畜産業	平成 31 年 1 月 11 日	60	49	99
(株)外海久栄	長崎市東出津町149番地2	飲食店経営	平成 27 年 4 月 1 日	6	83	83

### (3) 連結事業概況（令和3年度）

#### ◇ 連結事業の概況

##### ① 事業の概況

令和3年度の当JAの連結決算は、子会社を連結しております。

連結決算の内容は、連結経常収益5億4千3百万円、連結当期剰余金5億4千万円、連結純資産138億2千7百万円、連結総資産1,748億9千万円で、連結自己資本比率は15.01%となりました。

##### ② 連結子会社等の事業概況

###### 株式会社 協同ライフ長崎

賃貸事業におきましては、ほぼ計画通りとなりましたが、賃貸先1件が令和3年度末で解約となりました。仲介業におきましては、取扱件数及び収入については、前年度とほぼ横ばいとなっており、組合員所有の農住アパートの管理業は安定した状態が維持できており、全体として順調に推移しています。尚、賃貸事業1件の解約後に関しては、令和4年7月から新たな賃貸先との契約を締結しております。

###### 有限会社 大西海ファーム

養豚部門及び肉用牛部門におきましては、度重なる飼料費の高騰で厳しい経営環境を余儀なくされますが、衛生管理の徹底による生産性の向上と食品未利用資源の有効活用や自給飼料生産拡大などを図り、生産原価の削減に取り組んでまいりました。

また、新たに開始した食肉加工部門と園芸部門においては、試行錯誤の取り組みで改善を要する事がありましたら、順調に事業を開始することができました。

令和4年度は、飼料をはじめとする生産資材の高騰が相次いでおり、肉豚販売単価の改訂と生産性の更なる生産性の向上を図り、養豚部門と肉用牛部門の収支改善に努めます。

食肉加工部門においては、商品原価率の改善と販売先の多角化、加工技術やパッケージデザインの改善を図りながら、大西海SPF豚と長崎和牛「出島ばらいろ」・「さいかい牛」の銘柄確立と消費拡大に取り組んでまいります。

園芸部門は、堆肥の利用拡大と肉用牛部門の自給飼料栽培の拡大による、畜産部門の補完的取り組みを中心に取り組んでまいります。また、(株)アグリ未来長崎より堆肥利用の高い露地野菜やイチゴ以外のハウス野菜品目に係る設備・職員を移管させ、本格的な園芸作物と自給飼料栽培の拡大を図り、余剰堆肥の解消に取り組んでまいります。

###### 株式会社 アグリ未来長崎

営業開始から3年が経過し、露地野菜とイチゴやスナップエンドウなどのハウス野菜の栽培をしながら、新規就農者の研修受入などの担い手育成事業に取り組んでまいりました。しかし生産性が思うように向上せず厳しい経営が続いています。令和4年度は露地野菜やイチゴ以外のハウス野菜は大西海ファームに経営移管を行い、イチゴハウス栽培に特化しながら経営改善に取り組んでまいります。

## 株式会社 外海久栄

長崎市指定管理の更新により経営に取り組んでいますが、令和3年度もコロナ感染症拡大により営業自粛や原材料等の高騰によりレストラン売上の落込み厳しい状況であることから、人件費圧縮のための雇用人員削減や営業形態やメニューの刷新、新たな惣菜商品の開発による売上確保、コロナ関連事業の支援にもありましたが経常損失となりました。

今年度もコロナ禍でレストラン営業に不安感があることから、惣菜部門の原価率の改善や新たな商品開発にも継続して取り組むこととし、「道の駅夕陽が丘そとめ」と協力した集客対策にも取り組み、売上拡大による経営安定を目指します。

### (4) 最近5年間の連結事業年度の主要な経営指標

(単位：百万円、%)

項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
連結経常収益 (事業収益)	11,525	11,323	10,906	10,521	10,795
信用事業収益	1,450	1,495	1,365	1,344	1,332
共済事業収益	1,465	1,371	1,291	1,222	1,197
農業関連事業収益	6,091	6,462	6,154	5,989	6,087
その他事業収益	2,519	1,995	2,096	1,966	2,179
連結経常利益	1,059	478	480	690	543
連結当期剰余金	335	△221	228	381	540
連結純資産額	12,906	12,706	12,932	13,304	13,827
連結総資産額	169,202	169,610	168,912	175,838	174,895
連結自己資本比率	14.85	14.24	14.52	14.48	15.01

(注)「連結自己資本比率」は、「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(平成18年金融庁・農水省告示第2号)に基づき算出しております。

(5) 連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	令和2年度 (令和3年3月31日)	令和3年度 (令和4年3月31日)
<b>( 資 産 の 部 )</b>		
<b>1 信用事業資産</b>	<b>151,168,739</b>	<b>149,893,677</b>
(1) 現金及び預金	102,672,337	100,160,745
(2) 有価証券	—	—
(3) 貸出金	48,615,487	49,822,619
(4) その他の信用事業資産	107,019	92,975
(5) 貸倒引当金	△ 226,104	△ 182,662
<b>2 共済事業資産</b>	<b>6,197</b>	<b>1,496</b>
(1) 共済貸付金	—	—
(2) その他の共済事業資産	6,202	1,496
(3) 貸倒引当金	△ 5	0
<b>3 経済事業資産</b>	<b>2,866,140</b>	<b>3,171,808</b>
(1) 受取手形及び経済事業未収金	1,195,081	1,169,897
(2) 棚卸資産	588,710	647,864
(3) 経済受託債権	152,450	133,683
(4) その他の経済事業資産	991,314	1,308,195
(5) 貸倒引当金	△ 61,415	△ 87,831
<b>4 雑資産</b>	<b>665,437</b>	<b>568,657</b>
<b>5 固定資産</b>	<b>10,140,451</b>	<b>10,281,376</b>
(1) 有形固定資産	10,118,123	10,262,183
建物	8,210,276	8,395,345
機械装置	2,121,760	1,861,388
土地	6,492,954	6,741,175
リース資産	89,040	89,040
その他有形固定資産	3,032,621	3,258,359
減価償却累計額	△ 9,828,528	△ 10,083,126
(2) 無形固定資産	22,328	19,193
<b>6 外部出資</b>	<b>10,958,410</b>	<b>10,875,918</b>
(1) 外部出資	10,958,410	10,875,918
(2) 外部出資等損失引当金		
<b>7 再評価に係る繰延税金資産</b>	<b>15,293</b>	<b>84,358</b>
<b>8 繰延資産</b>	<b>17,208</b>	<b>18,035</b>
<b>資 産 の 部 合 計</b>	<b>175,837,875</b>	<b>174,895,328</b>

(単位：千円)

科 目	令和2年度 (令和3年3月31日)	令和3年度 (令和4年3月31日)
<b>( 負 債 の 部 )</b>		
<b>1 信用事業負債</b>	<b>158,911,290</b>	<b>157,787,029</b>
(1) 賀金	158,069,314	156,750,712
(2) 借入金	76,473	142,651
(3) その他の信用事業負債	765,503	893,665
<b>2 共済事業負債</b>	<b>708,972</b>	<b>682,124</b>
(1) 共済借入金	—	—
(2) 共済資金	402,013	376,357
(3) その他の共済事業負債	306,959	305,766
<b>3 経済事業負債</b>	<b>790,677</b>	<b>700,094</b>
(1) 支払手形及び経済事業未払金	392,262	276,998
(2) その他の経済事業負債	398,415	423,095
<b>4 設備借入金</b>		
<b>5 雜負債</b>	<b>880,184</b>	<b>688,523</b>
<b>6 諸引当金</b>	<b>499,507</b>	<b>467,834</b>
(1) 賞与引当金	331,373	105,401
(2) 退職給付に係る負債	60,459	328,615
(3) 役員退職慰労引当金	107,675	33,818
<b>7 繰延税金負債</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
<b>8 再評価に係る繰延税金負債</b>	<b>743,141</b>	<b>741,888</b>
<b>負 債 の 部 合 計</b>	<b>162,533,771</b>	<b>161,067,495</b>
<b>( 純 資 産 の 部 )</b>		
<b>1 組合員資本</b>	<b>11,113,639</b>	<b>11,618,087</b>
(1) 出資金	3,428,972	3,376,355
(2) 資本剰余金	60,000	60,000
(3) 利益剰余金	7,771,852	8,343,232
(4) 処分未済持分	△ 62,385	△ 76,700
(5) 子会社の所有する親組合出資金	△ 84,800	△ 84,800
<b>2 評価・換算差額等</b>	<b>1,878,920</b>	<b>1,874,008</b>
(1) その他有価証券評価差額金	—	—
(2) 土地再評価差額金	1,919,816	1,918,481
(3) 退職給付に係る調整累計額	△ 40,896	△ 44,473
<b>3 非支配株主持分</b>	<b>311,545</b>	<b>335,736</b>
<b>純 資 産 の 部 合 計</b>	<b>13,304,104</b>	<b>13,827,832</b>
<b>負債の部及び純資産の部合計</b>	<b>175,837,875</b>	<b>174,895,328</b>

## (6) 連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	令和2年度 （自 至 令和2年4月1日 令和3年3月31日）	令和3年度 （自 至 令和3年4月1日 令和4年3月31日）
<b>1 事業総利益</b>	<b>4,284,274</b>	<b>4,303,746</b>
(1) 信用事業収益	1,344,086	1,332,773
資金運用収益	1,257,756	1,268,861
(うち預金利息)	(608,761)	(568,899)
(うちその他受入利息)	(7,142)	(87,046)
(うち貸出金利息)	(641,853)	(612,914)
役務取引等収益	43,539	42,362
その他経常収益	42,791	21,549
(2) 信用事業費用	282,246	290,199
資金運用費用	39,208	29,929
(うち貯金利息)	(36,085)	(26,140)
(うち給付補填備金繰入)	(507)	(516)
(うち借入金利息)	(1,081)	(891)
(うちその他支払利息)	(1,534)	(2,380)
役務取引等費用	11,034	11,429
その他経常費用	232,004	248,840
(うち貸倒引当金戻入金)	(△ 30,618)	(△ 43,441)
<b>信用事業総利益</b>	<b>1,061,840</b>	<b>1,042,573</b>
(3) 共済事業収益	1,221,701	1,197,650
共済付加収入	1,159,377	1,131,779
共済貸付金利息	－	－
その他の収益	62,324	65,870
(4) 共済事業費用	74,503	81,712
共済推進費及び共済保全費	61,200	67,438
その他の費用	13,303	14,274
(うち貸倒引当金戻入益)	－	－
<b>共済事業総利益</b>	<b>1,147,198</b>	<b>1,115,938</b>
(5) 購買事業収益	4,421,097	4,273,044
購買品供給高	4,317,784	4,179,902
その他の収益	103,313	93,141
(6) 購買事業費用	4,287,246	4,263,078
購買品供給原価	4,030,406	4,004,814
購買品供給費	140,596	141,821
その他の費用	116,244	116,442
<b>購買事業総利益</b>	<b>133,851</b>	<b>9,965</b>

(単位：千円)

科 目	令和2年度 （自 令和2年4月1日 至 令和3年3月31日）	令和3年度 （自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日）
(7) 販売事業収益	1,568,029	1,814,813
買取販売品販売高	577,796	579,094
販売手数料	314,070	363,082
その他の収益	676,163	872,637
(8) 販売事業費用	1,024,190	1,123,055
買取販売品販売原価	475,393	481,718
販売費	41,853	39,067
その他の費用	506,944	602,268
<b>販売事業総利益</b>	<b>543,839</b>	<b>691,757</b>
(9) その他事業収益	1,966,152	2,179,091
(10) その他事業費用	568,606	735,577
<b>その他事業総利益</b>	<b>1,397,546</b>	<b>1,443,513</b>
<b>2 事業管理費</b>	<b>4,024,369</b>	<b>4,103,867</b>
(1) 人件費	2,759,627	2,762,319
(2) その他の事業管理費	1,264,742	1,341,547
<b>事 業 利 益</b>	<b>259,905</b>	<b>199,880</b>
<b>3 事業外収益</b>	<b>561,926</b>	<b>391,731</b>
(1) 受取雑利息	132	624
(2) 受取出資配当金	174,414	182,627
(3) その他の事業外収益	387,380	208,479
<b>4 事業外費用</b>	<b>131,785</b>	<b>48,327</b>
(1) 支払雑利息	0	0
(2) その他の事業外費用	131,785	48,327
<b>経 常 利 益</b>	<b>690,046</b>	<b>543,285</b>
<b>5 特別利益</b>	<b>413,422</b>	<b>520,110</b>
(1) 固定資産処分益	36,860	10,012
(2) その他の特別利益	376,562	510,097
<b>6 特別損失</b>	<b>624,465</b>	<b>536,216</b>
(1) 固定資産処分損	54,548	590
(2) 減損損失	376,562	28,816
(3) その他の特別損失	193,355	506,810
<b>税金等調整前当期利益</b>	<b>479,003</b>	<b>527,179</b>
法人税・住民税及び事業税	68,195	41,857
法人税等調整額	△ 3,890	△ 79,665
<b>法人税等合計</b>	<b>64,305</b>	<b>△ 37,807</b>
<b>当期利益</b>	<b>414,698</b>	<b>564,987</b>
<b>非支配株主に帰属する当期利益</b>	<b>△ 33,980</b>	<b>△ 24,701</b>
<b>当期剩余金</b>	<b>380,718</b>	<b>540,285</b>

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	令和2年度 （自 至 令和2年4月1日 令和3年3月31日）		令和3年度 （自 至 令和3年4月1日 令和4年3月31日）	
	△		△	
<b>1 事業活動によるキャッシュ・フロー</b>				
税金等調整前当期利益	△ 479,003			527,179
減価償却費	244,814			341,204
減損損失	38,923			28,816
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△ 38,412			△ 16,587
賞与引当金の増減額（△は減少）	△ 3,247			△ 2,274
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	△ 53,725			114,380
その他引当金等の増減額（△は減少）	9,634			△ 26,641
信用事業資金運用収益	△ 1,257,756			△ 1,268,861
信用事業資金調達費用	39,208			29,930
受取雑利息及び受取出資配当金	△ 174,546			△ 183,253
支払雑利息	0			0
固定資産売却損益（△は益）	10,794			△ 9,422
固定資産除却損（△は益）	706,476			3,684
(信用事業活動による資産及び負債の増減)				
貸出金の純増（△）減	188,518			△ 1,207,132
預金の純増（△）減	△ 7,030,000			3,087,135
貯金の純増減（△）	6,029,608			△ 1,318,602
信用事業借入金の純増減（△）	△ 16,617			66,179
その他の信用事業資産の純増（△）減	△ 50,715			52,040
その他の信用事業負債の純増減（△）	364,146			135,010
(共済事業活動による資産及び負債の増減)				
共済資金の純増（△）減	28,897			△ 25,655
未経過共済付加収入の純増（△）減	△ 11,124			△ 3,887
その他の共済事業資産の純増（△）減	11,425			4,706
その他の共済事業負債の純増減（△）	△ 20,101			2,694
(経済事業活動による資産及び負債の増減)				
受取手形及び経済事業未収金の純増（△）減	5,906			25,184
経済受託債権の純増（△）減	25,149			18,767
棚卸資産の純増（△）減	2,386			△ 59,154
支払手形及び経済事業未払金の純増（△）減	4,231			△ 115,263
経済受託債務の純増（△）減	△ 58,891			26,312
その他の経済事業資産の純増（△）減	△ 122,805			△ 316,882
その他の経済事業負債の純増（△）減	6,482			△ 1,631
(その他の資産及び負債の増減)				
その他の資産の純増（△）減	△ 37,802			96,336
その他の負債の純増減（△）減	387,544			△ 77,434

(単位：千円)

科 目	令和2年度 （自 至 令和2年4月1日 令和3年3月31日）	令和3年度 （自 至 令和3年4月1日 令和4年3月31日）
未払消費税等の純増（△）減	△ 12,368	△ 85,413
信用事業資金運用による収入	1,310,395	1,231,693
信用事業資金調達による支出	△ 38,966	△ 37,605
<b>小 計</b>	<b>966,464</b>	<b>1,035,553</b>
雑利息及び出資配当金の受取額	174,546	183,252
雑利息の支払額	0	0
法人税等の支払額	△ 73,530	△ 46,421
<b>事業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,067,479</b>	<b>1,172,384</b>
<b>2 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
補助金の受入による収入	0	384,291
固定資産の取得による支出	△ 979,234	△ 817,056
固定資産の売却による収入	△ 575,557	△ 61,693
外部出資による支出	△ 32,842	△ 3,250
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 1,587,632</b>	<b>△ 497,709</b>
<b>3 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
出資の増額による収入	148,102	14,316
出資金の払戻しによる支出	△ 182,844	△ 66,733
持分の取得による支出	△ 45,938	△ 46,289
持分の譲渡による収入	42,571	31,973
出資配当金の支払額	△ 43,731	△ 32,400
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 81,840</b>	<b>△ 99,133</b>
<b>4 現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
<b>5 現金及び現金同等物の増加額</b>	<b>△ 601,994</b>	<b>△ 575,543</b>
<b>6 現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>4,954,331</b>	<b>4,352,337</b>
<b>7 現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>4,352,337</b>	<b>4,927,880</b>

## (8) 連結注記表

区分	令和2年度	令和3年度
(1) 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記	<p>単体業務報告書に記載している注記表以外については以下。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子会社の事業年度に関する事項及び子会社の資産及び負債の評価に関する事項 JAと同様</li> <li>剰余金処分項目の取り扱いに関する事項 子会社のうち、(有)大西海ファーム、(株)アグリ未来長崎、(株)外海久栄は持ち株保有割合に応じて、少数株主持分を以下割合にて計上している。 (有)大西海ファーム 資本金総額 15百万円 JA保有額 10百万円 他社保有額 5百万円 少数株主持分割合 34% ・持分法の適用はありません。 ・連結調整勘定の償却に該当する事項はありません。</li> <li>(株)アグリ未来長崎 資本金総額 60百万円 JA保有額 29.8百万円 他社保有額 30.2百万円 少数株主持分割合 51% ・持分法の適用はありません。 ・連結調整勘定の償却に該当する事項はありません。</li> <li>(株)外海久栄 資本金総額 6百万円 JA保有額 5百万円 他社保有額 1百万円 少数株主持分割合 17% ・持分法の適用はありません。 ・連結調整勘定の償却に該当する事項はありません。</li> </ul>	<p>単体業務報告書に記載している注記表以外については以下。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子会社の事業年度に関する事項及び子会社の資産及び負債の評価に関する事項 JAと同様</li> <li>剰余金処分項目の取り扱いに関する事項 子会社のうち、(有)大西海ファーム、(株)アグリ未来長崎、(株)外海久栄は持ち株保有割合に応じて、少数株主持分を以下割合にて計上している。 (有)大西海ファーム 資本金総額 15百万円 JA保有額 10百万円 他社保有額 5百万円 少数株主持分割合 34% ・持分法の適用はありません。 ・連結調整勘定の償却に該当する事項はありません。</li> <li>(株)アグリ未来長崎 資本金総額 60百万円 JA保有額 59.8百万円 他社保有額 0.2百万円 少数株主持分割合 0.34% ・持分法の適用はありません。 ・連結調整勘定の償却に該当する事項はありません。</li> <li>(株)外海久栄 資本金総額 6百万円 JA保有額 5百万円 他社保有額 1百万円 少数株主持分割合 17% ・持分法の適用はありません。 ・連結調整勘定の償却に該当する事項はありません。</li> </ul>
(2) 連結貸借対照表に関する注記	<ul style="list-style-type: none"> <li>JAの理事及び監事に対する子会社の金銭債権・金銭債務はありません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JAの理事及び監事に対する子会社の金銭債権・金銭債務はありません。</li> </ul>
(3) 退職給付に関する注記	<ul style="list-style-type: none"> <li>子会社の退職給付会計 (1)採用している退職給付会計制度の概要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子会社の退職給付会計 (1)採用している退職給付会計制度の概要</li> </ul>

区分	令和2年度	令和3年度																														
	<p>①退職給与規程に基づく退職金一時金制度を採用している。なお、退職給付債務の計算は簡便法を採用している。</p> <p>②退職給付債務等の額</p> <p>(単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>退職給付 債務額</th> <th>退職給付 引当金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(株)協同ライフ長崎</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>(有)大西海ファーム</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>(株)アグリ未来長崎</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(株)外海久栄</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		退職給付 債務額	退職給付 引当金	(株)協同ライフ長崎	0	0	(有)大西海ファーム	9	9	(株)アグリ未来長崎	-	-	(株)外海久栄	-	-	<p>①退職給与規程に基づく退職金一時金制度を採用している。なお、退職給付債務の計算は簡便法を採用している。</p> <p>②退職給付債務等の額</p> <p>(単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>退職給付 債務額</th> <th>退職給付 引当金</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(株)協同ライフ長崎</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>(有)大西海ファーム</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>(株)アグリ未来長崎</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>(株)外海久栄</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>		退職給付 債務額	退職給付 引当金	(株)協同ライフ長崎	0	0	(有)大西海ファーム	3	3	(株)アグリ未来長崎	-	-	(株)外海久栄	-	-
	退職給付 債務額	退職給付 引当金																														
(株)協同ライフ長崎	0	0																														
(有)大西海ファーム	9	9																														
(株)アグリ未来長崎	-	-																														
(株)外海久栄	-	-																														
	退職給付 債務額	退職給付 引当金																														
(株)協同ライフ長崎	0	0																														
(有)大西海ファーム	3	3																														
(株)アグリ未来長崎	-	-																														
(株)外海久栄	-	-																														
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記	<p>1. 現金及び現金同等物の資金の範囲</p> <p>連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金」及び「預金」のうち、「現金」及び「預金」中の当座預金、普通預金及び通知預金となっています。</p> <p>2. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に記載されている科目的金額との関係</p> <p>現金及び預金勘定</p> <p>102,672 百万円 別段預金、定期性預金及び 譲渡性預金</p> <p>△ 98,320 百万円 現金及び現金同等物等</p> <p>4,352 百万円</p>	<p>1. 現金及び現金同等物の資金の範囲</p> <p>連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金」及び「預金」のうち、「現金」及び「預金」中の当座預金、普通預金及び通知預金となっています。</p> <p>2. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に記載されている科目的金額との関係</p> <p>現金及び預金勘定</p> <p>100,160 百万円 別段預金、定期性預金及び 譲渡性預金</p> <p>△ 95,232 百万円 現金及び現金同等物等</p> <p>4,927 百万円</p>																														

## (9) 連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科 目	令和2年度	令和3年度
(資本剰余金の部)		
1 資本剰余金期首残高	60	60
2 資本剰余金增加高	—	—
3 資本剰余金減少高	—	—
4 資本剰余金期末残高	60	60
(利益剰余金の部)		
1 利益剰余金期首残高	7,410	7,772
会計方針の変更による累積的影響額	—	—
会計方針の変更を反映した利益剰余金期首残高	—	—
2 利益剰余金增加高	400	603
当期剰余金	381	540
3 利益剰余金減少高	38	32
出資配当金	38	32
4 利益剰余金期末残高	7,772	8,343

## (10) 農協法に基づく開示債権

(単位：百万円)

区 分	令和2年度	令和3年度	増 減
破産更生権及び これらに準ずる債権額	141	183	42
危険債権額	343	316	△ 27
要管理債権額	511	494	△ 17
三月以上延滞債権額	0	0	0
貸出条件緩和債権額	511	494	△ 17
小 計	996	994	△ 2
正常債権額	48,113	49,301	1,188
合 計	49,109	50,295	1,186

(注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいいます。

2. 危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権をいいます。

3. 要管理債権

4. 「三月以上延滞債権」と5. 「貸出条件緩和債権」の合計額をいいます。

4. 三月以上延滞債権

元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権及び危険債権に該当しないものをいいます。

5. 貸出条件緩和債権

債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものをいいます。

6. 正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記に掲げる債権以外のものに区分される債権をいいます。

## (11) 連結事業年度の事業別経常収益等

(単位：百万円)

区分	項目	令和2年度	令和3年度
信用事業	事業収益	1,344	1,332
	経常利益	244	273
	資産の額	151,169	149,893
共済事業	事業収益	1,222	1,197
	経常利益	197	187
	資産の額	6	1
農業関連事業	事業収益	5,989	6,087
	経常利益	49	9
	資産の額	2,866	3,171
その他事業	事業収益	1,966	2,179
	経常利益	209	153
	資産の額	21,797	21,830
計	事業収益	10,521	10,795
	経常利益	699	613
	資産の額	175,838	174,895

(注) 連結事業収益は、銀行等の連結経常収益に相当するものです。

## 2. 連結自己資本の充実の状況

### ◇ 連結自己資本比率の状況

令和4年3月末における連結自己資本比率は、15.01%となりました。

当連結グループでは、適正なプロセスにより連結自己資本比率を正確に算出し、JAを中心に信用リスクやオペレーション・リスクの管理及びこれらのリスクに対応した十分な自己資本の維持を図るとともに、内部留保の積み増しにより自己資本の充実に努めています。

連結自己資本は、組合員の普通出資によっています。

### ○ 普通出資による資本調達額

項目	内 容
発行主体	長崎西彼農業協同組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本に係る基礎項目に算入した額	11,497 百万円（前年度 11,016 百万円）

## (1) 自己資本の構成に関する事項（連結）

(単位：百万円、%)

項目	令和2年度	令和3年度
コア資本にかかる基礎項目		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る組合員資本の額	11,041	11,497
うち、出資金及び資本準備金の額	3,314	3,261
うち、再評価積立金の額	—	—
うち、利益剰余金の額	6,719	7,236
うち、外部流出予定額（△）	32	82
うち、上記以外に該当するものの額	△62	76
コア資本に算入される評価・換算差額等	—	—
うち、退職給付に係るもの額	—	—
コア資本に係る調整後非支配株主持分の額	—	—
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	162	163
うち、一般貸倒引当金及び相互援助積立金コア資本算入額	162	163
うち、適格引当金コア資本算入額	—	—
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
うち、回転出資金の額	—	—
うち、上記以外に該当するものの額	—	—
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	359	238
非支配株主持分のうち、経過措置によりコア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	—	—
コア資本にかかる基礎項目の額（イ）	11,561	11,899
コア資本にかかる調整項目		
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものと除く。）の額の合計額	22	19
うち、のれんに係るもの（のれん相当差額を含む）の額	—	—
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	22	19
繰延税金資産（一時差異に係るものと除く。）の額	—	—
適格引当金不足額	—	—
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	—	—
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	—	—
退職給付に係る資産の額	—	—
自己保有普通出資等（純資産の部に計上されるものを除く。）の額	—	—
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	—	—
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	—	—
特定項目に係る十パーセント基準超過額	—	—
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	—	—
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	—	—
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額	—	—

項目		令和2年度	令和3年度
特定項目に係る十五パーセント基準超過額		－	－
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額		－	－
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額		－	－
うち、繰延税金資産（一時差異に係るものに限る。）に関連するものの額		－	－
コア資本に係る調整項目の額	(口)	22	19
自己資本			
自己資本の額 ((イ) - (口))	(ハ)	11,539	11,879
リスク・アセット等			
信用リスク・アセットの額の合計額		71,559	71,082
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額		2,657	2,654
うち、無形固定資産（のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く）		－	－
うち、繰延税金資産		－	－
うち、退職給付に係る資産		－	－
うち、他の金融機関向けエクスポート		－	－
うち、土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額に係るものの額		2,657	2,654
うち、上記以外に該当するものの額		－	－
オペレーション・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額		8,094	8,055
信用リスク・アセット調整額		－	－
オペレーション・リスク相当額調整額		－	－
リスク・アセット等の額の合計額	(二)	79,653	79,137
連結自己資本比率			
連結自己資本比率 ((ハ) / (二))		14.48%	15.01%

- (注) 1. 「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(平成18年金融庁・農水省告示第2号)に基づき算出しています。
2. 当連結グループは、信用リスク・アセット額の算出にあたっては標準的手法、適格金融資産担保の適用について信  
用リスク削減手法の簡便手法を、オペレーション・リスク相当額の算出にあたっては基礎的手法を採用しております。
3. 当連結グループが有するすべての自己資本とリスクを対比して、連結自己資本比率を計算しています。

## (2) 自己資本の充実度に関する事項（連結）

### ① 信用リスクに対する所要自己資本の額及び区分ごとの内訳

(単位：百万円)

信用リスク・アセット (標準的手法)	令和2年度			令和3年度		
	エクスポート ジャヤーの 期末残高	リスク・ アセット額 a	所要自己 資本額 b=a×4%	エクスポート ジャヤーの 期末残高	リスク・ アセット額 a	所要自己 資本額 b=a×4%
現金	977	—	—	1,069	—	—
我が国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—
外国の中央政府及び中央銀行向け	—	—	—	—	—	—
国際決済銀行等向け	—	—	—	—	—	—
我が国の地方公共団体向け	400	—	—	345	—	—
外国の中央政府等以外の公共部門向け	—	—	—	—	—	—
国際開発銀行向け	—	—	—	—	—	—
地方公共団体金融機関向け	—	—	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	101,672	20,334	813	99,049	19,810	792
法人等向け	442	423	17	399	383	15
中小企業等向け及び個人向け	2,764	1,270	51	2,443	1,133	45
抵当権付住宅ローン	9,767	3,385	135	9,816	3,406	136
不動産取得等事業向け	17	17	1	12	12	0
三月以上延滞等	55	9	0	62	9	0
取立未済手形	12	2	0	9	2	0
信用保証協会等保証付	32,533	3,236	129	34,261	3,410	136
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	—	—	—	—	—	—
共済約款貸付	—	—	—	—	—	—
出資等	1,836	1,836	73	1,753	1,753	70
(うち出資等のエクスポージャー)	1,836	1,836	73	1,753	1,753	70
(うち重要な出資のエクspoージャー)	—	—	—	—	—	—
上記以外	21,961	37,265	1,491	22,139	37,447	1,498
(うち他の金融機関等の対象資本調達手段の うち対象普通出資等及びその他外部TLAC 関連調達手段に該当するもの以外のものに 係るエクspoージャー)	—	—	—	—	—	—
(うち農林中央金庫又は農業協同組合連合会の対象資本調達手段に係るエクspoージャー)	10,340	25,849	1,034	10,340	25,849	1,034
(うち特定項目のうち調整項目に算入され ない部分に係るエクspoージャー)	—	—	—	—	—	—
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える 議決権を保有している他の金融機関等に 係るその他外部TLAC関連調達手段に 係るエクspoージャー)	—	—	—	—	—	—
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える議 決権を保有していない他の金融機関等に係るそ の他外部TLAC関連調達手段に係る5%基準 額を上回る部分に係るエクspoージャー)	—	—	—	—	—	—
(うち上記以外のエクspoージャー)	11,621	11,416	457	11,800	11,597	464
証券化	—	—	—	—	—	—
(うちSTC要件適用分)	—	—	—	—	—	—
(うち非STC適用分)	—	—	—	—	—	—
再証券化	—	—	—	—	—	—
リスク・ウェイトのみなし計算 が適用されるエクspoージャー	—	—	—	—	—	—
(うちルックスルーワ方式)	—	—	—	—	—	—
(うちマンデート方式)	—	—	—	—	—	—
(うち蓋然性方式250%)	—	—	—	—	—	—
(うち蓋然性方式400%)	—	—	—	—	—	—

信用リスク・アセット (標準的手法)	令和2年度			令和3年度		
	エクスポート ジヤーの 期末残高	リス ク・ アセッ ツ額 a	所要自己 資本額 b=a×4%	エクスポート ジヤーの 期末残高	リス ク・ アセッ ツ額 a	所要自己 資本額 b=a×4%
(うちフォールバック方式)	—	—	—	—	—	—
経過措置によりリスク・アセットの額に算入となるものの額	2,657	2,657	106	—	2,655	106
他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポートジヤーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額(△)	—	—	—	—	—	—
標準的手法を適用するエクスポートジヤー別計	175,093	70,434	2,817	171,357	70,020	2,801
CVA リスク相当額÷8 %	—	—	—	—	—	—
中央清算機関関連エクスポートジヤー	—	—	—	—	—	—
<b>合計 (信用リスク・アセットの額)</b>	<b>175,093</b>	<b>70,434</b>	<b>2,817</b>	<b>171,357</b>	<b>70,020</b>	<b>2,801</b>
オペレーションル・リスクに対する所要自己資本の額 <基礎的手法>	オペレーションル・リスク相当額を8%で除して得た額 a	所要自己資本額 b=a×4%	オペレーションル・リスク相当額を8%で除して得た額 a	所要自己資本額 b=a×4%	オペレーションル・リスク相当額を8%で除して得た額 a	所要自己資本額 b=a×4%
所要自己資本額計	7,467	299	7,406	296	7,424	3,097
リスク・アセット等 (分母) 計 a	所要自己 資本額 b=a×4%	リスク・アセット等 (分母) 計 a	所要自己 資本額 b=a×4%	リスク・アセット等 (分母) 計 a	所要自己 資本額 b=a×4%	リスク・アセット等 (分母) 計 a
	77,902	3,116	77,424	3,097		

(注) 1. 「リスク・アセット額」の欄には、信用リスク削減効果適用後のリスク・アセット額を原エクスポートジヤーの種類ごとに記載しています。

2. 「エクスポートジヤー」とは、リスクにさらされている資産（オフ・バランスを含む）のことをいい、具体的には貸出金や有価証券等が該当します。

3. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞している債務者に係るエクスポートジヤー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウエイトが150%になったエクスポートジヤーのことです。

4. 「出資等」とは、出資等エクスポートジヤー、重要な出資のエクスポートジヤーが該当します。

5. 「証券化(証券化エクスポートジヤー)」とは、原資産にかかる信用リスクを優先劣後構造のある二以上のエクスポートジヤーに階層化し、その一部または全部を第三者に移転する性質を有する取引にかかるエクスポートジヤーのことです。

6. 「経過措置によりリスク・アセットの額に算入となるもの」とは、土地再評価差額金に係る経過措置によるリスク・アセットの額及び調整項目にかかる経過措置によりなお従前の例によるものとしてリスク・アセットの額に算入したものが該当します

7. 「上記以外」には、未決済取引・その他の資産（固定資産等）・間接清算参加者向け・信用リスク削減方法として用いる保証又はクレジットデリバティブの免責額が含まれます。

8. 当JAでは、オペレーションル・リスク相当額の算出にあたって、基礎的手法を採用しています。

<オペレーションル・リスク相当額を8%で除して得た額の算出方法(基礎的手法)>

$$\frac{(\text{粗利益} \times 15\%) \text{ の直近3年間の合計額}}{\text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}} \div 8\%$$

### (3) 信用リスクに関する事項（連結）

#### ① 信用リスク管理の方法及び手続の概要

当連結グループでは、JA以外で与信を行っていないため、連結グループにおける信用リスク管理の方針及び手続等は定めていません。JAの信用リスク管理の方針及び手続等の具体的な内容は、単体の開示内容（P10「リスク管理の状況」）をご参照ください。

#### ② 標準的手法に関する事項

当JAでは自己資本比率算出にかかる信用リスク・アセット額は告示に定める標準的手法により算出しています。また、信用リスク・アセットの算出にあたって、リスク・ウェイトの判定に当たり使用する格付等は次のとおりです。

(ア) リスク・ウェイトの判定に当たり使用する格付は、以下の適格格付機関による依頼格付のみ使用し、非依頼格付は使用しないこととしています。

適格格付機関
株式会社格付投資情報センター（R&I）
株式会社日本格付研究所（JCR）
ムーディーズ・インベスター・サービス・インク（Moody's）
S&P グローバル・レーディング（S&P）
フィッチレーティングスリミテッド（Fitch）

(イ) リスク・ウェイトの判定に当たり使用する適格格付機関の格付またはカントリー・リスク・スコアは、主に以下のとおりです。

エクspoージャー	適格格付機関	カントリー・リスク・スコア
金融機関向けエクspoージャー		日本貿易保険
法人等向けエクspoージャー（長期）	R&I、Moody's、JCR、S&P、Fitch	
法人等向けエクspoージャー（短期）	R&I、Moody's、JCR、S&P、Fitch	

（注）「リスク・ウェイト」とは、当該資産を保有するために必要な自己資本額を算出するための掛目のことです。

③ 信用リスクに関するエクスポート（地域別、業種別、残存期間別）及び三月以上延滞エクスポートの期末残高

(単位：百万円)

	令和2年度				令和3年度			
	信用リスクに関するエクスポートの残高	うち貸出金等	うち債券	うち店頭デリバティブ	三月以上延滞エクスポート	信用リスクに関するエクスポートの残高	うち貸出金等	うち債券
国 内	171,953	48,647	—	—	67	171,357	50,250	—
国 外	—	—	—	—	—	—	—	—
地域別残高計	171,953	48,647	—	—	67	171,357	50,250	—
農業	114	114	—	—	—	279	279	—
林業	—	—	—	—	—	—	—	—
水産業	—	—	—	—	—	—	—	—
製造業	—	—	—	—	—	—	—	—
鉱業	—	—	—	—	—	—	—	—
法 建設・不動産業	—	—	—	—	—	—	—	—
電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—	—	—
運輸・通信業	—	—	—	—	—	—	—	—
人 金融・保険業	99,968	1,165				96,480	1,165	
卸売・小売・飲食・サービス業	3	3	—	—	—	3	3	—
日本国政府・地方公共団体	409	409	—	—	—	347	347	—
上記以外	184	184	—	—	11	89	89	—
個 人	46,773	46,772	—	—	56	47,972	47,971	—
そ の 他	24,501	—	—	—	—	25,790	—	—
業種別残高計	171,953	48,647	—	—	67	170,961	49,854	—
1年以下	101,023	2,220	—	—		97,204	1,889	—
1年超3年以下	1,995	1,995	—	—		2,318	2,318	—
3年超5年以下	1,568	1,568	—	—		1,416	1,416	—
5年超7年以下	1,557	1,557	—	—		1,353	1,353	—
7年超10年以下	2,418	2,418	—	—		2,469	2,469	—
10年超	38,127	38,127	—	—		40,138	40,138	—
期間の定めのないもの	25,265	762	—	—		26,459	667	—
残存期間別残高計	171,953	48,647	—	—		171,357	50,250	—

(注) 1. 信用リスクに関するエクスポートの残高には、資産（自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポートに該当するもの、証券化エクスポートに該当するものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。

2. 「貸出金等」とは、貸出金のほか、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランスシート・エクスポートを含んでいます。「コミットメント」とは、契約した期間及び融資枠の範囲でお客様のご請求に基づき、金融機関が融資を実行する契約のことをいいます。「貸出金等」にはコミットメントの融資可能残額も含めています。

3. 「店頭デリバティブ」とは、スワップ等の金融派生商品のうち相対で行われる取引のものをいいます。  
4. 「三月以上延滞エクスポート」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞しているエクスポートをいいます。

④ 貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

(単位：百万円)

区分	令和2年度					令和3年度				
	期首 残高	期中 増加額	期中減少額		期末 残高	期首 残高	期中 増加額	期中減少額		期末 残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	121	113	—	121	113	113	89	—	113	89
個別貸倒引当金	136	113	—	136	113	113	94	—	113	94

⑤ 業種別の個別貸倒引当金の期末残高・期中増減額及び貸出金償却の額

(単位：百万円)

区分	令和2年度					令和3年度							
	期首 残高	期中 増加額	期中減少額		期末 残高	貸出金 償却	期首 残高	期中 増加額	期中減少額				
			目的使用	その他					目的使用	その他			
国内	136	113	—	136	113		113	93	—	113	93		
国外	—	—	—	—	—		—	—	—	—	—		
地域別計	136	113	—	136	113		113	93	—	113	93		
法人	農業	12	6	—	12	6	—	6	7	—	6	7	—
	林業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	水産業	1	3	—	1	3	—	3	—	—	3	—	—
	製造業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鉱業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	建設・不動産業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	電気・ガス・熱供給・水道業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	運輸・通信業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	金融・保険業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	卸売・小売・飲食・サービス業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	上記以外	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
個人	123	104	—	123	104	—	104	86	—	104	86	—	—
業種別計	136	113	—	136	113	—	113	93	—	113	93	—	—

⑥ 信用リスク削減効果勘案後の残高及びリスク・ウエイト1250%を適用する残高  
(単位：百万円)

		令和2年度			令和3年度		
		格付あり	格付なし	計	格付あり	格付なし	計
信用リスク削減効果勘案後残高	リスク・ウエイト0%	－	2,452	2,452	－	2,061	2,061
	リスク・ウエイト10%	－	31,917	31,917	－	34,095	34,095
	リスク・ウエイト20%	－	96,014	96,014	－	99,639	99,639
	リスク・ウエイト35%	－	9,533	9,533	－	9,743	9,743
	リスク・ウエイト50%	－	230	230	－	855	855
	リスク・ウエイト75%	－	1,836	1,836	－	852	852
	リスク・ウエイト100%	－	15,585	15,585	－	16,027	16,027
	リスク・ウエイト150%	－	11	11	－	2	2
	リスク・ウエイト250%	－	10,340	10,340	－	10,340	10,340
	その他	－	－	－	－	－	－
リスク・ウエイト1250%		－	－	－	－	－	－
計		－	167,918	167,918	－	173,614	173,614

- (注) 1. 信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産（自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く）並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。
2. 「格付あり」にはエクスポージャーのリスク・ウエイト判定において格付を使用しているもの、「格付なし」には、エクスポージャーのリスク・ウエイト判定において格付を使用していないものを記載しています。なお、格付は適格格付機関による依頼格付のみ使用しています。
3. 経過措置によってリスク・ウエイトを変更したエクスポージャーについては、経過措置適用後のリスク・ウエイトによって集計しています。また、経過措置によってリスク・アセットを算入したものについても集計の対象としています。
4. 1250%には、非同時決済取引に係るもの、信用リスクの削減手法として用いる保証又は、クレジット・デリバティブの免責額に係るもの、重要な出資に係るエクスポージャーなどリスク・ウエイト1250%を適用したエクスポージャーがあります。

#### (4) 信用リスク削減手法に関する事項（連結）

##### ① 信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

連結自己資本比率の算出にあって、信用リスク削減手法を「自己資本比率算出要領」において定めています。信用リスク削減手法の適用及び管理方針、手続は、JAのリスク管理の方針及び手続に準じて行っています。JAのリスク管理の方針及び手続等の具体的な内容は、単体の開示内容（P10「リスク管理の状況」）をご参照ください。

##### ② 信用リスク削減手法が適用されたエクスポートの額

（単位：百万円）

区分	令和2年度			令和3年度		
	適格金融 資産担保	保証	クレジット・ デリバティブ	適格金融 資産担保	保証	クレジット・ デリバティブ
地方公共団体金融機関向け	—	—	—	—	—	—
我が国の政府関係機関向け	—	—	—	—	—	—
地方三公社向け	—	—	—	—	—	—
金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け	—	—	—	—	—	—
法人等向け	—	—	—	—	—	—
中小企業等向け及び個人向け	136	1,470	—	102	1,379	—
抵当権付住宅ローン	—	—	—	—	—	—
不動産取得等事業向け	—	—	—	—	—	—
三ヶ月以上延滞等	—	—	—	—	—	—
証券化	—	—	—	—	—	—
上記以外	176	3	—	170	6	—
合計	312	1,473	—	272	1,385	—

- （注） 1. 「エクスポート」とは、リスクにさらされている資産（オフ・バランスを含む）のことをいい、主なものとしては貸出金や有価証券等が該当します。  
 2. 「三ヶ月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3ヶ月以上延滞しているエクスポートのことです。  
 3. 「証券化（証券化エクスポート）」とは、原資産にかかる信用リスクを優先劣後構造のある二以上のエクスポートに階層化し、その一部または全部を第三者に移転する性質を有する取引にかかるエクスポートのことです。  
 4. 「上記以外」には、現金・外国の中央政府及び中央銀行向け・国際決済銀行等向け・外国の中央政府等以外の公共部門向け・国際開発銀行向け・取立未済手形・未決済取引・その他の資産（固定資産等）が含まれます。  
 5. 「クレジット・デリバティブ」とは、第三者（参照組織）の信用リスクを対象に、信用リスクを回避したい者（プロテクションの買い手）と信用リスクを取得したい者（プロテクションの売り手）との間で契約を結び、参照組織に信用事由（延滞・破産など）が発生した場合にプロテクションの買い手が売り手から契約に基づく一定金額を受領する取引をいいます。

#### (5) 派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項（連結）

該当する取引はありません。

#### (6) 証券化エクスポートに関する事項（連結）

該当する取引はありません。

## (7) オペレーショナル・リスクに関する事項（連結）

### オペレーショナル・リスクに関するリスク管理の方針及び手続の概要

連結グループにかかるオペレーショナル・リスク管理は、子会社においてはJAのリスク管理及びその手続に準じたリスク管理を行っています。また、関連会社については、これらに準じたリスク管理態勢を構築しています。JAのリスク管理の方針及び手続等の具体的な内容は、単体の開示内容（P.10「リスク管理の状況」）をご参照ください。

## (8) 出資等エクスポージャーに関する事項（連結）

### ① 出資等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

連結グループにかかる出資等エクスポージャーに関するリスク管理は、子会社においてはJAのリスク管理及びその手続に準じたリスク管理を行っています。また、関連会社についても、子会社に準じたリスク管理態勢を構築しています。JAのリスク管理の方針及び手続等の具体的な内容は、単体の開示内容（P.10「リスク管理の状況」）をご参照ください。

### ② 出資等エクspoージャーの貸借対照表計上額及び時価

（単位：百万円）

	令和2年度		令和3年度	
	貸借対照表 計上額	時価評価額	貸借対照表 計上額	時価評価額
上 場	－	－	－	－
非上場	10,958	10,958	10,927	10,927
合 計	10,958	10,958	10,927	10,927

（注）「時価評価額」は、時価のあるものは時価、時価のないものは貸借対照表計上額の合計額です。

### ③ 出資等エクspoージャーの売却及び償却に伴う損益

（単位：百万円）

令和2年度			令和3年度		
売却益	売却損	償却額	売却益	売却損	償却額
－	－	－	－	－	－

### ④ 連結貸借対照表で認識され、連結損益計算書で認識されない評価損益の額（保有目的区分をその他有価証券としている株式・出資の評価損益等）

（単位：百万円）

令和2年度		令和3年度	
評価益	評価損	評価益	評価損
－	－	－	－

⑤ 貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額（子会社・関連会社株式の評価損益等）

該当する取引はありません。

(9) リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項(連結)

該当する取引はありません。

(10) 金利リスクに関する事項(連結)

① 金利リスクの算定手法の概要

連結グループの金利リスクの算定手法は、JAの金利リスクの算定手法に準じた方法により行っています。JAの金利リスクの算定手法は、単体の開示内容（P.10「リスク管理の状況」）をご参照ください。

② 金利リスクに関する事項

(単位：百万円)

IRRBB 1：金利リスク		△ EVE		△ NII	
項目番号		当期末	前期末	当期末	前期末
1	上方パラレルシフト	0	190	16	50
2	下方パラレルシフト	0	△ 202	0	0
3	ステイープ化	270	0		
4	フラット化	0	0		
5	短期金利上昇	0	0		
6	短期金利低下	10	0		
7	最大値	270	449		
8 自己資本の額		当期末		前期末	
		10,722		10,436	

### 3. 財務諸表の正確性等にかかる確認

#### 確 認 書

- 1 私は、当JAの令和3年4月1日から令和4年3月31日までの事業年度にかかるディスクロージャー誌に記載した内容のうち、財務諸表作成に関するすべての重要な点において、農業協同組合法施行規則に基づき適正に表示されていることを確認いたしました。
- 2 この確認を行うに当たり、財務諸表が適正に作成されている以下の体制が整備され、有効に機能していることを確認しております。
  - (1) 業務分掌と所管部署が明確化され、各部署が適切に業務を遂行する体制が整備されております。
  - (2) 業務の実施部署から独立した内部監査部門が内部管理体制の適切性・有効性を検証しており、重要な事項については理事会等に適切に報告されております。
  - (3) 重要な経営情報については、理事会等へ適切に付議・報告されております。

令和4年7月12日

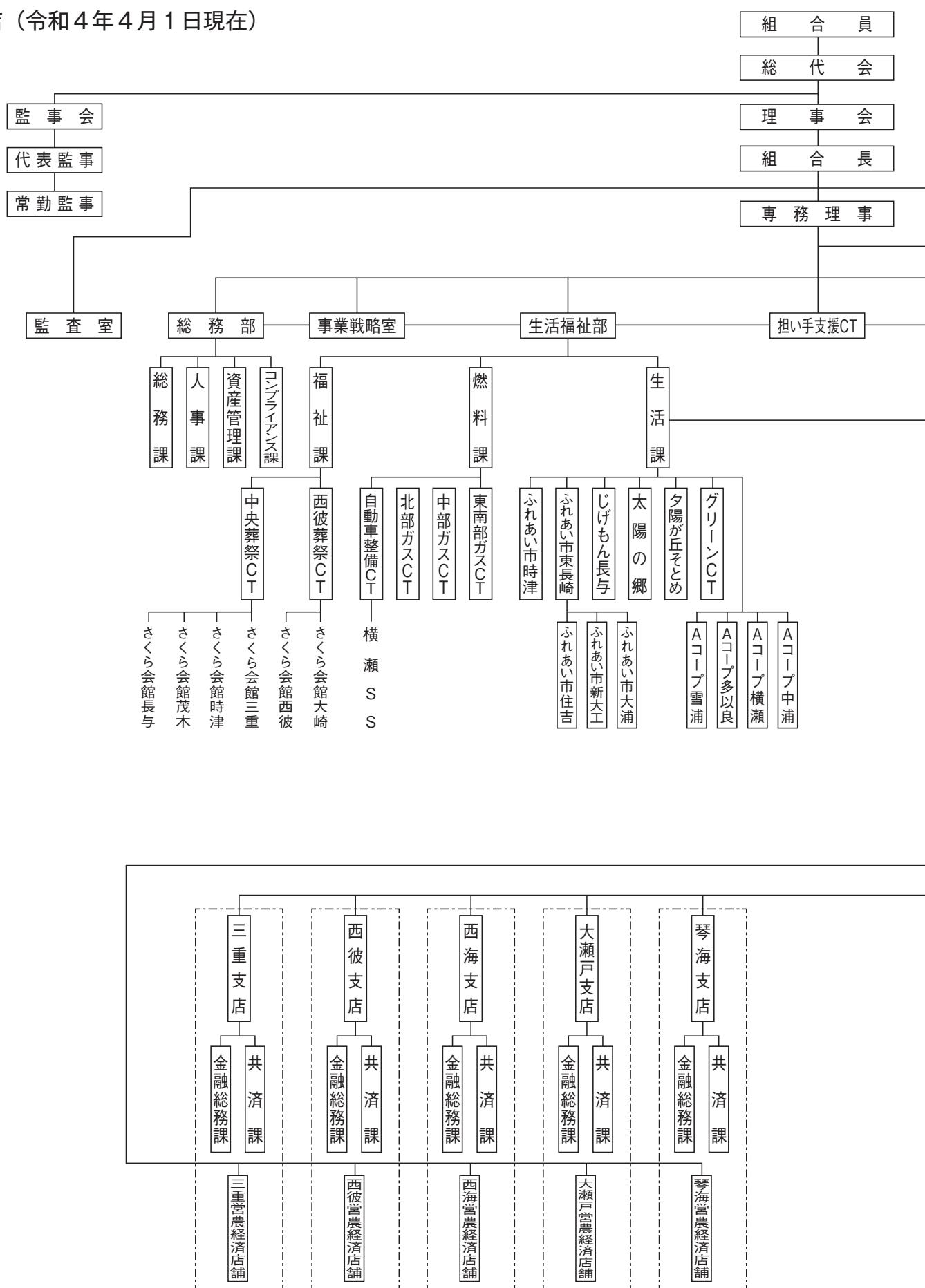
長崎西彼農業協同組合

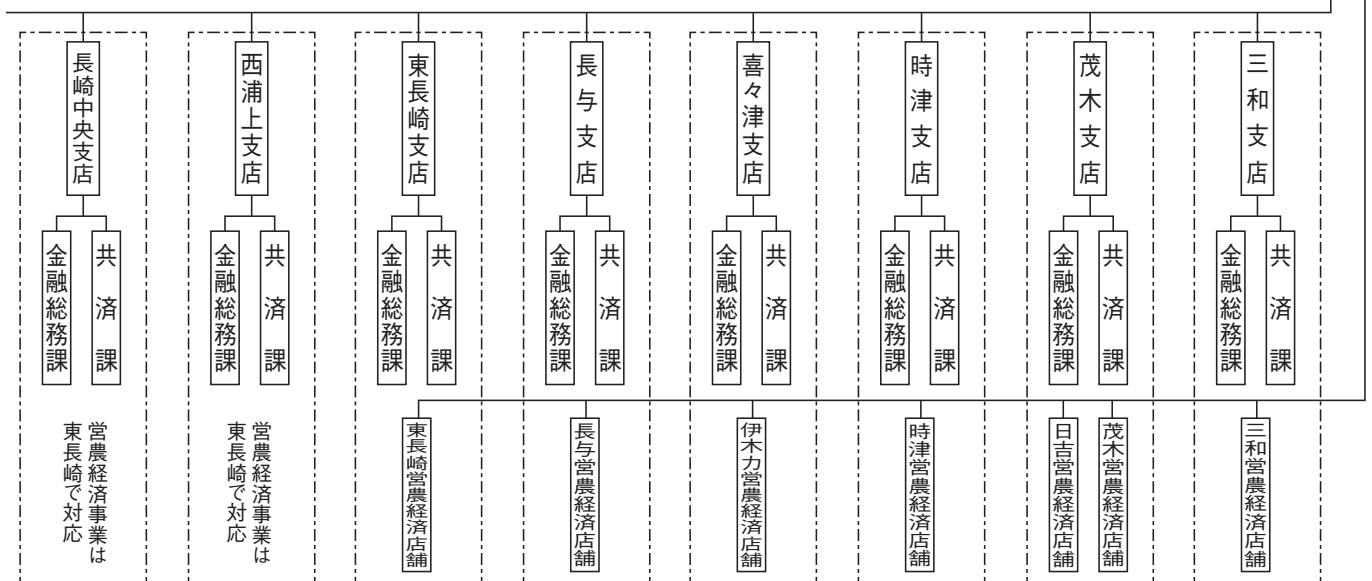
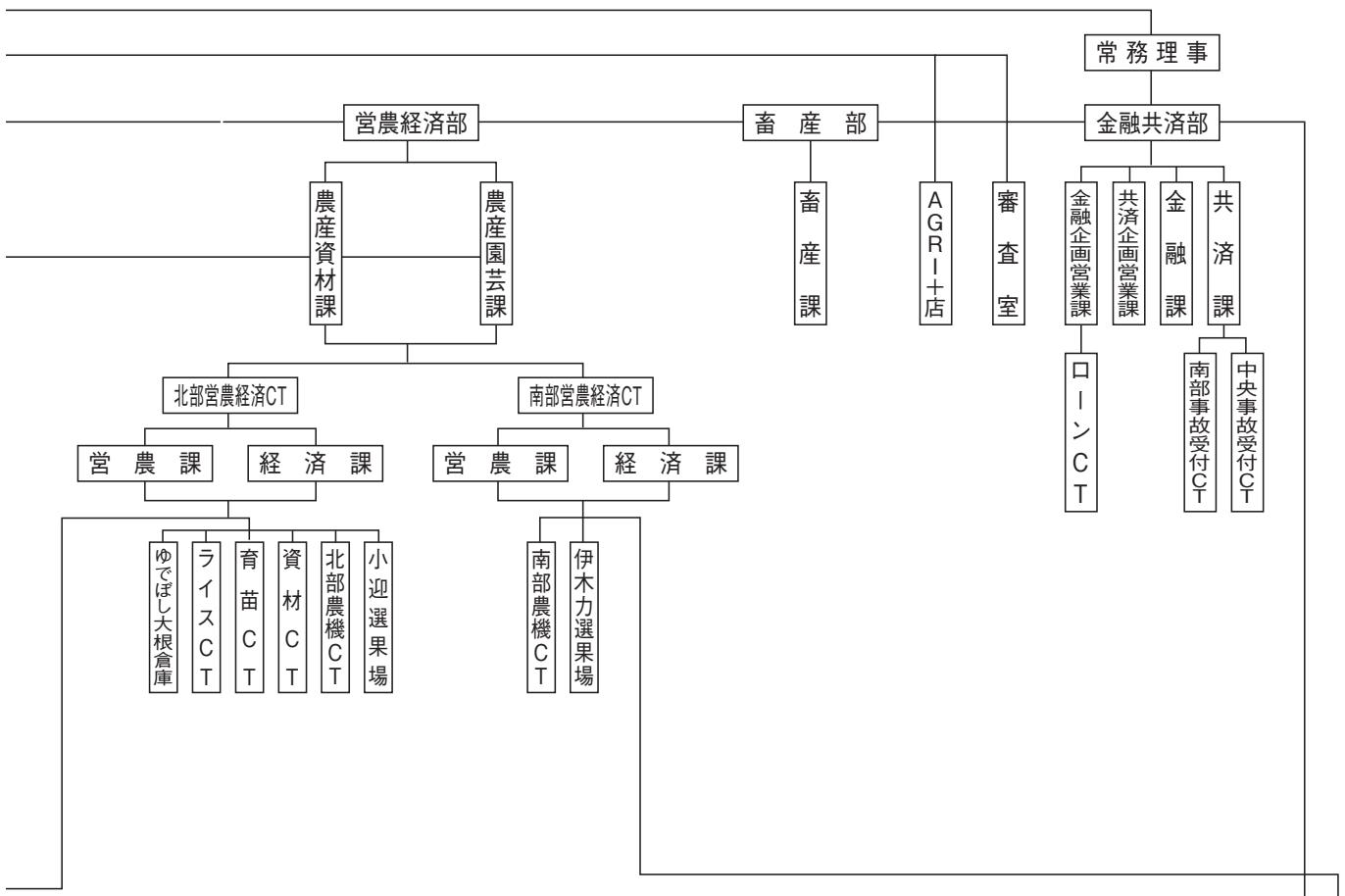
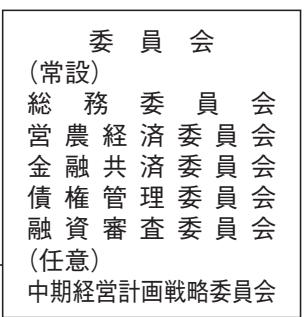
代表理事組合長 山川重幸

# 【JAの概要】

## 1. 機構図

本店（令和4年4月1日現在）





## 2. 役員構成（役員一覧）

（令和4年3月31日現在）

役 員	氏 名	役 員	氏 名
代表理事組合長	山 川 重 幸	理 事	原 口 博 行
代表理事専務	中 川 一 範	〃	久 松 保 雄
常 務 理 事	田 中 八 夫	〃	平 清 治
理 事	井 川 義 英	〃	松 野 栄 松
〃	太 田 尚 臣	〃	満 浦 孝 一
〃	河 本 光 晴	〃	森 山 伸 兒
〃	城 戸 セツ子	〃	山 崎 繁 好
〃	熊 本 昭 憲	〃	若 杉 義 文
〃	高 石 絹 子	〃	若 松 春 美
〃	高 尾 公 秀	代 表 監 事	福 浦 敏
〃	谷 口 謙 太 郎	常 勤 監 事	田 中 瞳 実
〃	橋 口 聰	監 事	小 野 繁 博
〃	林 田 耕 一	〃	上 島 肇 紀
〃	葉 山 諭	〃	鶴 田 安 明
〃	原 口 恵 子	員 外 監 事	赤 羽 耕 介

### 3. 会計監査人の名称

みのり監査法人（令和4年3月現在）

所在地 東京都港区芝5-29-11 G-BASE 田町14階（本部）  
長崎県長崎市出島町1-20（長崎オフィス）

### 4. 組合員数

（単位：人、団体）

区分	令和2年度	令和3年度	増減
正組合員	8,869	8,525	△344
個人	8,827	8,483	△344
法人	42	42	0
准組合員	21,629	20,962	△667
個人	21,542	20,874	△668
法人・団体等	87	88	1
合計	30,498	29,487	△1,011

## 5. 組合員組織の状況

(単位：人)

組織名	構成員数
<b>本店</b>	
長崎西彼柑橘部会	908
長崎西彼いちご部会	109
長崎西彼アスパラガス部会	60
長崎西彼農協生姜部会	38
長崎西彼肥育牛部会	20
長崎西彼繁殖牛部会	24
長崎西彼養豚部会	4
長崎西彼養鶏部会	3
年金友の会	8,410
女性部	765
青年組織協議会	82
JA 長崎せいひ代行記帳会	185
<b>長崎地区</b>	
長崎びわ部会	419
長崎ハウスびわ部会	69
長崎地区肥育牛部会	8
太陽の郷出荷協議会	123
道の駅夕陽が丘そとめ直売者連絡協議会	190
長崎青色申告会	1,383
<b>大西海地区</b>	
大西海びわ部会	36
大西海ぶどう部会	11
大西海稲作部会	300
大西海馬鈴薯部会	17
西海支店ゆでほし大根部会	14
大西海木の芽部会	14
大西海プロッコリー部会	58
大西海南瓜部会	21
大西海花卉部会	13
大西海地区肥育牛部会	12
グリーンセンター直売所出荷協議会	679
大西海青色申告会	159
<b>ことのうみ地区</b>	
ことのうみびわ部会	19
ことのうみハウス桃部会	4
ことのうみミニトマト部会	9
ことのうみ花き部会	11
じげもん長与直売所協議会	318
<b>東長崎地区</b>	
東長崎地区ぶどう部会	15
東長崎アスパラガス部会	6
東長崎たけのこ部会	8

組織名	構成員数
東長崎地区菊部会	5
東長崎地区ふれあい市部会	432
東長崎地区生姜部会	32
<b>支店別</b>	
茂木支店ハウスモモ部会	4
茂木支店梨部会	14
茂木支店筍部会	20
周年菊部会	8
三和花卉部会	8
野母崎花卉部会	8
西彼支店青年部	23
西彼とまと部会	10
大瀬戸野菜部会	32
喜々津支店野菜部会	12
キウイフルーツ部会喜々津部会	4
伊木力みかん青年部	0
長与いちじく部会	9
キウイ部会長与部会	4
長与町農業後継者協議会	16
長与支店青色申告会	240
ぶどう部会時津部会	37
時津ふれあい市場部会	179
時津支店青年部	9
琴海青壯年部	33
外海地区ゆうこう振興会	19
外海ぶどう部会	12
<b>計</b>	<b>15,694</b>

※支部部会は除く

## 6. 特定信用事業代理業者の状況

(令和4年3月現在)

区分	氏名又は名称 (商号)	主たる事務所の所在地	代理店行を営む営業者 又は事業所の所在地
特定信用事業代理業者			

## 7. 地区一覧

長崎市、西海市、諫早市多良見町、長与町、時津町

## 8. 沿革・あゆみ

S23.	滑石・式見・茂木町・太田尾・戸石・古賀・為石・川原・高浜村・三重村、合計10農協設立	S23.8 伊木力農協・大草農協設立 S41.3 伊木力・大草農協が合併し、多良見町農協設立	S23.8 長崎市農協設立 H12.4 東長崎農協と合併 ----- S23.8 矢上村農協設立 S30.5 東長崎町農協に名称変更 S57.6 東長崎農業協同組合へ名称変更
S48.3	管内10農協が合併し、長崎農協設立	S23.6 喜々津農協設立	-----
S23.5	神浦農協・黒崎農協設立	S23.8 長与村農協設立	-----
S50.6	神浦・黒崎農協が合併し、外海町農協設立	S23. 長浦村農協・村松村農協設立	-----
H10.4	長崎農協と合併	S39.3 長浦村・村松村農協が合併し、琴海村農協設立	-----
S23.	亀岳村・大串村・瀬戸町・松島村・多以良村・雪浦村・瀬川村・面高村・七釜村・大島村・大島郷・平島・崎戸・江ノ島農協設立	H11.4 多良見町・喜々津・長与町・琴海町農協が合併し、ことのうみ農業協同組合設立	-----
S47.8	西彼町・瀬川・面高・七釜・大瀬戸・大島町・大島郷・崎戸町農協が合併し、大西海農協設立	S23.5 時津村農協・日並農協設立 S32.3 時津町・日並農協が合併し、時津町農協設立	-----
H15.4	長崎農協・大西海農協が合併し、大長崎農業協同組合設立	H15.4 ことのうみ農協と合併	-----
H17.4	大長崎農業協同組合・ことのうみ農業協同組合・東長崎農業協同組合が合併し、「長崎西彼農業協同組合」が誕生し現在に至る。		

## 9. 店舗等のご案内

(令和4年3月31日現在)

店舗及び事務所名	住 所	電 話 番 号	(自動現金化機器) 設置・稼働状況区分
茂木支店	長崎市茂木町1590-120	095-836-0500	A
三和支店	長崎市川原町251	095-892-0008	-
三重支店	長崎市三重町423	095-850-2131	-
西彼支店	西海市西彼町喰場郷736-1	0959-27-0002	A
西海支店	西海市西海町木場郷1612-1	0959-32-1211	A
大瀬戸支店	西海市大瀬戸町瀬戸樫浦郷2278-66	0959-22-0030	A
長与支店	西彼杵郡長与町吉無田郷411-6	095-883-2111	A
喜々津支店	諫早市多良見町囲448	0957-43-1123	A
琴海支店	長崎市長浦町2756-1	095-885-2211	A
時津支店	西彼杵郡時津町浦郷260-10	095-882-2011	A
東長崎支店	長崎市矢上町1-17	095-839-1115	A
西浦上支店	長崎市花丘町1-27	095-848-3001	A
長崎中央支店	長崎市興善町6-7	095-828-0111	A

\*為替取扱い店舗を記載しております。

## 10. ATM のご案内

(令和4年3月31日現在)

店舗及 コーナー名	区分	設置場所	店舗及 コーナー名	区分	設置場所
茂木支店	A	長崎市茂木町 1590-120	伊木力 ATMコーナー	A	諫早市多良見町 舟津 638-1
日吉 ATMコーナー	A	長崎市飯香浦町 3483-1	琴海支店	A	長崎市長浦町 2756-1
三和 ATMコーナー	A	長崎市為石町 2524	村松 ATMコーナー	A	長崎市琴海村松町 718-1
出津 ATMコーナー	A	長崎市西出津町 2923	形上 ATMコーナー	A	長崎市琴海形上町 1849-5
式見 ATMコーナー	A	長崎市式見町 200-1	時津支店	A	西彼杵郡時津町 浦郷 260-10
滑石ショッピングセンター ATMコーナー	B	長崎市滑石 5丁目 1-22	日並 ATMコーナー	A	西彼杵郡時津町 日並郷 2217
西彼支店	A	西海市西彼町 喰場郷 736-1	東長崎支店	A	長崎市矢上町 1-17
小迎 ATMコーナー	A	西海市西彼町 小迎郷 2819-1	西浦上支店	A	長崎市花丘町 1-27
西海支店	A	西海市西海町 木場郷 1612-1	長崎中央支店	A	長崎市興善町 6-7
太田和 ATMコーナー	A	西海市西海町 太田和郷 3238	大浦 ATMコーナー	A	長崎市大浦東町 2-12
大瀬戸支店	A	西海市大瀬戸町 瀬戸櫻浦郷 2278-66	長崎県JA会館 ATMコーナー	C	長崎市出島町 1-20
嬉里 ATMコーナー	A	西彼杵郡長与町 嬉里郷 1106	AGRI+ ATMコーナー	A	長崎市元船町 5-27-101
長与支店	A	西彼杵郡長与町 吉無田郷 411-6	新大工 ATMコーナー	A	長崎市桜馬場 1-1-4
喜々津支店	A	諫早市多良見町囲 448			

\* 1/3 及び 5/4 は、システム休止のため全 ATM が運休となります。

区分	平日	土曜・日曜・祝日・12/31
A	8:00 ~ 21:00	
B	8:45 ~ 19:00	9:00 ~ 19:00
C	8:45 ~ 18:00	運休

## ＜組合単体開示項目 農業協同組合施行規則第204条関係＞

開示項目	ページ
<b>●概況及び組織に関する事項</b>	
○業務の運営の組織	104
○理事、経営管理委員及び監事の氏名及び役職名	106
○会計監査人設置組合にあっては、会計監査人の氏名又は名称	107
○事務所の名称及び所在地	110
○特定信用事業代理業者に関する事項	109
<b>●主要な業務の内容</b>	
○主要な業務の内容	15~22
<b>●主要な業務に関する事項</b>	
○直近の事業年度における事業の概況	3
○直近の5事業年度における主要な業務の状況	50
・経常収益（事業の区分ごとの事業収益及びその合計）	50
・経常利益又は経常損失	50
・当期剰余金又は当期損失金	50
・出資金及び出資口数	50
・純資産額	50
・総資産額	50
・貯金等残高	50
・貸出金残高	50
・有価証券残高	50
・単体自己資本比率	50
・剰余金の配当の金額	50
・職員数	50
○直近の2事業年度における事業の状況	
◇主要な業務の状況を示す指標	
・事業粗収益、事業粗利益率、事業純益、実質事業純益、コア事業純益及びコア事業純益(投資信託解約損益を除く。)	50
・資金運用収支、役務取引等収支及びその他事業収支	50
・資金運用勘定及び資金調達勘定の平均残高、利息、利回り及び総資金利ざや	51
・受取利息及び支払利息の増減	51
・総資産経常利益率及び資本経常利益率	64
・総資産当期純利益率及び資本当期純利益率	64
◇貯金に関する指標	
・流動性貯金、定期性貯金、譲渡性貯金その他の貯金の平均残高	52
・固定金利定期貯金、変動金利定期貯金及びその他の区分ごとの定期貯金の残高	52
◇貸出金等に関する指標	
・手形貸付、証書貸付、当座貸越及び割引手形の平均残高	52
・固定金利及び変動金利の区分ごとの貸出金の残高	53

開示項目	ページ
<b>●担保の種類別（貯金等、有価証券、動産、不動産その他担保物、農業信用基金協会保証、その他保証及び信用の区分をいう。）の貸出金残高及び債務保証見返額</b>	53
●使途別（設備資金及び運転資金の区分をいう。）の貸出金残高	53
●主要な農業関係の貸出金残高	54
●業種別の貸出金残高及び当該貸出金残高の貸出金の総額に対する割合	54
●貯貸率の期末値及び期中平均値	64
◇有価証券に関する指標	59
・商品有価証券の種類別（商品国債、商品地方債及び商品政府保証債の区分をいう。）の平均残高	59
・有価証券の種類別（国債、地方債、短期社債、社債、株式、外国債券及び外国株式その他の証券の区分をいう。次号において同じ。）の残存期間別の残高	59
・有価証券の種類別の平均残高	59
・貯証率の期末値及び期中平均値	64
<b>●業務の運営に関する事項</b>	
○リスク管理の体制	10~14
○法令遵守の体制	12
○中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取り組み状況	10
○苦情処理措置及び紛争解決措置の内容	13
<b>●組合の直近の2事業年度における財産の状況</b>	
○貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分計算書又は損失金処理計算書	24~46
○貸出金のうち次に掲げるものの額及びその合計額	
・破綻先債権に該当する貸出金	56
・延滞債権に該当する貸出金	56
・3ヶ月以上延滞債権に該当する貸出金	56
・貸出条件緩和債権に該当する貸出金	56
○元本補てん契約のある信託に係る貸出金のうち破綻先債権、延滞債権、3ヶ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権に該当するものの額ならびにその合計額	56
○自己資本の充実の状況	14.67~77
○次に掲げるものに関する取得価額又は契約価額、時価及び評価損益	
・有価証券	59
・金銭の信託	59
・デリバティブ取引	59
・金融等デリバティブ取引	59
・有価証券店頭デリバティブ取引	59
○貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額	57
○貸出金償却の額	57
○会計監査人設置組合にあっては、法第37条の2第3項の規定に基づき会計監査人の監査を受けている旨	49

## ＜連結（組合及び子会社等）に関する開示項目

開示項目	ページ
<b>●組合及びその子会社等の概況</b>	
○組合及びその子会社等の主要な事業の内容及び組織の構成	79
<b>○組合の子会社等に関する事項</b>	
・名称	79
・主たる営業所又は事務所の所在地	79
・資本金又は出資金	79
・事業の内容	79
・設立年月日	79
・組合が有する子会社等の議決権の総株主、総社員又は総出資者の議決権に占める割合	79
・組合の1の子会社等以外の子会社等が有する当該1の子会社等の議決権の総株主、総社員又は総出資者の議決権に占める割合	79
<b>●組合及びその子会社等の主要な業務につき連結したもの</b>	
○直近の事業年度における事業の概況	80

開示項目	ページ
<b>○直近の5連結会計年度における主要な業務の状況</b>	
・経常収益（事業の区分ごとの事業収益及びその合計）	81
・経常利益又は経常損失	81
・当期利益又は当期損失	81
・純資産額	81
・総資産額	81
・連結自己資本比率	81
<b>○直近の2連結会計年度における財産の状況につき連結したもの</b>	
○貸借対照表、損益計算書及び剰余金計算書	82~85
○貸出金のうち次に掲げるものの額及びその合計額	
・破綻先債権に該当する貸出金	90
・延滞債権に該当する貸出金	90
・3ヶ月以上延滞債権に該当する貸出金	90
・貸出条件緩和債権に該当する貸出金	90
○自己資本の充実の状況	91~102
○事業の種類ごとの事業収益の額、経常利益又は経常損失の額及び資産の額として算出したもの	91

## <自己資本の充実の状況に関する開示項目>

●単体における事業年度の開示事項		ページ
○自己資本の構成に関する開示事項		66～67
○定性的開示事項		
・自己資本調達手段の概要		14
・組合の自己資本の充実度に関する評価方法の概要		14
・信用リスクに関する事項		10、68
・信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要		73
・派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関するリスク管理の方針及び手続の概要		74
・証券化エクスボージャーに関する事項		74
・オペレーション・リスクに関する事項		11
・出資その他これに類するエクスボージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要		74
・金利リスクに関する事項		76～77
○定量的開示事項		
・自己資本の充実度に関する事項		68～69
・信用リスクに関する事項		70～71
・信用リスク削減手法に関する事項		73
・派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項		74
・証券化エクスボージャーに関する事項		74
・出資その他これに類するエクスボージャーに関する事項		74
・信用リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスボージャーの区分ごとの額		75
・金利リスクに関する事項		76
●連結における事業年度の開示事項		ページ
○自己資本の構成に関する開示事項		92～93
○定性的開示事項		
・連結の範囲に関する事項		79～80
・自己資本調達手段の概要		91
・連結グループの自己資本の充実度に関する評価方法の概要		91
・信用リスクに関する事項		96
・信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要		100
・派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関するリスク管理の方針及び手続の概要		100
・証券化エクスボージャーに関する事項		100
・オペレーション・リスクに関する事項		101
・出資その他これに類するエクスボージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要		101
・金利リスクに関する事項		102
○定量的開示事項		
・その他金融機関等であって組合の子法人等であるもののうち、規制上の所要自己資本を下回った会社の名称と所要自己資本を下回った額の総額		92
・自己資本の充実度に関する事項		94
・信用リスクに関する事項		96～99
・信用リスク削減手法に関する事項		100
・派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項		100
・証券化エクスボージャーに関する事項		100
・出資又は株式等エクスボージャーに関する事項		101
・信用リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスボージャーの区分ごとの額		102
・金利リスクに関する事項		102







## JA長崎せいひのシンボルマーク

農民の祈りから始まった雨をもたらす「龍」。豊かな農業を育む「太陽」。つまり農業に不可欠な2つの形をシンボライズしたのがこのマークです。

特に龍は「NAGASAKI」のNを龍頭にし、「SEIHI」のSは龍体へと変形させ、動きのある伸び伸びとしたデザインにしております。

### ①グリーンセンター

〒851-3422 西海市西彼町小迎郷2819-1  
TEL 095-29-7090



### ②道の駅 夕陽が丘そとめ

〒851-2327 長崎市東出津町149番地2  
TEL 095-25-1430



### ③じげもん長与

〒850-2126 西彼杵郡長与町嬉里郷1106番地  
TEL 095-883-4409



### ④ふれあい市時津店

〒851-2105 西彼杵郡時津町浦郷260-10  
TEL 095-881-2476



### ⑤ふれあい市住吉店

〒852-8154 長崎市住吉町13番地4  
TEL 095-845-8223



### ⑥ふれあい市東長崎店

〒851-0133 長崎市矢上町1番17号  
TEL 095-839-1571



### ⑦ふれあい市新大工店

〒851-0015 長崎市桜馬場1丁目2-27  
TEL 095-825-1307



### ⑧ふれあい市大浦店

〒850-0916 長崎市大浦東町2番12号  
TEL 095-820-2552



### ⑨太陽の郷

〒850-0823 長崎市弥生町20-30  
TEL 095-832-6780

